ISSN 1343−439X

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第5号

全日本大学ソフトボール連盟

MIZUNO®
THE WORLD OF SPORTS

挑んできた、闘いがちがう。

その妥協なきテクノロジーは、
あくまでも打球を飛ばすことを
追求して生まれた。
バット壁面の薄肉化と強靭さを
高次元で両立。
全日本ナショナルチームの攻撃力を
支える二重管構造〈DWスプリング〉。
生まれ変わったミズノプロから、
史上最強のラインアップで新登場。

DW-SPRING

MizunoPro
MAJOR QUALITY

[NEW]
〈ミズノプロ〉DW-SPRING ¥30,000（革・ゴムボール用）
2TO-70040（84cm・平均740g）・ボトル型
（84cm・平均780g）・ボトル型・平行部ロングモデル
2TO-70050（85cm・平均820g）・ボトル型
2TO-70140（84cm・平均740g）・セミボトル型

〈ミズノプロ〉DW-SPRING ¥28,000（ゴムボール用）
2TO-70240（84cm・平均670g）・ボトル型

Ballpark ネットで交流。野球・ソフトボールファンの
ホームグラウンド、ミズノボールパークへは
www.mizunoballpark.com

スポーツがはじまる。スポーツがはじまる。全国共通スポーツ券

●記載価格はすべて税抜き価格です。●ミズノ製品については――――「ミズノお客様相談センター」
東京TEL.(03)3233-7110 FAX.(03)3233-7217 大阪TEL.(06)6614-8110 FAX.(06)6614-8463

選手強化キャンペーン
JOC P-001

全日本大学ソフトボール連盟

「ウインドミル」第５号の発刊によせて

ごあいさつ

全日本大学ソフトボール連盟会長
大　内　敬　哉

学連機関誌「**ウインドミル**」の第５号の発刊にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

「ウインドミル」は、学連の発展充実は、各部ブックの活性化にあり、どんな小さな情報であっても、学連の加盟校には報告することが必要である、という主旨で1997年に初めて発刊されたのであります。まだ５号ではありますが、号を重ねるたびに、只単にゲームの記録を残すのみでなく、ソフトボールに関する貴重な論文・技術論や研究分野の機関誌として、学連にとって大きな役割を果たすようになりました。これは編集にご尽力いただいている諸先生、またご投稿いただきました皆々様のご協力によるものであり、心より感謝申し上げます。

さて、第４号の「大学ソフトボール男子選手の試合姿勢」において、ここ数年の男子のゲームにおける試合態度についてのご提言がありました。さらにこの問題については、理事長よりも機会あるごとに指摘されております。私もこの問題については、心配も致しておりました。本年第36回の選手権大会（茨城県下妻市）で、最終日の準決勝・決勝戦を見ましたが、今年の準決勝戦に進出した４チームはいずれもすばらしいチームでした。特に決勝のゲームは感動さえ覚えました。それは私ばかりでなく、観衆の皆さんや報道の方々にも同様であったと確信致します。胸を張って閉会式に立つことができました。このように小さなことではありますが、学連は一歩ずつ前進しております。この「**ウインドミル**」が日本ばかりでなく、国際的にもソフトボールの情報発信基地としてのさらなる発展を祈念いたしております。

ウインドミル　第５号

目　　次

ごあいさつ●「ウインドミル」第５号発刊によせて …… 1
会長　大内敬哉
〔巻 頭 言〕●21世紀の大学ソフトボールと学連の課題 …… 4
副理事長　水谷　博
〔事業報告〕●平成13年度の事業報告と今後の課題 …… 5
理事長　末井健作
〔特別寄稿〕●ソフトボールへの思い　～大学のプレーヤー達に～ …… 6
三宅　豊
〔特別寄稿〕●大学男子ソフトボールの先輩より後輩へ …… 8
長澤宏行
〔卒業論文〕●大学女子ソフトボールの直球打撃における
ボールとバットの衝突現象 …… 10
松本陽子・飯本雄二
〔研究紹介〕●夏期ソフトボール練習及び試合時の環境温度と水負債、
体温上昇量及び運動量からみた生体負担度について …… 14
朝山正己・森　悟
〔報　　告〕●男子選抜チームニュージーランド遠征計画 …… 24

全国大会の記録●文部大臣杯第36回全日本大学男子選手権大会 …… 26
●文部大臣杯第36回全日本大学女子選手権大会 …… 39
●第７回全日本女子短期大学大会 …… 52
●第16回東日本大学選手権大会 …… 54
●第33回西日本大学選手権大会 …… 57
●第47回全日本総合男子選手権大会 …… 62
●第52回全日本総合女子選手権大会 …… 63

各地区の大会結果●北海道・東北地区　春季大会 …… 64
秋季大会 …… 66
●関東地区　春季大会 …… 68
秋季大会 …… 71
●北信越地区　春季大会 …… 73
秋季大会 …… 74
●東京地区　春季大会 …… 75
秋季大会 …… 78
●東海地区　春季大会 …… 80
秋季大会 …… 84
●近畿地区　春季大会 …… 88
秋季大会 …… 97
●中国地区　春季大会 …… 105
秋季大会 …… 106
●四国地区　春季大会 …… 108
秋季大会 …… 110
●九州地区　春季大会 …… 112
秋季大会 …… 113
調査・研究委員会から●第５号について …… 115
●投稿規定・執筆要項 …… 116
広報・記録委員会から●全日本大学ソフトボール連盟表彰と訃報 …… 117
●原口先生、ありがとうございました。
亀吉里佳 …… 118
●全日本大学ソフトボール東海オープンの開催について …… 119
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿 …… 122
●平成13年度全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿 …… 125
●平成13年度加盟大学一覧 …… 126

編集後記 …… 128

【巻頭言】　２１世紀の大学ソフトボール

副理事長　水　谷　博

「気がつけば21世紀」、どこかで聞いた言葉です。しかし、大学ソフトボール界は、確実に変化しています。今年から東西対抗は開催されなくなりましたが、関東、中国および九州地区において、これまで開催されていなかった秋季大会が初めて開催されました。これで、学連加盟全９ブロックで秋季大会が開催されるようになったわけです。また、来年３月には、本学連が初めて後援するオープン大会が東海地区で開催されることになっています。さらに、全日本短期大学大会は形を変えて愛媛県宇和島市での開催の予定です。

一方、競技成績では、インカレにおいては男子の日本体育大学と女子の東京体育大学の連続優勝がここ数年続いています。総合選手権における大学チームの成績は、ここしばらくあまり芳しくありません。以前には、総合選手権で大学チームが優勝することもありましたが、日本リーグの隆盛とともに、大学チームは上位進出はもとより、総合選手権に出場することすら困難な状況が続いています。これらのことは、一見すると大学チームの競技力の低下を意味しているようにも思われますが、全日本チームにはかなりの現役やＯＢ・ＯＧの選手を排出していることから、決してそうではないようです。これまで、日本のソフトボール界を牽引してきた原動力である前記２大学に選手が集中しなくなったからではないでしょうか。西日本地区では、男女とも勢力地図に大きな変化がすでに現れていますし、東日本地区でもその萌芽が認められます。

ところで、1988年から文部大臣認定の「地域スポーツ指導者」の養成が開始され、(財)日本ソフトボール協会ではこの養成専門科目のカリキュラムに準拠した「ソフトボール指導教本」を1998年に刊行しました。この執筆者に学連関係者も含まれています。また、各地で開催されるようになった養成講習会には、学連関係者が積極的に関与しています。指導者養成における学連の果たすべき役割は非常に大きいといえます。

このように見てきますと、21世紀のソフトボール界は、競技力の向上は、日本リーグを中心とする実業団・クラブチームで、普及・指導者養成は大学で、というような役割の分担が浮かんできます。しかしながら、競技力の向上と普及は全く異なった方向を示しているように思われますが、高い山はそのすそ野を大きく広げており、普及なくして競技力の向上はあり得ないし、競技力の向上があって普及も進みます。この方向の異なったベクトルを統一的に推進していくことこそが学連に課せられた大きな使命と考えられます。目前の試合に勝利することも重要ですが、それ以上に学連の構成員すべては、数年間という短い在籍期間に拘わらず、５年先10年先さらにはこの世紀を見据えて、ソフトボールの普及と競技力の向上に寄与していただけるものと確信しています。

【事業報告】平成13年度の事業報告と今後の課題

理事長　末　井　健　作

平成13年度の本連盟の事業は、８月の文部科学大臣杯第36回全日本大学ソフトボール選手権大会（茨城県下妻市、古河市）およびび第７回全日本女子短期大学ソフトボール大会（東京都日野市、明星大学）と関係各位のご協力をいただき成功裡に終えることができました。大会運営に携わっていただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。後援いたしました第16回東日本、第32回西日本大学選手権大会には、多くの加盟大学が出場し、年々盛り上がりを感じさせております。また、各地区の学連主管による歴史と伝統のあるリーグ戦はもとより、新たに新人大会やオープン大会を開催していただき、選手諸君にとって大きな励みとなることでしょう。今後の全日本大学ソフトボール連盟の方向を示しているように思います。来年度の各種大会が、さらに活気溢れる大会になるよう学生の諸君の努力に期待をしています。

全日本女子短期大学大会は、昨年度から会場を東京都日野市明星大学へ移りましたが、東京都学連の学生委員を中心に大会運営がなされました。しかし、参加大学が７大学と大きく減少しました。開催日程に問題があるかとも思いますが、今後、開催について検討する必要があると考えています。

最近、男子の試合において大学生としての品位に欠ける態度が見受けられ、学生委員を中心にモラルを高める活動が展開されています。選手の皆さんは、見ておられる多くの人たちに感動を与える品位ある、そして、気迫溢れる素晴らしいプレイを示さなければなりません。

大学連盟としては、加盟大学の選手諸君が満足できる事業を計画しなければならないと考えています。その一つとして各地区において可能な限り参加しやすいリーグ戦、新人大会、都道府県単位の選手権大会およびブロックを越えたオープン大会等の開催を検討する必要があると思います。また、広報活動をさらに強化することや学生役員の活動等に積極的に取り組まなければならないと考えています。

本年度の事業としての第２回男子ニュージーランド遠征（平成14年２月７日～18日、ウェリントン、オークランド）は、予定通り準備が進められいます。第１回の遠征以上に、その成果が大いに期待されています。ソフトボールを通じて国際交流を深め、日本から文化の発信をしていきたいと思います。

平成14年度の事業がさらに充実した内容で実施出来ますよう、皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

【特別寄稿】　ソフトボールへの思い
～大学のプレーヤー達に～

(財)日本ソフトボール協会技術委員長　三　宅　　豊

大学選手権が36回を数えたという。

私にとっては遠い昔のシーンではあるが、同じ舞台に1970年（第５回大会）から1973年（第８回大会）の４年間、日本体育大学の投手としてマウンドに立っていた頃を思い出します。

高校時代にソフトボールと出会った私は、自分なりの使命感のようなものを持って大学に進みました。それは、「ソフトボールをするのではなく、ソフトボールをつくる」という思いでありました。中学時代を野球部で過ごした私は、高校でソフトボール部に入部。その魅力を知ると共に、競技によって世間の認識・評価はこんなにも変わってしまうものなのかということを味わいました。後に続く者に少しでも歩みやすい道をつくっていきたい、そんな使命感が芽生えた時でした。どの競技でも皆同じ汗を流している。「スポーツに人気の大小、好きと嫌いはあっても差別はない」・「スポーツとはお互いがお互いを認め合うこと」、これが私のスポーツに対する原点であり、本当のスポーツとはそんな心の中に育った精神だと思っています。

高校時代は、「のろい」というイメージを打ち破るために、必死に速いボールを投げることに打ち込んでいました。まだ、群馬では誰もウインドミル投法でボールを投げる人がいない時代でした。ただ、腕を回して投げる投法があるということだけがヒントであり、ボールに全身の力を乗せるためにはどのように踏み出し、どのように腕を回すのが理想的なのか、中指の先に全部の力を集中させるためにはどのようなフォームが理想的なのかということを考え、練習に取り組んでいました。

そして、大学に進んでからはコントロールというものを追求しました。それはどこに投げようと配球を組み立てることができても、そこに投げるコントロールがなくては何にもならないからです。雨の日は、教室で靴の親指の横を擦り削りながら３００球を投げ込む日々が続きました。ベースの上は、ストライクゾーンではない。それは、ヒット・ホームランゾーンであり、皮１枚をかすらせる技術を身に付けることに夢中になっていました。速球を内外角に50球ずつ100球、ライズボール50球、ドロップ50球、チェンジアップ50球、これらを組み合わせて50球投げると、もう３００球なのである。３００球といっても１つの球種を１日たった50球しか投げられないのです。もっと投げたい、でもそれ以上はさすがに腕に負担がかかる。そんな毎日を送り、大学選手権４連覇を果たすことができました。

卒業後は、高校男子ソフトボール部の監督とともに群馬ソフトボールクラブでの二足のわらじを履き、引退するまでの20年間現役生活を続けました。この間一貫して持ち続けたものは「満足な体と十分な技術で常にマウンドに立つ」ということでした。人と人との間は信頼感でつながれている。つまり、当てになるか否かである。そのための自己管理、与えられたポジションへの責任だけは失わなかったつもりです。

そしてもう一つ、ユニフォームを着たときにずっと守っていたことがあります。それは、ソフトボールに対するプライドです。どういうことかと申しますと、「紳士たれ」というこ

とです。一般の人々にソフトボールへの理解を深めるためには、まずユニフォーム姿を美しくするということでした。ですから、会場地において上着のボタンを外し、裾を出して歩いたり、帽子をさかさまにかぶったり、サンダル履きや煙草を吸って歩く（煙草は吸いませんでしたが）ということは、ソフトボールは素晴らしいと観衆が思うのとは対極にあると思っていました。

野次（ヤジ）も同じです。私もよく野次られました。気心しれた相手からのジョークならともかく、グラウンドの外なら喧嘩になるような言葉は言うべきではないと思うし、卑怯だと思っています。私は、野次ってまでも勝ちたい相手と試合をするつもりはありませんでした。もし、そこまでして勝ちたいなら試合放棄して勝ちを譲ってもいいと思っていました。なぜなら、私が練習してきたボールをそんな相手に一球たりとも投げるのはもったいないと思っていたからです。

ソフトボールは、試合をして楽しいのです。相手は敵ではありません。同じ競技に楽しみを見いだした仲間なのです。

さて、大学の選手の皆さん。皆さんは次代のソフトボールを、社会を担っています。商業スポーツやマスコミ偏重の中、スポーツを正しくとらえる目、心を養い、本当のスポーツ文化を育てていって欲しいと思います。幸いなるかな、ソフトボールはスポーツに対して色々なことを教えてくれます。

私は日本協会の役員として、マスコミやＪＯＣに男女でのソフトボールの理解を求めています。日本ソフトボール協会は日本男女ソフトボール協会であり、女子がオリンピックで銀メダルを獲ってもそれはまだ半分の出来事です。オリンピックは、男女で参加が基本精神なのです。競技の普及度によって出場国数に差があっても仕方ないと思います。しかし、競技があるのに参加資格を与えないというのは権利を与えないということですから、オリンピックがスポーツの祭典を唱えるのなら矛盾していることだと思っています。ソフトボールは、女子には女子の魅力、男子には男子の魅力があるのです。互いを認め合うところに繁栄があるのです。後に続く人達の活躍に期待しています。

【編集部註】三宅　豊　氏　略歴

生年月日：昭和26年11月25日（49歳）　群馬県安中市安中

(財)日本ソフトボール協会強化副本部長・技術委員長、群馬県ソフトボール協会副会長、

新島学園高等学校ソフトボール部監督

新島学園高等学校でソフトボールを始め、全国高等学校選手権大会優勝

日本体育大学進学後、全日本大学選手権大会４連覇　国体、日本選手権に優勝

昭和49年卒業後、母校新島学園高等学校に教師として赴任、

同校男子ソフトボール部の監督のかたわら群馬教員ソフトボールクラブに所属

平成５年の引退までに20年間プレーし、171勝26敗、終身防御率0.463

日本選手権・国体・全日本一般男子選手権・全国教員大会等で22回の優勝

この間、全日本チームの投手としてアジア選手権２回(優勝)、世界選手権４回(４位)出場

また、監督としてインターハイ２回優勝・準優勝２回・３位５回

全国選抜大会優勝１回・準優勝２回・３位３回、国体準優勝１回

男子ジュニアナショナルチーム監督として３回世界選手権（３位１回）に出場

【特別寄稿】大学男子ソフトボールの先輩より後輩へ

東海学園大学ソフトボール部
監督　　長　澤　宏　行

「ウインドミル」・・・ソフトボールの代名詞のような名称。この「ウインドミル」への寄稿を広報記録委員長の水谷先生に依頼された時、その名称にぴったりの、大学ソフトボール連盟機関誌に寄稿できることは、私にとって大変に光栄なことです。アトランタオリンピックの経験か、初出場できたインカレの印象を書こうかと考えたのですが、大学男子ソフトボールの先輩として一言述べたいと考え、以下のような文章となりました。

本年度より、東海学園大学の女子ソフトボール部が誕生致しました。この「ウインドミル」を通じまして、全国のソフトボールを愛好されます大学関係者の皆様に、今後の御指導を心よりお願い申し上げる次第です。私は現在、東海学園大学のソフトボール部の監督と野球部の監督を兼任しております。元々、野球の出身ではありましたが、日本体育大学で故下奥信也先生にソフトボールを教えていただき、ソフトボールのおかげで現在があるということを感謝をしております。

さて、皆様、大学の男子ソフトボールの先輩として一言述べさせていただきます。特に、男子ソフトボール部の皆様に私の気持ちを聞いていただきたいのです。

大学の時、日体大の陸上グラウンドのはしっこの方で私達男子ソフトボール部は練習をしていました。また、そのすみもない時は、ネットをかついで多摩川の川べりで練習にあけくれたのです。ボールが多摩川に飛び込むので、あらかじめ当番が川の中でユニホームをぬらしながら守っているという具合です。私は甲子園を目指していた球児でしたから、高校の同級生が神宮に出たのを応援に行った時は、複雑な思いにかられたのは事実です。革のボールを毎日磨き、ゴムボールは洗剤をつけてタワシでこすり大事にしました。バットも最初は木を使っていたのですよ。宿舎へ帰れば、「えっ！　男子もソフトボールするの？」と真顔できかれるし、日体大ソフトボール部の男子のチンドン屋のようなユニホームには心底、「恥ずかしい」と感じたものです。

そんな私でしたが、ソフトボールを自慢できるものがありました。それは、ウインドミルが投げれることでした。二年先輩の三宅豊さんの、生き物のように動くボールには誇りを感じたものです。今、早稲田で教授をされている吉村先生や、オリンピックで解説をされた埼玉県庁の鈴木氏とも対戦をしたのが昨日のように思い出されます。

現在はフェンスがありますが、私達の時にはありません。私は飛ばす事が得意で、野球場のフェンスにもぶつけていたのですが、下奥監督にはよく怒られたものです。

そんな私は本年度より、ひょんな事で東海学園大学で野球と巡り会う事になったのですが、自分の大学の時のソフトの練習よりも甘く、取り組み方のいい加減な野球部を見て、最初は残念に思いました。昔のチームメイトのあのひたむきなソフトに対する姿勢が思い

出されるのです。先日、トヨタのスポーツセンターへ行く機会があり、男子のソフトの試合を見ました。井川監督の男子ソフトボールにかける情熱を久しぶりに感じ、感動しました。男子のソフトボールのプレイは、女子の比べものにならないパワーとスピード感あふれるものでした。私にとって、久しぶりの男子ソフトのプレイでしたけれど、大学の野球部に見せてやりたいと感じたものです。きびきびしたプレイ、マナーの良さ、髪を染めたりピアスをしたりというようなプレイヤーは一人もいません。

先日、私のクラブで、髪を染めた者がいたのでこの話をして、トヨタの練習を見に行かせました。プレイとは関係ないという人もいますが、私はだらしのない性格は、毎日の「取り組み」に左右されると言っています。「取り組み」が「習慣」となり、「習慣」が「考え方」を生み、「考え方」がその人の性格となるのです。だらしのないプレイは、毎日の「取り組み」「身だしなみ」「礼儀」とは無関係ではないのです。

また、ソフトボールの審判の皆様の謙虚さと向上心は私の所属している野球連盟の方々にも見ていただきたいと感じています。

大学男子ソフトボール部員の諸君、「胸を張って、この素晴らしい男子ソフトボールを引っ張って欲しい。」そして、「夢！男子ソフトボール種目、オリンピック出場」を実現していただきたい。

女子ソフトボールは隆盛の一途をたどっている事は確かです。

女子の実業団の監督が、「女子は、女子の監督が育てる」と雑誌の対談で話していました。それはそれで結構なことで、数多くの実力ある女性監督の出現を期待しています。現に女性監督に育てられた女性の監督も日本リーグにいらっしゃいます。ただ、これまでは指導者の多くが男性であったということも事実です。

私は、ソフトボールを愛する一員として、ソフトボールは決して女子だけのものではないと断言しておきたい。女子の指導者のはしくれの私が、このようなことを書くのはおかしいけれど、男子ソフトの皆様の心を代弁しておくことにいたします。

そして、この「ウインドミル」を読んで、私の意見に賛同していただいた大学男子ソフトボール部諸君！後輩の指導をよろしくお願いいたします。

男子のソフトボールは、野球よりメジャーリーグに近いものがあります。今、野球を指導していて、それを実感しているところです。”見る”スポーツとして、また、”やる”スポーツとして、①マナーも良く②スポーツマンらしい髪・態度を心より期待しています。こんなに素晴らしい男子ソフトボールが泣くようなことだけはしないでおこう。

30年前にソフトボールと出会い、「うすら恥ずかしい」思いをしながらソフトボールという野球とは違ったスポーツの魅力にとりつかれた私が、この「ウインドミル」という機関誌を通じて、後輩の皆様へボールを投げかけさせていただきました。これから、シーズンオフを迎えますが、来るべき来シーズンに向けてしっかりと練習をして、来シーズンのリーグで、またインカレでお会いいたしましょう。

大学ソフトボール界の今後の発展を心よりお祈り申し上げます。

【卒業論文】

大学女子ソフトボールの直球打撃におけるボールとバットの衝突

松本陽子（中京女子大学平成13年3月卒業），飯本雄二（指導教員）

キーワード：反発係数，角度変化，上下ズレ距離，回帰分析

＜研究目的＞

大学女子水準のソフトボールでは、ボールが大きくバットが細いため狙いどおりのバッティングが出来るということが作戦上重要(吉村1985）である。しかし、バットもボールも接触する面が丸みを帯びているため衝突する位置がズレると真っ直ぐ跳ね返らない。ボールが飛ぶコースや飛距離はバットとの衝突で決定され、ボールの何処にどのような状態でバットが当たったか、あるいは当てるかがボールを思い通りに飛ばせるかどうかの鍵を握っている。

本研究は、大学女子選手の直球打撃におけるバットとボールの衝突を高速度ビデオカメラで撮影し、力学的にその現象を明らかにしようとした。

＜研究方法＞

打者は中京女子大学ソフトボール部員の中から比較的打撃の上手な左打者３名とした。投手は２名で、いずれも右投げであった。

バットはアメリカルイスビル社のTPSc405（84cm、765g、ゴム・革兼用）を使用した。ボールはミズノ社製公認３号革ボールである。

投手は２名で交代しながら約100球のストレートを投げたが、撮影は投球ミス・空振り・チップなどを除いた34球について行った。

高速度ビデオカメラ（PHOTRON社製）は、２台を同期させ、ホームベースに立った打者の正面と頭上に設置した。撮影範囲はバットとボールの衝突が起こる位置をズームアップして、上下・前後・左右それぞれ約1.2メートルの空間とした。高速度ビデオカメラの撮影速度は毎秒4500コマ、シャッタースピードは1/4500秒である。

画像分析では、衝突の瞬間を探し出し、その時点と前後５コマずつ、ボールの芯、バットグリップ中心、バットヘッド中心の座標を求めた。２台のカメラ映像から読み取ったこれらの座標値は、ＤＬＴ法（池上1983）により３次元座標に変換した。また、バットのグリップとヘッドの中心点を結ぶ線上で、ボールの芯が進む線との交点をバット打撃点の中心として求めた。さらに、バッティングの状態は、３次元座標をもとに図１に示すような位置、速度および角度等を計算して検討した。

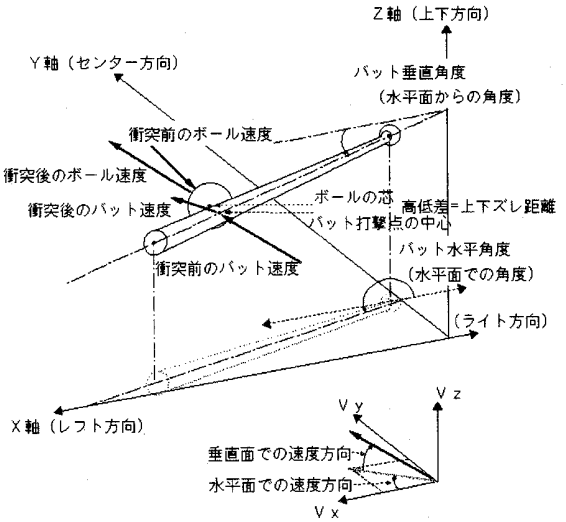


図１．測定項目の説明図

＜結果と考察＞

I.打撃状況

打撃直前のボールは、時速66±9km、入射水平角度86±6度、入射垂直角度-11±6度であった。打撃されたボールは、ホームベースへほぼ直角にやや下向きに落ちながら時速57～75kmの速度になるボールが多かった。

打撃直前のバット打撃点の中心は、時速75±11km、バット水平角度は172±13度、バット垂直角度は-29±5度であった。また、バット打撃

点の中心の移動方向をみると、水平角度は87.2±8.5度とほぼボールの進入に正対し、垂直角度は6.1±7.4度で水平よりやや上向きに進みつつ打撃を迎えることが多かった。バットはヘッドがやや進み気味で、ヘッドが下がった状態で衝突している。衝突時点はスウィング開始後一端バットを振り下ろした最下点付近からその直後の振り上がる課程になっている。

打撃瞬間のボール位置は、バッターボックスからレフト方向に50±10cm、ホームベース先端から40±12cm、高さ94±10cmであった。

以上から本研究の実験条件を簡潔にまとめると「ほぼ真ん中へやや落ち気味に入るそれほど早くない直球すなわち打ちやすいボールをスウィングの最下点付近からその直後のやや振り上がる過程で打撃した場合」となる。

II.計測・計算結果

①上下ズレ距離とボール反射垂直角度の関係

上下ズレ距離dはバット打撃点の中心がボールの芯より上になるとプラスで、ボールの反射垂直角度θは上向きがプラスである。この時、両者の相関係数は-.849($p<0.0001$，岩原1991)で、その単回帰式は、

$$\theta = -9.469 - 9.304d$$

となった。上下ズレ距離d=0の場合を計算すると-9.469度である。つまり、ボールの芯とバット中心が同じ高さで当たった状態では水平面より約9.5度下向きに跳ね返る。また、真っ直ぐに打ち返すには、上下ズレ距離dが-1.018cmの時で、ボールのやや下を叩いた時になる。ボールを打ち上げるにはさらに下を叩かなければならない。

②ボールの反射速度とバット初速度との関係

ボールの反射速度を高める、すなわちボールを勢い良く跳ね返すためにはバットの速度が大切である。そこで、両者の相関係数を算出したが、有意な相関係数は得られなかった。これは、バットとボールの接触位置がずれるとバットの勢いがボールに伝わらなくなるためと考えられる。

③反発速度比およびバット減速比と上下ズレ距離の関係

反発速度比eはバットとボールの衝突前の相対速度（絶対値）と衝突後の相対速度（絶対値）の比率（衝突後の相対速度／衝突前の相対速度）である。この比率が高いほどバットの勢いがボールに良く伝わったと考えることができる。そこで反発速度比eを従属変数、上下ズレ距離dを独立変数とし、多項式回帰　(Dunn1981）を試みた。自由度調整済み決定係数（田中1984）および回帰係数の有意性（$p<0.001$）から、2次の多項式が最も両者の関係を的確に表すことが分かった。

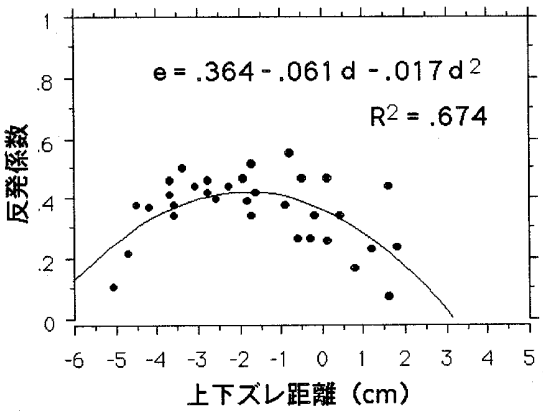


図2．上下ズレ距離と反発速度比の関係

この2次式は図2のように上に凸のグラフを描き、微分して0となる時に反発速度比eが最大値がある。この上下ズレ距離と反発速度比は、それぞれd=-1.79cm，e=0.42となり、反発速度比が0.40以上になる範囲は上下ズレ距離が-0.74～-2.84cmの範囲である。

一方、バットの勢いがボールに伝わればその分バットが減速する。そこで、バットの衝突前の速度と衝突後の速度の比を求め、これをバット減速比とした。バット減速比βを従属変数、上下ズレ距離dを独立変数として多項式回帰すると、図3のような2次の多項式が得られた。図2の反発速度比が高くなるところで図3のバット減速比が小さくなり、バットの勢いがボールに伝わり減速が大きい時にボールの反発速度比が高くなることが明らかである。

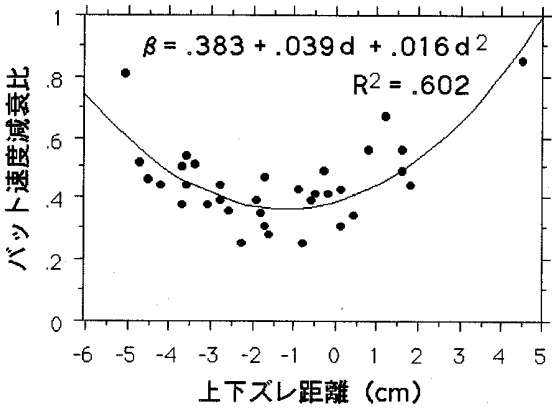


図３．上下ズレ距離とバット減速比の関係

⑤飛距離の推定

ボールの飛距離を延ばすには、ボールが上昇する角度=ボール反射垂直角度θも大切である。この場合ボールの回転を無視すればθ=45度方向が理想に近いと言えよう。そこで、先に示した式で45度になる場合の上下ズレ距離を計算すると、d=-5.9　cmで相当下を叩かなければ45度方向には飛ばないことが分かる。その時の反発速度比を計算するとe=0.165とかなり小さい。

ボールとバットの速度を時速75kmとし、空気抵抗を考慮せず投射体の飛距離Dを計算する式（小林1976、渋川1980）、

$$D=\frac{1}{g}V\cos\theta\left[V\sin\theta+\sqrt{(V\sin\theta)^2+2gh}\right]$$

に今回の回帰分析の結果を代入して、飛距離を計算したところ、表１と図４のようになった。投射体の飛距離の計算式中、gは重力加速度、Vはボール反射速度、θはボール反射垂直角度、hは打撃点と落下点の高低差で地面までの落下を想定して打撃瞬間の平均値94cmとした。

飛距離の計算結果から上下ズレ距離が-4.7cmの時最高飛距離101.6mになった。ボールが落ちぎみに入ってくるため、ボールを上に上げるためには下を叩く必要があると考えられる。ただし、上下ズレ距離-4.7cmはかなり下すぎる位置のように感じられる。これは、ボールの回転とそれによる空気抵抗・揚力を考慮していないためと考えられる。また、本実験の場合、バットのヘッドはやや下がっているため、両者の接触面はボールとバットの衝突中心より低い位置に圧力中心が来ると推定される。さらに、ボールの下を叩くとボールに逆回転がかかる。逆回転がかかったボールはより上昇し、表１では上昇角度が大きい場合と同じような結果で飛距離が伸びなくなる。このように考えれば、実際には表１の結果より上下ズレ距離が小さいところ、敢えて予想すれば-3cm程度で最大飛距離になるのではないかと推論する。残念ながら今回、ボールの回転数を調べることができなかった。今後の研究に期待したい。

表１．飛距離の推定結果

上下ズレ距離	ボール反射垂直角度	反発係数	バット減速比	反射速度	推定飛距離
0	-9.5 度	0.364	0.838	117.45	5.2 m
-1	-0.2	0.408	0.815	122.33	15.0
-2	9.1	0.418	0.824	124.50	43.7
-3	18.4	0.394	0.865	123.98	75.5
-4	27.7	0.336	0.938	120.75	96.5
-5	37.1	0.244	1.043	114.83	101.1
-6	46.4	0.118	1.180	106.20	89.6

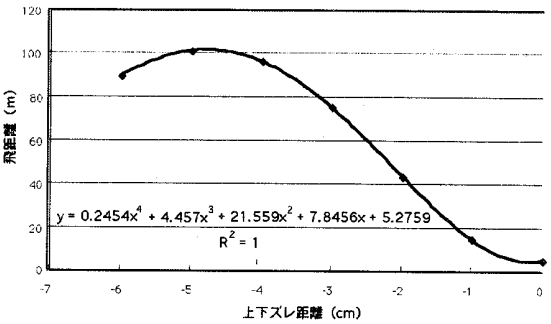


図４．推定飛距離と上下ズレ距離の関係

④ボール反射水平角度を決定する要因

ボールがの飛行軌跡を水平面上に投射した場合の角度（ピッチャー方向が90度）は、ボールがレフトとライトのいずれの方向へ飛ぶかを表す。ボール反射水平角度γは、平均78±33度で、ライトよりのボールが多かったが約70度の範囲で分散した。このボール反射水平角度γを従属変数、打撃瞬間までのボールおよびバットの位置や速度及び角度を独立変数とし、ステップワイズ（変数増加法）による重回帰分析を行った。

回帰分析概要から相関係数は.870、自由度調整済決定係数は.732で、かなりこの回帰分析結果は適合度が高い。また、分散分析の結果から、この

回帰は有意（p<.0001）である。ボール反射水平角度を決定する入射時の物理量は打点バット位置Y（前後位置）、バット水平角度（ヘッドの進み具合）および上下ズレ距離であった。回帰係数から打撃点が10cm前後にずれると約5.6度、ミート時のバットの方向が10度ずれると約8.0度、上下ズレ距離が1cmずれると約8.4度方向がかわることになる。これら３つの状態によって、ボールがレフトとライトのいずれの方向にボールが飛ぶかの大部分が決定することになる。

表２．ボール反射水平角度の決定要因に関する重回帰分析結果

（１）回帰分析概要

相関係数（R）	.870
R 2乗	.757
自由度調整R 2乗	.732
RMS残差	16.915

（２）分散分析表

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
回帰分析	3	26704.950	8901.650	31.113	<.0001
残差	30	8583.176	286.106		
合計	33	35288.126			

（３）重回帰分析結果（回帰係数と標準誤差）

	回帰係数	標準誤差	標準回帰係数
切片	-52.731	53.093	-52.731
打点バット位置Y	-.561	.260	-.207
ミート時バット水平角度	.809	.295	.314
上下ズレ距離	-8.379	1.609	-.569

（４）ボール反射水平角度との相関係数

打点バット位置Y	-.420
ミート時バット水平角度	.709
上下ズレ距離	-.785

これら３つの要因とボール反射水平角度との単相関を求めたのが表２の（４）である。上下ズレ距離はボール反射水平角度に対して、.785の高い相関を示した。これはヘッドが下がってバットが斜めになっていたためと考えられる。バットが水平であれば関連性が薄れると考えられる。次に高い相関を示した項目はミート時のバット水平角度（.709）であった。バットの向きが方向の決定に関連性が高い。打点の前後位置を表す打点バット位置Yは、ボール反射角度との相関が.420と低かった。今回の実験では、打点がある程度撮影視野の中央にある場合を採用しているため、打点のバラツキが小さくなっている。これが打点の前後位置とボール反射角度との相関を低くする要因になっているかもしれない。

<まとめ>

本研究は、ほぼ真ん中へやや落ち気味に入るそれほど早くない直球をスウィングの最下点付近からその直後やや振り上がる過程で打撃した場合について、ボールの入射時と反射時およびミート瞬間のボールとバットの位置関係（距離と角度）や速度変化（反発係数、減速比を含む）を高速度ビデオ撮影から画像分析して調べた。

ミート時のボールとバットとの上下のズレ距離は、打ち返すボールの速度や方向に大きな影響を与えていた。反発速度比は上下ズレ距離を変数とした上に凸の２次多項式でよく近似され、両者は２次関数的な関係を示した。この式や飛距離の計算から、本実験の打撃状況においてボールを遠くに飛ばすためには、ボールの芯の高さより約3cm下にバット打撃点の中心を衝突させるのがよいと推定された。

今回の実験結果だけではボールの飛距離を正確に計算することはできなかった。今後は飛距離の計算をより正確にできるように、ボールの回転と空気抵抗の関係を調べられることが望まれる。ボールがライト-レフトのいずれの方向に飛ぶかについては、課題が残るものの打点の前後位置、ミート時のバットの向き、上下ズレ距離に強く影響されることを示した。

<参考文献>

吉村正，須賀善隆，吉野みね子，丸山克俊（1988）実戦ソフトボール，大修館書店：pp.161-170

池上康男（1983）写真撮影による運動の３次元的解析法，JJ.Sports.Sci 2(3)：pp.163-170

岩原信九郎（1991）教育と心理のための推計学，日本文化科学社：pp.123-138

Dunn, O.J., Clark, V.A., 中村慶一訳（1981）応用統計学，森北出版：pp.245-254

田中豊，垂水共之，脇本和昌（1984）パソコン統計解析ハンドブックII多変量解析編，共立出版：pp.16-24

小林一敏（1976）スポーツとキネシオロジー，大修館書店：pp.168-177

渋川侃二（1980）運動力学，大修館書店：pp.74-87

【研究紹介】

夏期ソフトボール練習及び試合時の環境温度と水負債，体温上昇量及び運動量からみた生体負担度について

報告者　朝山　正己[1)]　森　悟[1)]
研究協力者　栄　涼子[1)]　田中　瑞枝[1)]　成瀬　和美[1)]
鈴木　香代[1)]

緒　言

運動時の体温は5～30℃までの一定環境下では運動強度に依存して増加する[11)]が，30℃を越えるような暑熱環境下の運動では，熱放散が抑制されて深部体温の急激な上昇をもたらし，運動の継続が困難な場合も少なくない．熱放散のための機構が有効に働いて，両者のバランスが十分に調節されていれば，運動を継続することが出来るが，運動強度が高すぎたり，環境温度が高すぎる場合には，体温が過度に上昇する[12)]．したがって，環境温度が高い夏季のトレーニングでは，水分補給を十分に行い体液のバランスを保ち，また発汗による熱放散を促進させ，運動量を調節するなどの配慮が必要となる．

インターハイの各種競技，高校野球をはじめ，中体連や高体連主催のジュニア期の競技大会は，7月から8月の夏期に開催されており，暑熱環境下にあっても，選手には試合時に最も高いパフォーマンスの発揮できる能力が要求される．また，夏期は春・秋・冬期と比べてトレーニング時の生体負担度が高くなるにもかかわらず，鍛錬期として位置付け激しいトレーニングを荷している指導者も少なくない[14)]．夏期休暇を利用して，1日に午前と午後の2回の練習をする場合[14)]や強化合宿[14)]を計画するクラブチームも多く，練習時間，頻度，運動量も多くなるといわれる[14)]．

中井ら[7)]は，1970年から1990年の21年間における熱中症発生時の環境温度を調査し，RMR15以上の運動強度ではWBGT25.8℃の環境温度で熱中症が発生したことを報告している[7)]．熱中症による死亡事故の発生は，スポーツ種目では野球が最も多いことが報告[13)]されているが，とくに各スポーツ活動中のトレーニングとして行うランニング中に熱中症が多発している[12)13)]．運動強度の比較的低い野球においても，WBGT25.8℃を超える環境下ではランニングなどの運動強度の高い運動を行えば熱中症発生の危険性は高くなるといえる．野球やソフトボールの攻守平均のRMRは2.5～3.0であり[16)17)18)]，運動の強さは必ずしも高くはない．しかし，トレーニング練習中や終了間際になって，ランニングなどの強い運動負荷が加われば，WBGT25.8℃以上の環境温度であれば，熱中症発生の危険性は高くなる．

そこで本研究では，安全かつ有効な夏期トレーニングのあり方を探るための基礎的知見を得るために，ジュニア期にある女子高校ソフトボール部員を対象として，夏期トレーニング時の環境温度や運動量の実態を調査するとともに，水負債率と体温上昇量からみた生体負担度について検討した．

方　法

Ⅰ．期間，対象及び測定条件

(1)期間：測定は1998年7月23，24，29日の3日間実施した．

(2)対象：A女子高校のソフトボール部員15名である．対象とした被検者のポジション，学年，身長及び体重は表1に示したとおりである．被検者の平均年齢（±S.D.）16.9±0.9歳，平均身長159.7±3.8cm，平均体重53.38±3.8kg及び平均体表面積1.553±0.072m²である．A女子高校とその試合対戦相手高校2校は，いずれも毎年国体出

1）1）中京女子大学

場の経験を持つチームであった.

(3)飲水条件

練習時における飲水の影響を調査するために，非摂取，水道水及びスポーツドリンクの3条件について測定した(表2). 3回の練習のうち各1回，これらの3つの飲水条件でそれぞれ行ってもらうようにし，かつ，各練習時には3条件の内容がすべて含まれるようにして，日較差と個人差の影響を最小限にした.

また，自由飲水で，練習（午後），試合（午前），及び試合（午後）の3条件についても測定し，練習と試合の比較，試合時の午前と午後の比較をそれぞれ行った（表2）.

試合時は公式審判員2名がつき，練習時とともにA女子高校のグラウンドで行った.

II. 測定方法

A. 環境温，運動時間，及び運動量の測定

(1)環境温

環境温として乾球温度（Natural Dry-Bulb Temperature, NDB），湿球温度（Natural Wet-Bulb Temperature, NWB），及び黒球温度(Globe Temperature, GT)を従来の方法[7)8)]にならって測定し，各測定値から総合温熱指数としてWBGT（Wet-Bulb Globe Temperature）を(1)式より算出した.

$$WBGT = 0.7 \times NWB + 0.2 \times GT + 0.1 \times NDB \quad \cdots\cdots(1)$$

乾球温度と湿球温度はAugast温度計を，さらに黒球温度は6インチの黒球温度計を用いて測定した. これらの測定器具は地面から約1mの高さに設定した.

環境温度は，練習中30分ごと測定を行った.

(2)運動時間

タイムスタディ法により，練習内容ごとの運動内容と時間を記録した.

(3)運動量

歩数計を改良した装置を用い，歩数カウントを電気信号に変えてICメモリに記憶させた. 測定後，インターフェイスを介して，コンピューターに取り込みデータの集計を行った. 得られた歩数の合計値を運動量，分当り歩数を運動強度の指標とした[2)]. 運動量の測定は，7月23, 24日の2日間の延べ4回の練習時に実施した.

B. 発汗量と飲水量の測定

(1)発汗量

体重を更衣室にて，練習前と後に半裸体状態（下着着用）で測定し，体重減少量（50g単位）を求め，次式(2)により発汗量を算出した.

発汗量＝練習前体重＋飲水量－練習後体重…(2)

(2)飲水量

飲水量は飲水前後のボトルの重量差から求め，自動秤（ISHIDA製）により測定した.

表1 被検者のポジション，学年，身長，及び体重

被検者	ポジション	学年	身長（cm）	体重（kg）
S. T.	ショート	3	162.0	51.85
M. H.	セカンド	3	156.0	50.85
A. O.	サード	3	165.0	54.05
K. O.	レフト	3	161.0	53.45
M. H.	ファースト	3	158.0	52.05
Y. K.	ピッチャー	2	165.0	60.75
I. T.	サード	2	161.0	55.56
J. A.	センター	2	158.0	53.50
T. K.	ライト	1	164.0	55.40
M. K.	ファースト	1	162.0	59.90
S. S.	キャッチャー	1	162.0	53.55
Y. H.	セカンド	1	158.0	55.35
M. T.	ピッチャー	1	157.0	50.65
M. K.	センター	1	155.0	48.30
K. K.	センター	1	151.0	45.45

表2 測定の条件と項目

条件＼項目		A			B		C
飲水条件	内容	環境温	時間	運動量	発汗量	飲水量	体温
非摂取	練習	○	○	○	○	○	○
水道水	練習	○	○	○	○	○	○
スポーツドリンク	練習	○	○	○	○	○	○
自由飲水	練習（午後）	○	○	○	—	—	○
自由飲水	試合（午前）	○	△	—	—	—	○
自由飲水	試合（午後）	○	△	—	—	—	○

○：測定，　△：概算値，　—：測定はしていない

表 3　トレーニング時の時刻，運動時間，及び環境温度

飲水条件	内容	練習・試合時刻	運動時間	NDB (℃)	NWB (℃)	GT (℃)	WBGT (℃)
非摂取	練習	(9：50～11：55) *1	(2時間 5分) *1				
水道水	練習	(13：15～17：00) *1	(3時間 45分) *1	31.4 ± 4.5	24.5 ± 0.9	39.6 ± 9.6	28.2 ± 2.9
スポーツドリンク	練習	(9：08～11：25) *2	(2時間43.5分) *2				
自由飲水	練習（午後）	13：00～17：30	4時間 7分	26.2 ± 0.3	23.5 ± 0.2	27.2 ± 0.7	24.5 ± 0.2
自由飲水	試合（午前）	8：00～13：00	5時間	31.7 ± 2.3	26.8 ± 1.1	39.3 ± 4.7	29.8 ± 1.8
自由飲水	試合（午後）	14：00～17：50	3時間50分	30.2 ± 1.2	26.1 ± 0.6	31.7 ± 2.9	27.6 ± 1.1

*1：7/23，*2：7/24

飲料水は，市販の1リットルのペットボトルで供給し，練習中自由に摂取させた．スポーツドリンクの濃度は粉末ポカリスエット〈大塚製薬〉を74(g／l)とした(Na^+：21mEq／l, K^+：5 mEq／l, Ca^{2+}：1 mEq／l, Mg^{2+}：0.5mEq／l, Cl^-：6 mEq／l, $citrate^{3-}$：10mEq／l, $lactate^-$：1 mEq／l)．飲料水は，スポーツドリンク，水道水とも氷で冷やして約4℃に保った．飲料水の内容が水道水であるかスポーツドリンクであるかは，事前に被検者に知らせずに飲水させた．

C．水負債率と体温の測定

(1)水負債率

水負債率を次式(3)により算出した．

水負債率（%）＝（運動前体重－運動後体重）／（運動前体重×100）　……(3)

(2)体温

婦人水銀体温計を用いて，舌下温を運動前後に8分間にわたって測定した．運動前後の体温から体温上昇量を求めた．

III．データの分析

練習時の4回と試合時2回の延べ6条件について，それぞれ15名のデータの平均値と標準偏差などを求め，比較検討を行った．

結　　果

A．環境温，練習・試合時間，及び運動量

(1)環境温，練習・試合時間

各条件下のNDB, NWB, GT, 及びWBGTを表3に示した．練習時における非摂取，水道水及びスポーツドリンク飲水時の7月23日の9時から12時，13時から17時，及び7月24日の9時から12時までの3回の練習時のそれぞれの値を平均したWBGTは，28.2±2.9℃であった．

自由飲水では，午後練習で24.5℃±0.2℃，午前試合で29.8±1.8℃，午後試合で27.6±1.1℃であった．試合時におけるWBGTは，3条件の中で午前が最も高く，しかも午前のGTは，午後のそれと比較して4.5℃高くて約40℃まで達していた．

表3に，練習や試合時の時刻と運動時間について示した．練習・試合時刻は，午前でおよそ9時から12時，午後で13時から17時前後である．運動時間は4回の練習時の平均で3時間と3.4±53.4分であり，午前の試合時間は5時間に及んだ．

(2)練習時の環境温，運動量

図1は，練習時の環境温度と歩数の経時変化を示したものである．午前の環境温度は，GTで47.6±3.9℃，NDBで34.3±2.2℃，NWBで24.8±0.3℃及びWBGTで30.3±1.1℃であった．午後の環境温度は，GTで43.5±7.0℃，NDBで34.1±2.5℃，NWBで25.1±0.8℃及びWBGTで29.7±2.1℃であった．

歩数からみた15名の運動量の平均値（±S．D.）は，午前で8297.2±987.1歩，午後で11448.9±1347.0歩であった．また運動強度を表す平均分当り歩数は，午前で66.4±7.9歩／分，午後で54.5±6.4歩／分であった．

表4は図1で示した練習内容ごとの時間，分当り歩数，および合計歩数の平均値と標準偏差を示したものである．練習時間は午前で125分，午後で225分であった．分当り歩数はランニングと坂道ダッシュの走運動で高く，合計歩数はシートノックとバント練習などで多かった．分当り150歩以上の運動強度のランニングを30秒間続けて行った頻度は，午前で9.3±1.7回，午後で2.5±2.1回であり，時間にして午前で4.9±0.9分，午後で1.2±1.0分であった．静止状態を示す0歩／分が30秒間続けて出現した頻度は，午前で16.2±6.4回，午後で10.1±4.3回であり，時間にして午前で8.1±3.2分，午後で5.1±2.0分であった．

4回の練習時に要した分当り歩数と合計歩数の

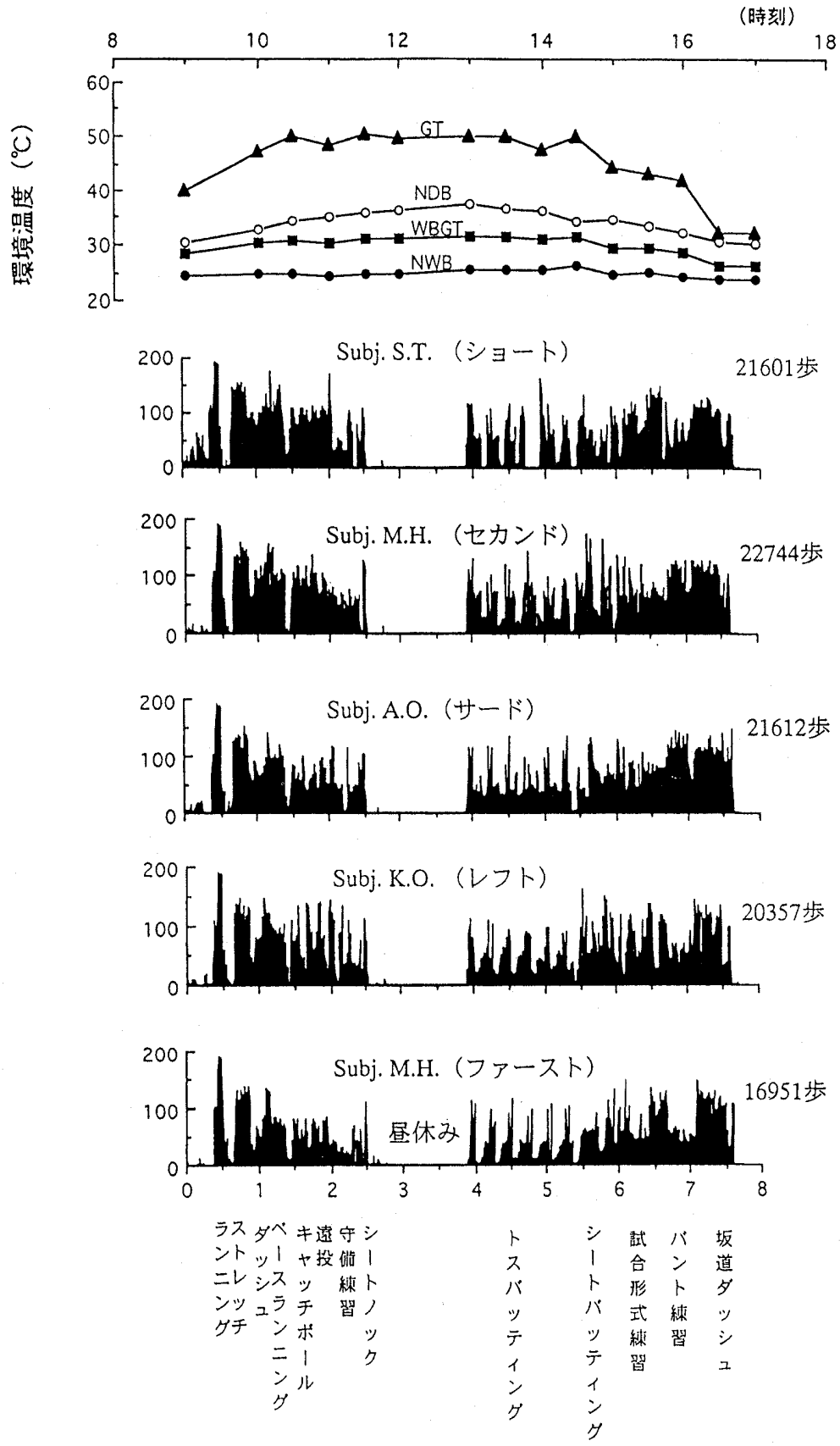


図1　練習時の環境温度と歩数の経時的変化

平均値をポジション別に比較したのが図2である．分当り歩数と合計歩数は，外野（センター，ライト）と内野（セカンド，サード）のポジションで多く，ボールを受けるポジションであるキャッチャーとファーストでは少なかった．

練習時の運動量は平均9988.9±1383.5歩，分当りの歩数は56.9±6.5歩であった．

B．練習時の発汗量と飲水量

(1)発汗量

発汗量は非摂取で，平均1.563±0.434l，水道水で1.671±0.496l，及びスポーツドリンクで1.658±0.649lであり，体表面積・時間当りでは，非摂取で427.8±180.1g／m²／hr，水道水で456.3±196.7g／m²／hr，及びスポーツドリンクで452.9±216.1g／m²／hrであった．3条件の発汗量には有意差は認められなかった．

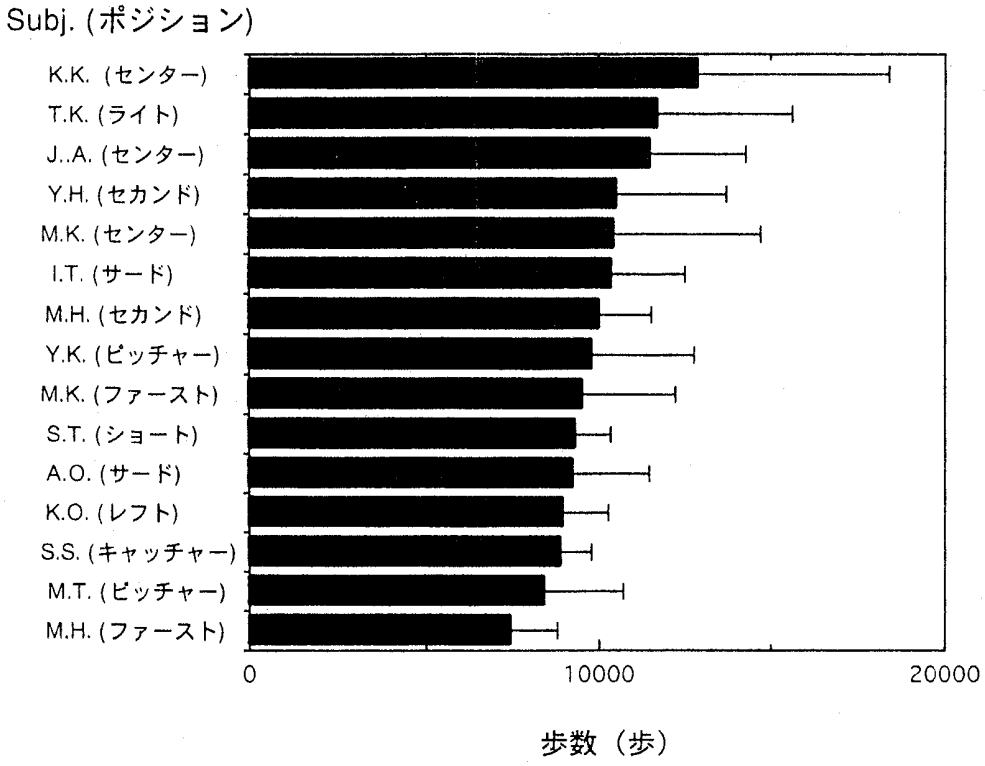
(2)飲水量

飲水量は水道水で，平均0.817±0.410l，スポーツドリンクで0.955±0.274lであり，体表面積・時間当りでは，水道水で222.0±132.2g／m²／hr，スポーツドリンクで248.9±90.2g／m²／hrであった．スポーツドリンクの飲水量は水道水のそれと比較して，統計的に有意に高い値であった($p<0.01$)．

C．水負債率と体温

表4　練習時の時間，分当り歩数，合計歩数（n＝15）

内容	時間（分）	分当り歩数（歩/分）	合計歩数（歩）
ランニング	10.0	103.6 ± 3.8	1036.0 ± 38.0
ストレッチ体操	6.0	13.8 ± 6.6	82.9 ± 39.5
ダッシュ	13.0	114.0 ± 5.5	1538.3 ± 74.5
ベースランニング	5.5	58.0 ± 11.4	347.9 ± 68.2
キャッチボール	5.0	61.5 ± 18.1	307.3 ± 90.4
遠投	2.0	71.9 ± 23.5	143.8 ± 46.9
キャッチボール	2.0	87.3 ± 28.7	174.0 ± 57.4
守備練習	12.0	93.9 ± 11.2	1315.1 ± 156.8
休憩と移動	5.0	22.9 ± 6.1	137.1 ± 36.8
シートノック	32.0	40.8 ± 17.0	946.6 ± 473.4
シートノック	38.5	58.1 ± 12.6	2267.6 ± 491.1
トスバッティング	13.0	48.1 ± 8.5	601.8 ± 106.6
片付けと移動	7.0	33.4 ± 11.9	233.5 ± 83.6
トスバッティング	8.0	53.5 ± 11.9	427.9 ± 94.9
片付けと移動	2.0	30.1 ± 18.8	60.2 ± 37.6
トスバッティング	18.0	40.2 ± 7.0	722.8 ± 125.6
片付けと移動	26.5	42.7 ± 6.8	1153.4 ± 183.3
ボール拾い	5.0	34.0 ± 9.4	170.1 ± 46.8
トスバッティング	10.0	40.4 ± 10.4	403.6 ± 103.7
ボール拾い	14.5	57.1 ± 15.6	857.0 ± 233.4
バッティング練習	24.5	55.6 ± 11.9	1390.8 ± 296.5
ボール拾い	4.5	57.2 ± 15.2	285.8 ± 75.8
バッティング練習	10.0	50.0 ± 12.2	550.1 ± 121.9
移動	1.0	61.9 ± 24.1	61.9 ± 24.1
試合形式の練習	10.0	63.8 ± 16.5	638.1 ± 164.9
移動	2.0	71.7 ± 28.8	143.5 ± 57.6
バント練習1	13.5	63.7 ± 14.1	892.3 ± 197.8
片付けと移動	1.0	61.6 ± 20.2	61.6 ± 20.2
バント練習2	22.0	78.8 ± 5.9	1970.3 ± 147.1
休憩と移動	2.0	62.0 ± 23.0	124.4 ± 46.0
坂道ダッシュ	10.0	66.7 ± 10.2	699.9 ± 106.9



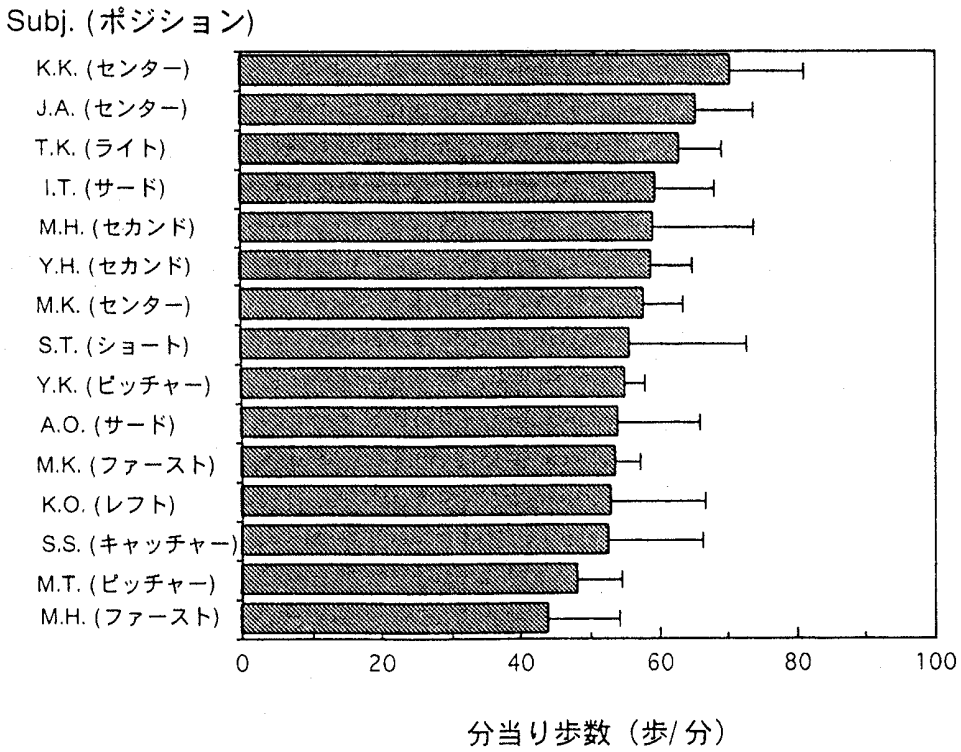


図 2　ポジション別の練習時の歩数の比較

(1)水負債率

練習時の水負債率は，非摂取で2.97±0.91%，水道水で1.60±0.67%及びスポーツドリンクで1.29±1.01%であった(図3)．非摂取の水負債率の平均値は，スポーツドリンクと水道水のそれと比較して，それぞれ統計的に有意に高かった($p<0.001$)．

自由飲水では，午後の練習で1.55±0.62%，午前の試合で2.31±0.91%及び午後試合で1.54±0.32%であった(図3)．午前の試合の水負債率の平均値は，午後試合のそれと比較して，統計的に有意に高値であった($p<0.01$)．練習と試合の水負債率の平均値には有意差は認められなかった．

(2)体温

練習後の体温（舌下温）は，非摂取で37.57±0.33℃，水道水で37.22±0.34℃及びスポーツドリンクで37.23±0.37℃であった．非摂取の練習後の体温の平均値は，水道水とスポーツドリンクのそれと比較して，統計的に有意に高い値を示した($p<0.05$)．

自由飲水では，午後練習で37.17±0.25℃，午前試合で37.62℃±0.33℃及び午後試合で37.40±0.17℃であった．試合時の午前の体温の平均値は，午後と比較して，統計的に有意に高い値であった($p<0.05$)．

(3)体温上昇量

練習時における運動前後の体温上昇量は，非摂取で0.78±0.34℃，水道水で0.25±0.24℃及びスポーツドリンクで0.38±0.30℃であった（図3）．非摂取の体温上昇量の平均値は，水道水とスポーツドリンクのそれと比較して，それぞれ統計的($p<0.001$，$p<0.01$）に有意に高値であった．

自由飲水では，午後練習で0.33±0.22℃，午前試合で0.61±0.22℃及び午後試合で0.03±0.23℃であった(図3)．試合時の午前の体温上昇量の平均値は，午後のそれと比較して，統計的に有意に高かった($p<0.001$)．

(4)水負債率と体温上昇量

図4には，各条件下の水負債率と体温上昇量の関係を示した．非摂取は水負債率と体温上昇量ともに最も高かった．午前試合は，非摂取に次いで，水負債率と体温上昇量ともに最も高かった．水道水，スポーツドリンク及び午後練習の3条件はほぼ同程度であった．水負債率と体温上昇量の両者の間には，統計的に有意な正の相関($r=0.837$)が認められた($p<0.01$)．両者の関係から得られた回帰式の傾きaは0.349であり，水負債率に対する体温上昇量は約0.3℃であった．

考　　察

年間を通じて最も過酷な温熱環境の季節であるにもかかわらず，7月から8月はジュニアスポーツ選手にとっては最も重要な試合が開催される時期である．目標としている試合に備えて普段の練

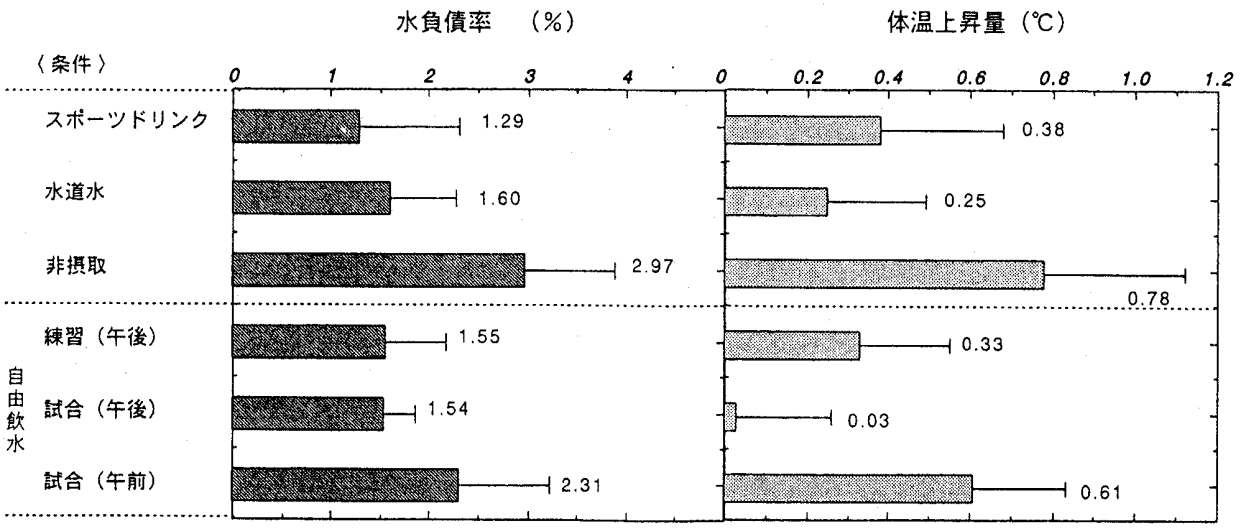


図3　各条件下の水負債率と体温上昇量

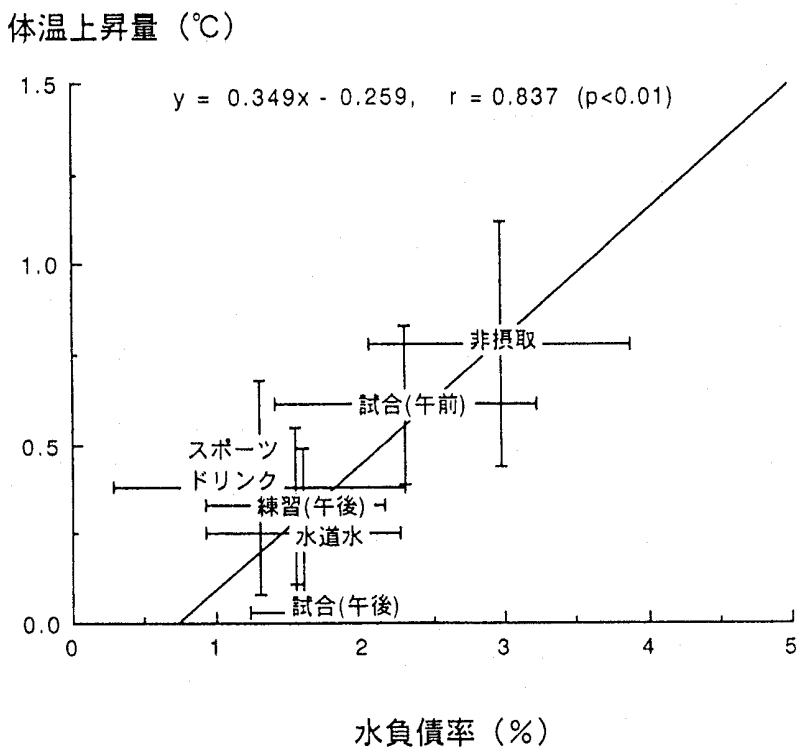


図 4　各条件下の水負債率と体温上昇量の関係

習と比べてトレーニングの量・質とも多く練習を行うことが多い[15]．また，秋季大会に向けた鍛練期のトレーニングが行われることも多い[14]．

本研究では，女子ソフトボール部の生徒を対象に夏期練習時の運動量をアクトグラム法[2]により調査した．運動量は，歩行量にして１回の練習で9988.9歩であり，１日に２回の練習を行うと運動量は約２万歩に達した．日本人の成人女性の１日の平均歩数が6973歩である[4]ことからすると，ソフトボール練習の１日の運動量はその約３倍の運動量に相当する．これは100歩／分のピッチで分速80ｍの正常歩行を約1.5時間行う運動を１日に２回実施した運動量に相当する．また，分当り歩数は56.9±6.5歩であった．これは先行研究[2]に基づく推定式を用いると，心拍数にして110.8拍／分に相当する運動強度である．このことからソフトボールのトレーニング時は，中程度以下の運動強度と推定し得るが，運動時間が約３時間，試合時には最大５時間の長時間にわたるために生体にとっては相当な負担度といえる．インターハイ出場校の41.4%が１日当り２～３時間の練習を実施しているといわれ，本調査とも符号する[14]．本研究で得られた歩数から酸素摂取量を，推定式（y =0.0056X＋0.258）を用いて[2]，推定すると0.577ℓ／分になる．これは，RMRにして約２～３である．酸素摂取量１ℓを4.8kcalとしてエネルギー消費量を計算すると2.768kcal／分となり，平均運動時間の183.4分にして507.7kcalと推定される．これは山岡ら[15]が報告している野球選手の練習時のエネルギー消費量548kcalと近似し，同報告[15]の大会前練習時の928kcalの約半分であった．

熱中症などの事故防止の観点から危惧されることは，ほとんど休憩をすることなく運動が継続された点である．またその上，３時間にわたる練習中に心拍数160拍／分以上に相当する，分当り150歩以上の運動強度のランニングを30秒間続けて行った発現頻度が2.5～9.3回あり，練習の最後には坂道ダッシュが数回繰り返されて実施されている点である．これらのランニングや坂道ダッシュの運動時には，心拍数は最高値に達していたものと推定される．本研究のように，WBGTが28℃以上の環境温度下にあり，運動時間が長くて運動量が

多い練習中にランニングや坂道ダッシュのような一時的に強い運動負荷が加わることで，熱中症発生の危険が懸念される．

スポーツ活動中の熱中症発生予防のためには，涼しい場所で休憩を取ること，水をかけたりして気化熱による熱放散を促進させたり，水分補給をして体液量を回復させることなどが必要である．飲水量は，本調査では平均220～240g／m²／hrの範囲にあった．これまでに報告[1)2)]されている大学女子バレーボール練習時の飲水量の250g／m²／hrや大学女子陸上長距離練習時の250g／m²／hrとほぼ同量であった．平均発汗量は本研究では420～450g／m²／hrの範囲にあり，先行研究[1)]の大学女子バレーボール練習時の360～400g／m²／hrよりも多く，大学女子陸上長距離練習時[3)]の580g／m²／hrよりは少なかった．これらの結果から，本調査では，飲水量に比べて発汗量が多く，水負債率はおよそ1.5%であった．これは，大学女子ソフトボール練習時で報告[9)]されている0.86～1.12%や他のスポーツ練習時で報告[9)10)]されている値よりも水負債率が高い．しかしながら，スポーツドリンクや水道水の摂取時の水負債率は非摂取と比較して小さく，体温上昇量も低い値に抑制したことから，運動中に水分を摂取することは体温上昇を軽減することができ，熱中症予防に効果があるといえる．

水負債率と体温上昇量の間にはr=0.837の相関が認められ，両者の関係から求めた水負債率に対する体温上昇量（℃）は約0.3℃であった（図4）．これは，従来から報告されている森本ら[5)]の結果と一致するものであり，我々の結果[3)]とも一致した．このように暑熱環境下の運動は，水負債量に比例して体温上昇が生ずるために，水分補給を適切に行うことで体温の上昇を抑制することが重要といえる．

試合時には高い水負債率と体温上昇量が観察された．これはWBGTが平均30.0℃であったことや，ゲーム内容が伯仲した展開で推移した試合であったことが原因として考えられる．ジュニア期の地方・全国大会は，7月から8月の夏期に開催されてきており，発育途上にある選手にも一般の競技選手と同様に試合時に最も高いパフォーマンスの発揮できる能力が要求される．指導者や運営者は過酷な温熱環境に配慮した試合の運営と安全管理をする必要がある．日本体育協会では熱中症予防のためのガイドブックを作成しその予防のための指針を発表してきたが，発育途上期にあるジュニア選手には，より精緻な対策が必要である．

ま　と　め

高校女子ソフトボール競技者の夏期トレーニング時の環境温度と運動量の実態を調査するとともに，水負債率や体温上昇量からみた生体負担度について検討した．

実態調査は，1998年7月23，24，29日のそれぞれの午前と午後に，練習時4回と試合時2回の延べ6回，実施した．対象とした被検者は女子高校のソフトボール部員15名である．測定項目は，乾球，湿球，黒球の環境温度とWBGT，運動量，飲水量，発汗量及び体温である．測定条件は，非摂取，水道水，スポーツドリンク，自由飲水による午後練習，午前試合及び午後試合の計6条件である．

主な結果は，次のとおりである．

(1)非摂取，水道水及びスポーツドリンク条件の練習時のWBGTは28.2±2.9℃であった．また自由飲水では，午後練習で24.5℃±0.2℃，午前試合で29.8±1.8℃及び午後試合で27.6±1.1℃であった．

(2)練習1回当りの運動時間は3時間3.4分，運動量は9988.9±1383.5歩，及び運動強度は56.9±6.5歩／分であった．これはエネルギー消費量にして507.7kcal，RMRにして2～3に相当した．また分当り150歩を越えるランニングが，練習1回当り2.5～9.3回あった．

(3)練習時の発汗量は，非摂取で427.8g／m²／hr，水道水で456.3g／m²／hr及びスポーツドリンクで452.9g／m²／hrであった．3条件間に有意差はなかった．

(4)練習時の飲水量は，水道水で222.0g／m²／hr，スポーツドリンクで248.9g／m²／hrであり，スポーツドリンクの飲水量は水道水よりも有意に高かった．

(5)水負債率は，非摂取で2.97%，水道水で1.60%及びスポーツドリンクで1.29%，自由飲水では，

午後練習で1.55%，午前試合で2.31%及び午後試合で1.54%であった．非摂取に次いで午前試合は水負債率が高かった．

(6)体温上昇量は，非摂取で0.78℃，水道水で0.25℃及びスポーツドリンクで0.38℃，自由飲水では，午後練習で0.33℃，午前試合で0.61℃及び午後試合で0.03℃であった．非摂取に次いで午前試合は体温上昇量が高かった．

以上のことより，ソフトボールの運動強度は低いがその練習時間は長く運動量も多い．また一時的に高い運動強度の練習が実施されていることから熱中症予防への配慮が必要である．運動中の飲水は水負債や体温上昇を抑制する上で効果があったが，試合時においては発汗に見合った水分の摂取が十分になされていない．このことからも，熱中症予防のための啓蒙と実践を進める必要性がある．とりわけ，発育途上にあるジュニア期においては，充分な配慮が必要であることを指摘したい．

文　　献

1）朝山正己，森悟，栄涼子，本多恭子，近藤一枝（1998）：ジュニア期の夏期スポーツ活動時の飲水の塩分濃度と飲水量，発汗量及び体温との関係について，平成9年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告，No.Ⅷジュニア期の夏期トレーニングに関する研究－第1報－，20－32．

2）星川保，森悟(1995)：無線方式酸素摂取量測定装置（K 2）を用いた歩数計歩数のカロリメトリックス－1万歩のカロリー－，12-9，1058，臨床スポーツ医学．

3）実成直美，森悟，朝山正己(1998)：夏季スポーツ活動時の飲水が生体に及ぼす影響－陸上長距離クラブ練習時の場合－，中京女子大学健康科学研究所年報，No.5，33－38．

4）厚生省保健医療局健康増進栄養課（1994）：平成6年度版国民栄養の現状（平成4年国民栄養調査成績），第一出版，第1刷，55－56．

5）森本武利(1987)：水分摂取とバランス，臨床スポーツ医学，4（10），1097－1103．

6）中井誠一，寄本明，森本武利(1990)：夏季運動時温熱環境と温熱指標の比較，体力科学，39，120-125．

7）中井誠一，寄本明，森本武利(1992)：環境温度と運動時熱中症事故発生との関係，体力科学，41，（5），540－547．

8）中井誠一(1992)：運動時熱中症予防のための環境温度の測定方法の検討，平成4年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告，No.Ⅷスポーツ活動における熱中症事故予防に関する研究－第1報－，35-47．

9）中井誠一，朝山正巳，平田耕造，花輪啓一，丹羽健市，井川正治，平下政美，菅原正志(1993)：日本の環境温度と運動時の飲水量・発汗量に関する実態調査，平成4年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告，No.Ⅷスポーツ活動における熱中症事故予防に関する研究－第2報－，48－81．

10）中井誠一，朝山正巳，平田耕造，花輪啓一，丹羽健一，井川正治，平下政美，菅原正志(1994)：運動時の環境温度と飲水量，発汗量に関する実態調査－その2－平成5年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告，No.Ⅷスポーツ活動における熱中症事故予防に関する研究－第3報－，20－32．

11）Nielsen, B. and Nielsen, M. (1962) : Body temperature during work at diffrerent environmental temperature, Acta. Physiol. Scand., 56, 120-129.

12）日本体育協会：スポーツ活動における熱中症事故ガイドブック（1998），22．

13）前掲書[11]，26-27．

14）和久貴洋(1998)：ジュニア期の夏期のトレーニングに関する実態と課題－平成9年度インターハイ出場校の実態調査から，平成9年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告，No.Ⅷ ジュニア期の夏期トレーニングに関する研究－第1報－，39－49．

15）山岡誠一，吉岡利治，木村みさか(1992)：運動と栄養，第5版，杏林書院，100．

16）前掲書[15]，94．

17）前掲書[15]，171．

18）朝山正己，彼末一之，三木健寿（1996）：運動生理学，第2版，東京教学社，53．

編集部註：筆者らのご厚意により、**平成10年度日本体育協会スポーツ医・科学研究研究報告**から転載させていただきました。記して感謝いたします。

【報告】　全日本大学男子選抜チーム ニュージーランド遠征計画

全日本大学ソフトボール連盟が主催するニュージーランド遠征が、来る2002年２月に行われますので、その概要を紹介します。

遠征の目的は、全日本大学ソフトボール連盟加盟男子大学から20名の選手を選抜し、世界のソフトボールで最もレベルが高いと言われているニュージーランドに訪問し、交流試合やホームステイを通じての人的交流・親睦を深め、その技術向上を目指すものである。これにより、大学の枠を越えた学生交流の充実、国際交流及び相互理解を深めることを目的とする。また、行程と参加者は次のとおりである。

日	日付	都　市　名	現地時間	交通機関	行　　程	宿泊
1	2/7	関西国際空港	18：15	NZ－98	空路、オークランドへ	機中泊機
2	2/8	オークランド オークランド ウェリントン	09：05 11：30 12：30	NZ-427	空路、ウェリントンへ	Home Stay
3	2/9	ハットバレイ			ダブルヘッダー	Home Stay
4	2/10	ハットバレイ			ダブルヘッダー	Home Stay
5	2/11	ハットバレイ			終日：自由行動	Home Stay
6	2/12	ハットバレイ			ダブルヘッダー	
7	2/13	ロトルア		バス	ロトルアへ	
8	2/14	ロトルア			ロトルア観光	Hotel
9	2/15	オークランド		バス	オークランドへ	Home Stay
10	2/16	オークランド			ダブルヘッダー	Home Stay
11	2/17	オークランド			ダブルヘッダー	Home Stay
12	2/18	オークランド 関西国際空港	09:30 16:55	N-97	帰国	

【報告】　全日本大学男子選抜チーム ニュージーランド遠征計画

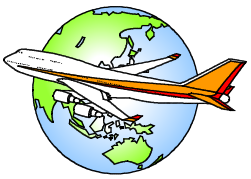
全日本大学ソフトボール連盟が主催するニュージーランド遠征が、来る2002年２月に行われますので、その概要を紹介します。

遠征の目的は、全日本大学ソフトボール連盟加盟男子大学から20名の選手を選抜し、世界のソフトボールで最もレベルが高いと言われているニュージーランドに訪問し、交流試合やホームステイを通じての人的交流・親睦を深め、その技術向上を目指すものである。これにより、大学の枠を越えた学生交流の充実、国際交流及び相互理解を深めることを目的とする。また、行程と参加者は次のとおりである。

日	日付	都　市　名	現地時間	交通機関	行　　程	宿泊
1	２/７	関西国際空港	18：15	NZ－98	空路、オークランドへ	機中泊機
2	２/８	オークランド オークランド ウェリントン	09：05 11：30 12：30	NZ-427	空路、ウェリントンへ	Home Stay
3	２/９	ハットバレイ			ダブルヘッダー	Home Stay
4	２/10	ハットバレイ			ダブルヘッダー	Home Stay
5	２/11	ハットバレイ			終日：自由行動	Home Stay
6	２/12	ハットバレイ			ダブルヘッダー	
7	２/13	ロトルア		バス	ロトルアへ	
8	２/14	ロトルア			ロトルア観光	Hotel
9	２/15	オークランド		バス	オークランドへ	Home Stay
10	２/16	オークランド			ダブルヘッダー	Home Stay
11	２/17	オークランド			ダブルヘッダー	Home Stay
12	２/18	オークランド 関西国際空港	09:30 16:55	N-97	帰国	

参　加　者　名　簿

No.	氏　名	役職・位置	所属大学	学年	住　所
1	大内　敬哉	団長	中京大学		愛知県
2	末井　健作	副団長	姫路工業大学		兵庫県
3	森田　啓之	総務	兵庫教育大学		兵庫県
4	高橋　伸次	監督	高崎経済大学		群馬県
5	田中　徹浩	コーチ	日本体育大学		東京都
6	川口　　大	投手	日本体育大学	4	千葉県
7	杉田　　剛	捕手・一塁手	日本体育大学	4	東京都
8	花田　和也	中堅手	日本体育大学	4	東京都
9	辻本　真一	三塁手	中京大学	3	愛知県
10	福井　庸祐	二塁手・三塁手	中京大学	3	愛知県
11	橋口　智広	左翼手	中京大学	3	愛知県
12	中尾　太一	投手	福岡大学	3	福岡県
13	織方　勝美	投手	福岡大学	3	福岡県
14	太田　順也	捕手	福岡大学	2	福岡県
15	浦野　将喜	三塁手	福岡大学	1	福岡県
16	桑名　俊介	投手	明星大学	3	東京都
17	井前　　穣	中堅手	明星大学	3	東京都
18	四方　鉄也	投手	神戸学院大学	2	兵庫県
19	吉田　智行	捕手	神戸学院大学	4	兵庫県
20	小島　郊正	一塁手	関西大学	4	大阪府
21	江越　市作	二塁手・遊撃手	同志社大学	4	京都府
22	海江田智成	二塁手	岡山理科大学	3	岡山県
23	藤本　孝徳	遊撃手	岡山理科大学	3	岡山県
24	由田　良一	二塁手	兵庫教育大学	1	兵庫県
25	藤原　祐介	外野手	広島大学	3	広島県
26	岡田　光悦	右翼手	学習院大学	1	埼玉県
27	知念　大紀	外野手	国際武道大学	1	千葉県



文部科学大臣杯第36回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成13年８月８日(水)～８月11日(土)
会場：茨城県下妻市砂沼広域公園スポーツゾーン野球場・
下妻第一高校・市営柳原球場Ａ・Ｂ

大会概要

昨年の香川県での酷暑の大会とは異なり、やや涼しく感じられた今大会であった。しかし、選手たちのプレーは昨年にもまして熱かったような気がした。そんな中で、今大会を征したのは日本体育大学（２年連続24回目）であった。その決勝戦の相手国士舘大学との一戦は、川口投手（日体）と照井投手（国士舘）による投手戦となり、４回にあげた１点を守りきった川口投手に軍配があがった。惜しくも敗れた国士舘大学であったが、照井投手は１年生であることから今後の国士舘大学からは目を離せない。また、今大会の日本体育大学は、古めかしいかも知れないが、「心・技・体」の内の「心」を感じさせるチームであったように思うのは、私だけであろうか？　監督、主将を中心にすばらしいチーム作りがなされたように思われる。今後もさらに期待したい。

ところで、最終日の早朝には大会の延期かと思わせるような雨が降り、思わず関係者をひやりとさせた。しかしながら、下妻市の関係者のご努力により４日間の大会を無事終えることができた。この場をお借りして今大会の運営に携わっていただいた皆様へ心より感謝申し上げます。（学連広報委員　山本英弘　朝日大学）

大会感想等

大会は精鋭32チームが茨城県下妻市に会して覇権を争った。平成14年の高校総体男子大会のリハーサルという性格をもって開催された関係もあって、会場等の施設、開会式・閉会式等の式典はそれなりの工夫が凝らされていた。

大会期間中は最終日以外好天に恵まれた。最終日は驟雨に見舞われたが、試合時間前には雨が上がり、整備されたグラウンドは絶好のコンディションであった。

競技の結果は前年の覇者「日本体育大学」が32年ぶりの優勝を目指す「国士舘大学」の挑戦をはねのけて、二連覇で通算24度目の栄冠を手中に収めた。

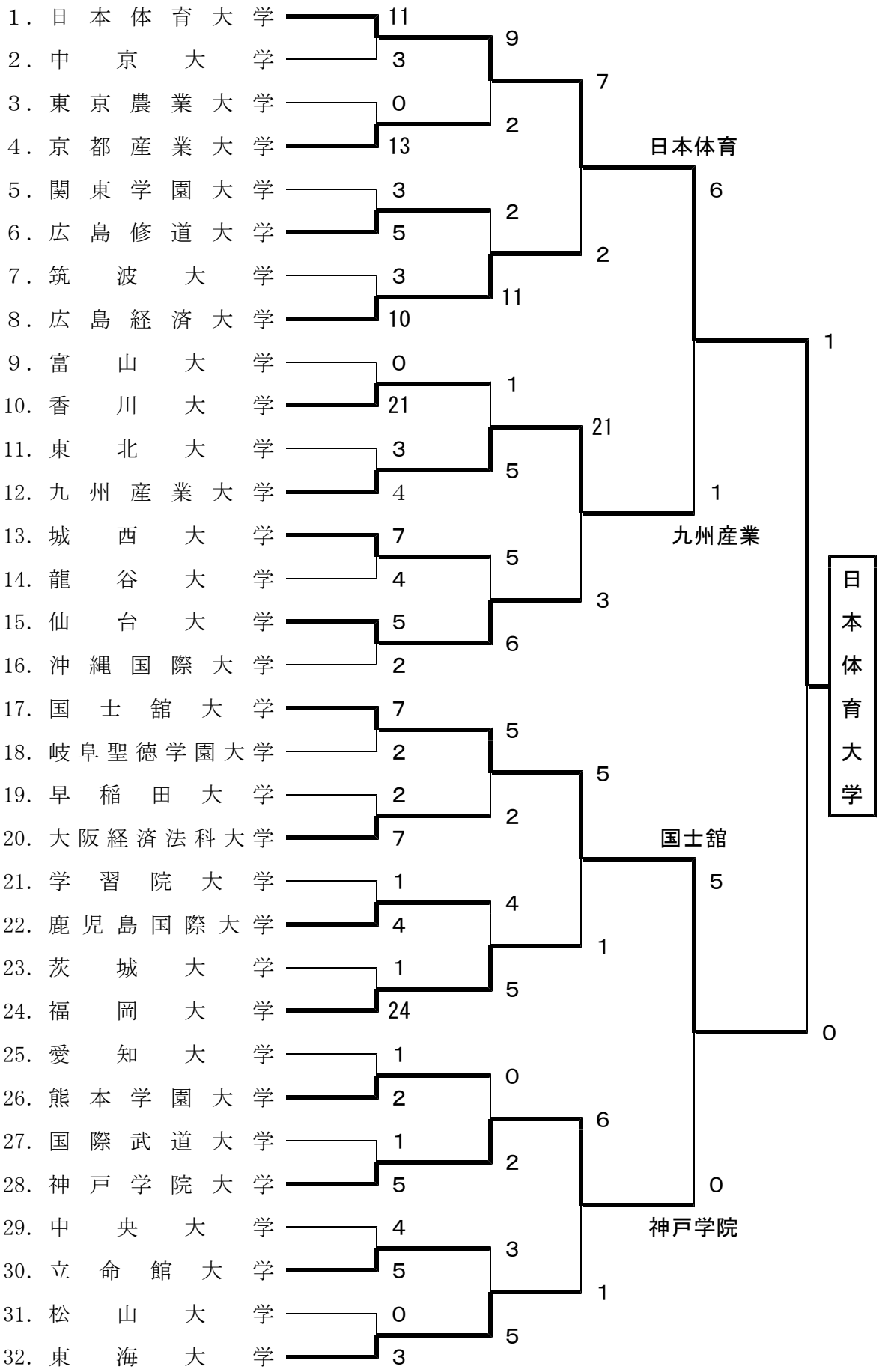
準優勝「国士舘大学」は善戦し、「日本体育大学」をあと一歩と追い詰めたが及ばず涙を呑んだ。三位の「九州産業大学」、「神戸学院大学」共に準々決勝までは健闘したが、準決勝ではそれぞれ完敗して決勝戦進出はならなかった。（大会記録長　矢島利克）

印象に残った選手

上位チームにはそれぞれ好投手がいる。中でも「日本体育」川口は防御率0.26、奪三振40で５勝をあげ、チームを優勝に導いた。「国士舘」は左腕照井、右腕武智の２枚看板で決勝に進出した。「神戸学院」四方は防御率1.12で３勝をあげチームを３位に導いた。

打撃部門では「広島経済」花木が0.600(10－6)で打撃ベストテン１位、「日本体育」花田が0.563(16－9)、「九州産業」松本が0.500(12－6)で続いている。また「日本体育」杉田の打点７、本塁打２、「国士舘」中屋の打点６、本塁打２はチャンスに強くそれぞれがチームの勝ち進む原動力になっていた。（大会記録長　矢島利克）

大会結果


1．日本体育大学 11
2．中京大学 3
3．東京農業大学 0
4．京都産業大学 13
5．関東学園大学 3
6．広島修道大学 5
7．筑波大学 3
8．広島経済大学 10
9．富山大学 0
10．香川大学 21
11．東北大学 3
12．九州産業大学 4
13．城西大学 7
14．龍谷大学 4
15．仙台大学 5
16．沖縄国際大学 2
17．国士舘大学 7
18．岐阜聖徳学園大学 2
19．早稲田大学 2
20．大阪経済法科大学 7
21．学習院大学 1
22．鹿児島国際大学 4
23．茨城大学 1
24．福岡大学 24
25．愛知大学 1
26．熊本学園大学 2
27．国際武道大学 1
28．神戸学院大学 5
29．中央大学 4
30．立命館大学 5
31．松山大学 0
32．東海大学 3
9
2
11
1
5
5
6
2
4
5
0
2
3
5
7
2
1
3
5
1
6
1
日本体育
6
九州産業
1
国士舘
5
神戸学院
0
1
0
日本体育大学

決勝戦の結果

日本体育大学：０００１００｜１　（日）○川口－杉田
国士舘大学：０００００００｜０　（国）●照井－萩原

日本体育大学	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回
（一）⑥津本　大貴	**中前安**		三　振		三　振		
Ｈ山尾　竜則							三ゴロ
（二）３岡　　巧	三　振		三　振		**中前安**		
（三）１川口　　大	三犠バ			三　振	投　飛		
（四）２杉田　　剛	三　振			**左前安**		三　振	
（五）９勝呂　昌宏		死　球		**三バ安**		右　飛	
（六）５野須　康宏		三　振		**三遊安**		二ゴロ	
（七）８花田　和也		遊ゴロ		遊　直			遊ゴロ
（八）④小川　浩司		二ゴロ					死　球
Ｈ小野　洋平				三　振			
（九）Ｄ坂井　貴之			三ゴロ		遊ゴロ		右邪飛

DH守備７宮川　道雄

国士舘大学	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回
（一）７鈴木　周平	三　振			三　振		左邪飛	
（二）４高井　　純	遊　飛			三　振		四　球	
（三）８気田　朋幸	三　振			三　振		**三遊安**	
（四）⑨川畑　良太		遊　飛			四　球	三　振	
Ｒ宮里　洋一					三残塁		
（五）Ｄ若見　泰之		三　振			三　振		三　振
（六）５勝間田直樹		一ゴロ			一バ安		
Ｈ石川　和彦							中　飛
（七）③中尾　昌樹			**遊バ安**		三　振		遊ゴロ
Ｒ菊池　裕輔			盗塁死				
（八）２萩原　塁樹			二ゴロ		一ゴロ		
（九）⑥田辺　史佳			遊ゴロ				
Ｈ本郷　一昌						三　振	

DH守備１照井　賢吾

戦評：日本体育大学が２連覇を達成した。日本体育大学は、４回表一死後、杉田・勝呂・野須の３連続安打で挙げた１点を川口投手の力投で守りきり優勝した。国士舘大学は、４回まで３者凡退を続けていたが、５回ウラ一死、一・三塁の好機に後続が打ち取られ、照井投手の好投に報いられなかった。

決勝戦らしく、川口・照井両投手ともに激戦を勝ち抜いてきと通りの好投手であり、すばらしい投手戦であった。

プレッシャー～優勝～

日本体育大学男子ソフトボール部主将　杉田　剛

2001年８月８日から８月11日に渡って茨城県下妻市で行われた、文部科学大臣杯第36回全日本大学ソフトボール選手権大会は私達にとって最高の大会となり21世紀、最初の優勝に日本体育大学の名を刻むことができた。

振り返れば昨シーズン、大学タイトルを総なめにした前４年生の後を引き継ぎ、新チームを編成するにあたり、勝って当たり前、伝統あるチームと周囲の視線を感じながらの出発であった。更に私たち４年生が少なく下級生中心にチーム編成し、頼らなければならない状況にありチームの主将という立場に不安と期待のシーズンが始まった。

そして、新チームでの初大会、秋季リーグ戦は惜しくも準優勝に終わった。更に次の関東インカレもその次の東京都総合大会も返した優勝旗は帰ってこずチームにどことなく勝てないという不安感が流れていたと思う。シーズンが終わり冬のトレーニング、これを例年以上に苦しいものにし、ここで全員にインカレの優勝を意識させた。‘Champion’（王者）になるために‘Challange’（挑戦）・‘Competition’（競争）・‘Communication’（意思の疎通）の３つの‘Ｃ’ができた時に強くなるだろうと伝え、これを常に頭に入れて練習や試合をするようになった。この目標を掲げた成果が日々少しづつでてきてチームに活気がで、まとまりができてきた。今、振り返るとこの時がインカレ優勝までの序章だったのかもしれない。

そして、４月のリーグ戦からチームは勝ちつづけ、ここから自分達のスタイルを見つけながら順調に進んで行った。

インカレ！ついにこの時がきた。しかし、下級生中心の若いチーム、部員25名の内20名が下級生、まだまだ発展途上であり勝つか負けるか、どちらに転んでもおかしくないチーム状況であったが私は逆に楽しみだった。そして１回戦古豪中京大学に打ち勝った。ここから打線が波に乗り決勝戦まで駒を進めた。対国士舘大学、同じ東京都で切磋琢磨してきた相手。ここまで、打ち勝ってきたがこの試合では打線が沈黙、１点を取るのがやっと。ゲームセットまで我慢の連続。試合が長い、そして・・・・

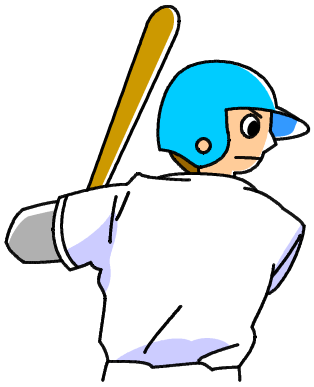
最後の最後まで成長しつづけたチームだった。日体大の新しいスタイル‘全員ソフト’ができあがった大会でもあった。

男子大会打撃ベストテン（規定打席数12以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
	8	花本　英隆	広島経済	12	10	6	4	4	2	・	・	2	・	・	1	600	2
	8	花田　和也	日本体育	16	16	9	5	2	・	・	・	2	1	3	1	563	5
○	9	松本　大樹	九州産業	14	12	6	1	3	1	1	・	3	2	6	・	500	4
	3	中屋　昌樹	国士舘	15	13	6	4	6	・	2	・	1	・	3	2	462	5
	2	高橋　聡太	九州産業	12	11	5	3	3	1	・	・	2	・	1	1	455	4
○	5	野須　康宏	日本体育	16	16	7	4	3	・	・	・	3	・	4	1	438	5
	2	杉田　剛	日本体育	16	14	6	6	7	・	1	1	4	・	3	・	429	5
○	2	滑　俊之	広島経済	12	12	5	1	3	・	・	・	2	1	2	1	417	3
○	3	岡　巧	日本体育	19	17	7	4	2	2	・	・	3	3	4	・	412	5
○	9	勝呂　昌宏	日本体育	16	15	6	2	4	・	・	1	・	・	5	1	400	5

男子大会上位チーム投手成績

左投	選手名	大学名	回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四死	奪三振	被本打	投球数	防御率	勝試合	負試合
	川口　大	日本体育	27	100	93	15	5	1	2	5	40	2	400	0.26	5	0
	山尾　竜則	日本体育	7.1/3	25	25	3	1	1	・	・	8	1	81	0.95	0	0
	澤井　孝延	日本体育	0.2/3	4	4	2	2	2	・	・	・	1	7	21.0	0	0
○	照井　賢吾	国士舘	19.1/3	74	67	8	3	3	2	5	19	1	248	1.09	2	1
	武智　大輔	国士舘	14.2/3	55	51	9	2	1	1	3	15	・	173	0.48	2	0
	剣持　有介	国士舘	1	4	2	・	1	1	・	2	・	・	20	7.00	0	0
	村井　祐介	九州産業	18	77	68	17	9	9	1	8	18	2	283	3.50	2	1
	馬場　忠史	九州産業	9	39	36	9	4	4	1	2	6	1	152	3.11	1	0
	四方　鉄也	神戸学院	25	98	88	17	4	4	3	7	25	1	341	1.12	3	1
	丸野　貴士	神戸学院	2	13	11	6	3	3	・	2	1	2	51	10.5	0	0



文部科学大臣杯第36回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成13年８月８日(水)～８月11日(土)

会場：茨城県古河市市民野球場・古河第一高校・古河第二高校・古河第二中学校

大会概要

前年度優勝の東京女子体育大学・準優勝の園田学園女子大学に、全国からの代表21校と地元推薦の筑波大学を加えた計24校で本年度の大学日本一が争われた。全23試合のうち、１点差ゲームは10、延長戦での決着はタイブレーカーが適用された５試合を含めて７試合、最多得点試合の新記録があったものの、全体としては非常に内容の濃い大会であった。

最も注目された東京女子体育大学の戦いは、増淵投手を擁して４連覇に輝いたが、全４試合がすべて１点差ゲームであり、うち３試合が延長戦にもつれ込み、タイブレーカーによる勝利も２試合あった。それだけ勝負強さを見せつけたが、決定力に欠けていたのも否めない。増淵投手もここぞという時はさすがに球威を見せつけたが、全体的には今ひとつで本調子ではなかったように思われる。鉄壁の守備とスタンドの応援が４連覇に大いに貢献したようだ。薄氷の４連覇と言えよう。中でも２回戦の対日体大戦は、３時間26分という最長延長試合時間の新記録を作り、大学ソフトボールの球史に残るであろう接戦であった。

一方準優勝の東海女子大学は、チーム打率３割８分１厘、５本の本塁打を含む長打15本の打力で決勝戦に進出した。増淵投手の前に散発５安打無得点に抑えられたとはいえ、打力でははるかに東京女子体育大学を凌ぎ、小長井投手の好投と相まって一歩も引かない見事な戦いであった。

３位の大谷女子大学・園田学園女子大学を除いて特に注目されたのは、唯一の初出場校東海学園大学である。アトランタオリンピックコーチの長澤監督に率いられた１年生だけのチームは、溌剌とした戦い振りでベスト８まで進出した。来年以降が楽しみである。また、本大会は西日本の大学の健闘が目に付いた。大学女子の勢力地図に地殻変動の兆しを感じるのは私だけであろうか。（学連広報記録委員長　水谷　博　中京女子大学）

大会感想

古河市で開催された文部大臣杯第36回全日本大学選手権大会は東京女子体育大学の４連覇と増淵の大学選手権無敗でその幕を閉じた。

大会は古河市民野球場を主会場に市内の高校・中学で行われたが、会場が比較的遠く離れていて何かと連絡が難しく、加えて来年のインターハイを目指した高校関係者と行政及び協会との関係も今ひとつの観があった。

試合は優勝候補筆頭の東京女子体育大学が順当に勝利を収めたが、最多得点試合と最長延長試合時間が更新されるなど何かと話題が多かった。

中でも国際級投手の増淵が、過去３年間無失点で勝ち続けた記録がどこまで伸ばされるかが一つの焦点であった。しかしこの期待は日本体育大学が２回戦ではやばやと破った。日体大の増淵対策は２塁打４本を含む８安打となって現れ３回表に得点１を挙げた（増淵は大会初の自責点）。東女体と日体との試合は３時間26分という最長延長時間を更新する

熱戦で、二回戦で戦わせるにはもったいない試合だった。

大会運営では、試合に先立つ球場整備やライン引きは、審判員が自ら率先して行うなど、競技役員の奮闘振りが目立った大会だった。（大会記録長　佐藤健三）

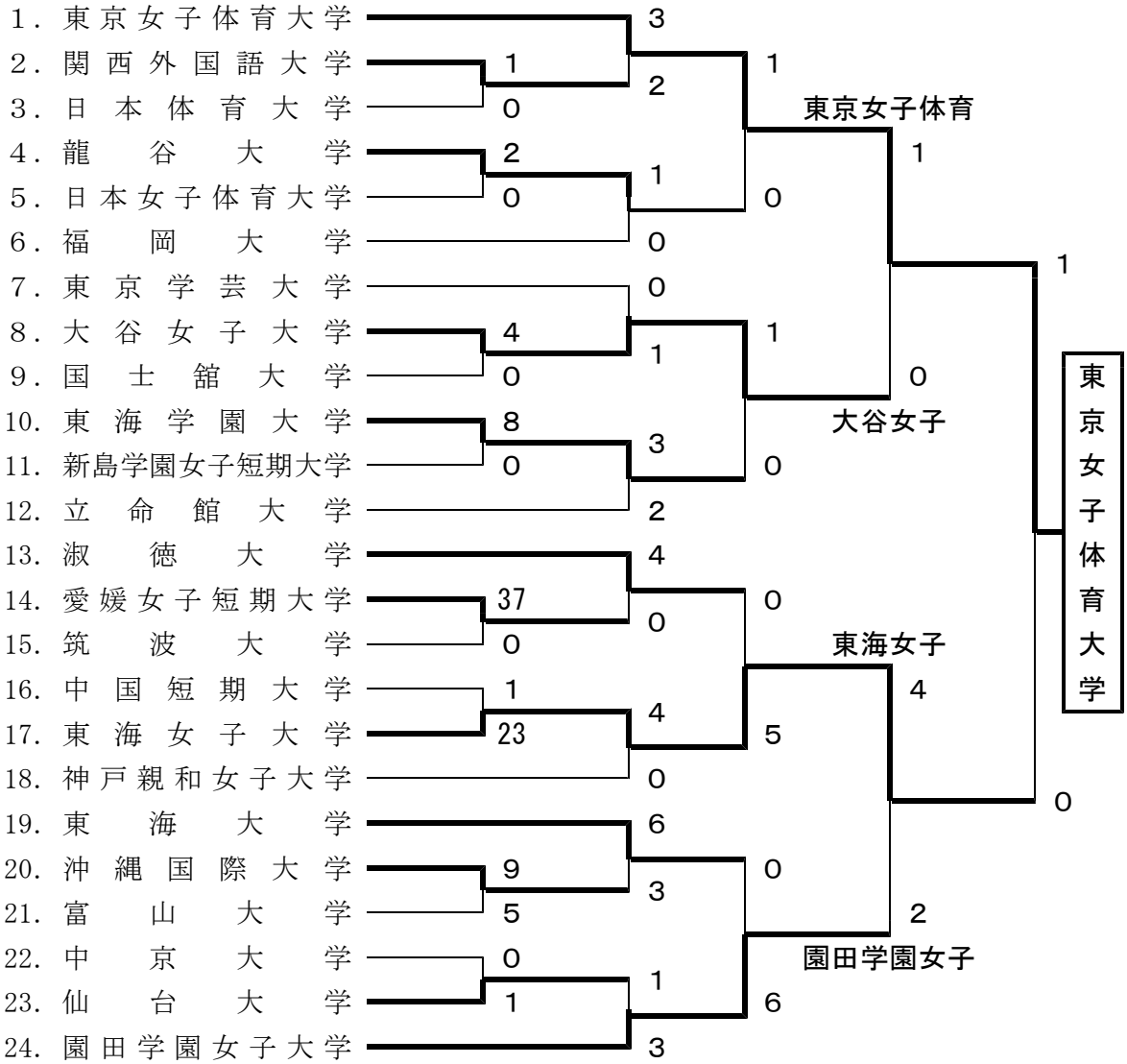
印象に残った選手

投手では増淵まり子（東女体）のほか福井円（大谷女）小長井美希（東海女）寺原満美（日体）山下郁代（龍谷）それに１年の宮本（東海学園）等の活躍が目に付いた。

打撃部門では本塁打２本三塁打１本の長打３本を含む11安打の竹澤苑美と、本塁打２本三塁打２本二塁打１本の長打５本を含む９安打の大滝百合香（いずれも東海女）の打力が光っていた。

守備では東女体７回裏二死一三塁での痛烈な中堅前田を矢のような返球で一塁走者を二封し、サヨナラを回避した日体の東美幸主将の好判断や、大谷の中村選手の左翼を越えフェンスに達する大飛球を短打に食い止めた古渡左翼手（東女体）など外野手にひときわ目立つ選手が多かった。（大会記録長　佐藤健三）

大会結果



決勝戦の結果

東海女子大学：０００００００００００００ | ０（海）●小長井－小川
東京女子体育大学：０００００００００００１X | １（京）○増淵－武井

東海女子大学	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回	９回	10回	11回
一４大瀧百合香	三　振			左邪飛		左　飛		三　振			投ゴロ
二９西埜　真紀	三遊ゴ			投ゴロ		（ＤＰ）*死　球*		Ｄ　三　振			
三⑤大矢　留美	三ゴロ			**右前安**			二ゴロ	Ｐ　三　振			
Ｒ畠山　知佳				残　塁							
四③高野　智子		三　振		左　直			遊ゴ失		三　振　Ｒ		
Ｒ徳田　暁美							残　塁			（守妨害）	
五Ｄ竹澤　苑美		三　振			中　飛		**右前安**				
RD山田江利子							残　塁			投　飛	
六７東　　芳美		三　振			一ゴロ		*四　球*			**二内安**	
七①小長井美希			投ゴロ		三　振		三　振			遊ゴロ	
Ｒ佐藤　夕子											Ｒ
八⑥川瀬加奈子			三　振					三　振			三　振
Ｈ牟田　知里						投ゴロ					
九８中岡加奈子			投ゴロ			**遊内安**		遊内安			捕邪飛
Ｈ岡田麻紀子								三ゴロ			

DH守備２小川　浩世

東京女子体育大	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回	９回	10回	11回
一４佐藤　理恵	二ゴロ		三ゴロ			二　直		左　飛			二ゴロ
二９太田真紀子	投ゴロ		投ゴロ			投ゴロ					
９豊住　良重									投バ失		遊野選
三Ｄ五十嵐清夏	*死　球*			二ゴロ		一ゴロ			三　振		**二内安**
四７古渡　美奈	三　振			遊ゴ失			遊ゴロ		中　飛		
五３神田　多栄		三　振		三　振			三　振		投ゴロ	Ｒ	
六６宮下　絵美		三ゴロ		捕ゴロ			三ゴロ			*一犠バ*	
七１増淵まり子		遊ゴ失			二ゴロ			二ゴロ		二ゴロ	
八⑤竹野　友貴		投ゴロ			二ゴロ			**中越2B**		三ゴロ	Ｒ
Ｒ北本　三記								塁上死			塁上死
九⑧荻原あさみ			三　振		三ゴロ						*捕犠野*
Ｈ岡田麻紀子								三ゴロ			

DH守備２武井　沙織

戦評：東京女子体育大学、タイブレーカーで逃げ切って４連覇を達成。
東京女子体育大学は、11回、野手選択、犠打でランナーを進め、エンドランのかかった五十嵐の二塁ゴロの間にホームをおとしいれ、決勝点を奪ってサヨナラゲームで勝利を得た。東海女子大学の小長井投手も好投を見せ、決勝戦にふさわしい好試合であった。

全日本大学選手権を振り返って

東京女子体育大学ソフトボール部　主将　神田　多栄

今年の全日本大学選手権大会は、我がソフトボール部が創設されて以来初の四連覇がかかった大会となりました。過去の卒業生が、一年一年積み重ねてきた歴史を更新しなくてはならない責任と、それを来年の後輩へと託すべく大きな意味のある大会でした。今シーズンは昨年までの確実性のある打撃の中心が抜けた打線をどう補うかがチームの課題で、それを克服するために練習に励んで来ました。全ては四連覇のために・・・。

大会初戦、対日本体育大学戦。過去三年間大学選手権大会に於いて無失点を誇るエース増淵を起てての試合、私たちは決勝戦のつもりで臨みました。試合は日体大に三回、二塁打と犠牲フライで一点先攻された。　これは、エース増淵にとっても、過去にない最悪の形になってしまった。しかし、劣勢にまわった私たちは、四回、四球の走者を足掛かりに増淵自らのタイムリーヒットで何とか追い着き試合を振り出しに戻した。その後は両チーム共走者を出しながらも得点に至らず、延長戦にもつれ込んだ。そして、タイブレーカーに入った十回、先攻の日体大は無死二塁で強攻策に出たが外野フライで一死、しかし、次打者は四番鈴木選手、最も警戒すべき打者。一塁ベースは空いていたが勝負に出た。三球目をレフトオーバーに痛打され追加点を許してしまった。しかし、その後は後続の打者を三振に抑え、何とか一失点で喰い止める事が出来た。その裏得点出来なければ試合は終わってしまう。私たちは、この回の攻撃に全てを賭けた。打順の巡り合わせが良くない。犠牲バントで走者を進め、代打岡田を起てた。見事期待に応えライト前ヒットで同点に追い着いた。その後ヒット、四球で満塁にまで攻め立てたが、あと一本が出ず又も同点止まりに終わった。そして十一回日体大は、十回同様の攻撃で先頭打者が三振。その後次打者が四球で一、二塁になったが九番、一番を内野ゴロに仕留め相手を無得点に抑えた。ここで一点取れば勝てる。私たちは定石通り又も走者を三塁に進め、二番打者に全てを賭けた。会場の雰囲気は最高潮に達していた。太田、センター前へタイムリーヒット、三塁走者がホームに駆け込みサヨナラゲーム。三時間四十分に至る死闘に幕を閉じた。

練習の成果を出せないまま終わってしまった第一戦、私たちは一生懸命練習に取り組んで来たことを信じ二回戦目に臨んだ。早く点を取って増淵を楽にさせたいという思いも実らずこの試合もホームランの一点のみで辛くも勝利。

二日目準決勝対大谷女子大戦、内容は八本のヒットを打ちながら打線が繋がらない。ようやく延長八回、二死一、三塁、相手の失策で試合に決着がついた。

そして、決勝戦。準決勝までの反省を生かし、少しでも良い試合をと臨んだが不振の打撃は相変わらず、しかし貧打に苦戦しながらも増淵の気迫の投球が一点を守りきり何とか勝利することが出来、結果四連覇を達成することが出来た。

優勝までの道のりは長く苦しかったが、スタンドで声を大にして応援してくれた部員の支えがあったことを思えば、六十余名の中から選手として選ばれたものが、個々の仕事を全う出来なかった事が心残りでもあり、最後まで納得のいくものではありませんでした。

そして、一喜一憂しながらも、最後まで応援して下さったご父兄や卒業生に対し、感謝

の気持ちでいっぱいです。

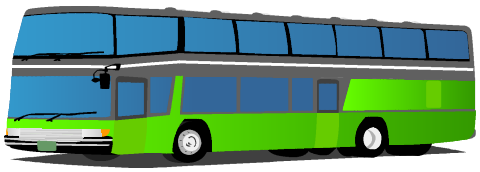
過去の三連覇とは違って本当に苦しい大会でしたが、チーム全員の力で歴史を更新出来た事をこれから後輩たちに託したいと思います。

女子大会打撃ベストテン（規定打席数９以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
	2	金岩ゆかり	園田学園	9	7	5	3	1	1	・	1	・	1	1	・	714	3
○	6	島袋　千香	沖縄国際	9	6	4	4	2	2	1	・	・	・	1	・	667	2
○	13	竹澤　苑美	東海女子	18	18	11	4	8	・	・	・	1	・	5	2	611	5
	6	伊佐亜紀乃	愛媛女子	10	10	5	4	・	・	・	・	・	1	1	・	500	2
○	4	大瀧百合香	東海女子	22	20	9	9	7	・	1	1	3	・	3	2	450	5
	5	安川むつみ	愛媛女子	9	9	4	4	2	・	・	・	・	・	1	・	444	2
○	3	衣笠　有美	東海学園	9	9	4	1	・	・	・	・	4	・	1	・	444	3
○	7	嘉納亜衣子	日本体育	9	7	3	1	・	2	・	・	・	3	3	・	429	2
	5	大矢　留美	東海女子	22	22	9	9	6	・	・	・	4	1	4	1	409	5
○	9	西埜　真紀	東海女子	18	15	6	2	1	1	1	1	1	2	2	・	400	5

女子大会上位チーム投手成績

左投	選手名	大学名	投球n回3	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四死	奪三振	被本打	投球数	防御率	勝試合	負試合
	増淵まり子	東女体	37	131	121	14	2	1	3	7	41	・	441	0.19	4	0
	小長井美希	東海女子	31.1	119	112	15	3	3	2	5	21	・	421	0.67	3	1
	有馬　博美	東海女子	2	8	7	3	・	・	・	1	・	・	22	0.00	0	0
	竹澤　苑美	東海女子	3	9	9	・	・	・	・	・	1	・	22	0.00	0	0
	梶　千恵	東海女子	2	9	9	3	1	1	・	・	・	・	17	0.00	0	0
	福井　円	大谷女子	26.2	96	91	15	1	・	1	4	30	・	394	0.00	3	1
	山下　朋子	大谷女子	8	29	27	4	・	・	・	2	5	・	99	0.00	0	0
	金子　直美	園田学園	10	40	39	9	・	・	・	1	8	・	138	0.00	1	0
	濱田みゆき	園田学園	9	36	32	6	5	5	1	3	10	1	122	3.89	1	1
	池永　順子	園田学園	2	8	7	1	・	・	・	1	1	・	26	0.00	0	0



球史に残る２回戦（最長延長時間の新記録を記録した試合）

今年のインカレ２回戦で素晴らしい試合がありました。46ページの試合番号９の試合です。イニングスコアだけではそれが伝わらないと思いましたので、以下に紹介します。

試合の興味は、東京女子体育大増淵対日本体育大打線の対決にありましたが、それを十二分に堪能させてくれたばかりでなく、両チームの守備力には感動さえ覚えました。特に、７回ウラ二死一三塁での中堅前打で誰もが東京女子体育大のサヨナラと思った瞬間、日体大中堅東が矢のような送球で一塁走者を二封したプレーはいつまでも観衆の記憶に残るでありましょう。（学連広報記録委員長　水谷　博）

日本体育大学：００１０００００００１０ | ２（日）●手原－鈴木
東京女子体育大学：０００１０００００１１X | ３（東）○増淵－武井

日本体育大学	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回	９回	10回	11回
一６藤本　索子	遊ゴロ		中犠飛		投　直		一ゴロ		一ゴロ		二ゴロ
二７喜納亜衣子	二ゴロ		遊　飛			**遊内安**			中　飛	R	
三３永原　恵美	三　振			中　直		三　振	三ゴロ			左邪飛	
四２鈴木　由香		中　飛		**遊内安**		*四　球*		二　飛		**左越2B**	
五５金谷　麻美		三　振		*三犠バ*		**三遊安**		三ゴロ		三　振	
六Ｄ宮越　麻衣		**右２Ｂ**		*四　球*		三　振		三　振		三　振	
Ｒ有元　皆歩					ＤＰ						Ｒ
七①手原　満美		三　振		二　飛		三　振					三　振
Ｈ小森　由香									一邪飛		
八４中村　藍子			三　振		四	球					
H4白井　沙織							**中越2B**		**左前安**		*四　球*
九８東　美幸			左中2B		投ゴロ		三野選		一犠野		一ゴロ

DH守備９大舘　実弓

東京女子体育大	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回	９回	10回	11回
一45佐藤　理恵	**右中2B**		**中前安**		遊ゴロ		一ゴロ		**中前安**		*捕犠バ*
二９太田真紀子	*三犠バ*		右ゴロ		三　振		**投バ安**		**中前安**		**三遊安**
三Ｄ五十嵐清夏	遊ゴロ		左　飛			**右前安**	中ゴロ		一ゴロ	R	
四③神田　多栄	*四　球*			四　球		右ゴロ		右　飛			
Ｈ品川　典子										投ゴロ	
五７古渡　美奈	三ゴロ			三　飛		右　飛		左邪飛			
Ｈ岡田麻紀子										**一二安**	
六６宮下　絵美		投　直		*三犠バ*		**左前安**		*死　球*		**左前安**	
七１増淵まり子		二ゴロ		中前安		遊ゴロ		遊　飛		一ゴロ	
八⑤竹野　友貴		遊　飛		遊　飛			*死　球*		遊ゴロ		
Ｒ萩原あさみ							塁上死				
Ｈ藤川沙矢香（11回４稲垣彩子）										*四　球*	
九８豊住　良重			中　飛		三ゴロ		投ゴロ		遊　飛	左　飛	R

DH守備２武井　沙織

日本体育大学	席	打	安	得	点	犠	球	振	盗	補	刺	失
一６藤本　索子	６	５	・	・	１	１	・	・	・	６	３	・
二７喜納亜衣子	５	５	１	１	・	・	・	・	１	・	３	・
三３永原　恵美	５	５	・	・	・	・	・	２	・	・	３	・
四２鈴木　由香	５	４	２	・	１	・	１	・	・	１	１	・
五５金谷　麻美	５	４	１	・	・	１	・	２	・	４	２	・
六Ｄ宮越　麻衣	５	４	１	・	・	・	１	３	・	・	・	・
Ｒ有元　皆歩	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
七①手原　満美	４	４	・	・	・	・	・	３	・	２	１	・
Ｈ小森　由香	１	１	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
八４中村　藍子	２	１	・	・	・	・	１	１	・	１	３	・
H4白井　沙織	３	２	２	・	・	１	・	・	・	・	４	・
九８東　美幸	５	４	１	１	・	１	・	・	・	１	１	・
DH守９大舘実弓	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	２	２
合　計	46	39	８	２	２	３	４	11	１	19	31	・

東京女子体育大	席	打	安	得	点	犠	球	振	盗	補	刺	失
一45佐藤　理恵	６	５	３	・	・	１	・	・	・	１	３	・
二９太田真紀子	６	５	３	・	１	１	・	１	・	・	・	・
三Ｄ五十嵐清夏	５	５	１	１	・	・	・	・	・	・	・	・
四③神田　多栄	４	２	・	１	・	・	２	・	・	４	７	１
Ｈ品川　典子	１	１	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
五７古渡　美奈	４	４	・	・	・	・	・	・	・	・	１	・
Ｈ岡田麻紀子	１	１	１	・	１	・	・	・	・	・	・	・
六６宮下　絵美	５	３	２	・	・	１	１	・	・	１	３	・
七１増淵まり子	５	５	１	・	１	・	・	・	・	１	１	・
八⑤竹野　友貴	４	３	・	・	・	・	１	・	・	４	１	・
Ｒ萩原あさみ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
Ｈ藤川沙矢香	１	・	・	・	・	・	１	・	・	・	・	・
４稲垣　彩子	・	・	・	・	・	・	・	・	・	１	１	・
九８豊住　良重	５	５	・	１	・	・	・	・	・	・	５	・
DH守２武井沙織	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	11	・
合　計	47	39	11	３	３	３	５	１	・	12	33	１

	打席	打数	被安	失点	自責	被犠	与四	与死	奪三	本打	暴投	不投	投数	勝敗
日本体育大 手原　満美	47	39	11	3	1	3	3	2	1	0	0	0	150	●
東京女子体大 増淵まり子	46	39	8	2	1	3	4	0	11	0	1	0	160	○

戦評：速報記録員　佐藤健三

東女体、タイブレーカーで日体大に辛勝。最長延長試合時間記録を更新した熱戦であった。

東女体は延長11回、犠打と２番太田の三遊間安打で日体大を振り切り、サヨナラ勝ちを納めた。日体大は３回、８番二塁打の東を暴投と１番藤本の犠飛で生還させ、増淵のインカレ無失点記録をあっさり破って先制した。しかし、東女体は４回、四球と犠打でつかんだ好機にその増淵が中堅前に安打して同点に追いついた。その後は両チームの巧打好守で延長からタイブレーカーにもつれ込んだ。

戦評：担当記録員　有川喜一郎

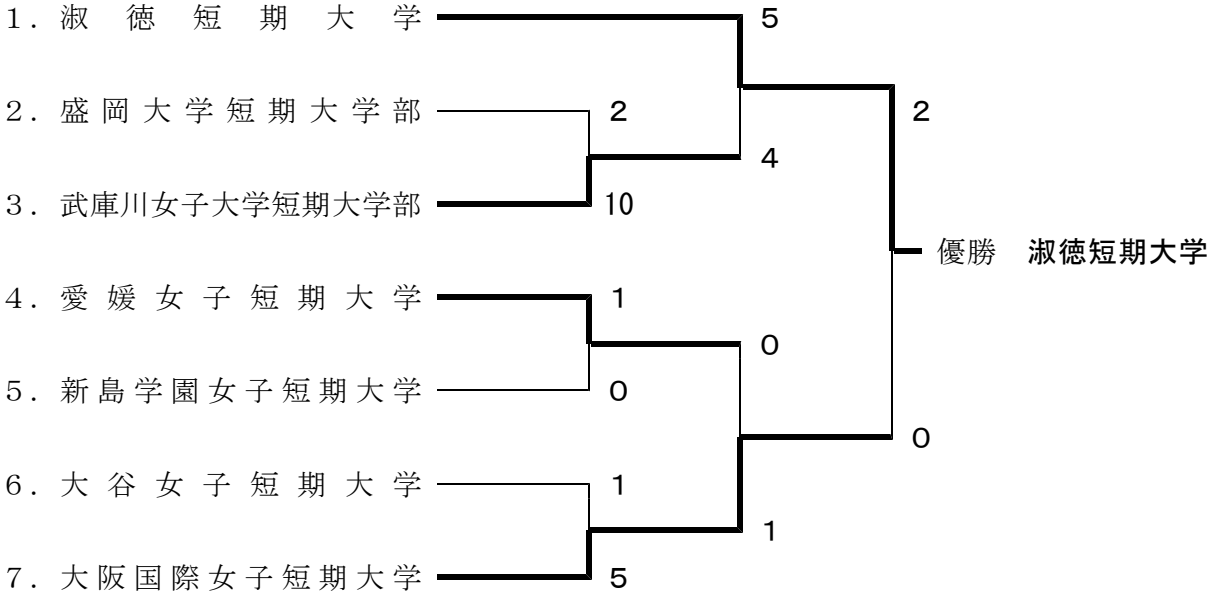
東京女子体育大は、４回、四球の走者を安打と犠打・敵失をからめて同点としたが、その後は得点なく、タイブレーカー11回、ようやく犠打と２番太田の三遊間安打でサヨナラ勝ちを収めた。日本体育大学は３回、東の二塁打で先制し、世界の増淵投手に堂々と挑み、再三塁上を賑わしたが、要所を締められ、10回の再リードを守れず涙を飲んだ。

伝統・名門校同士のゲーム、最長延長時間更新とは・・・。

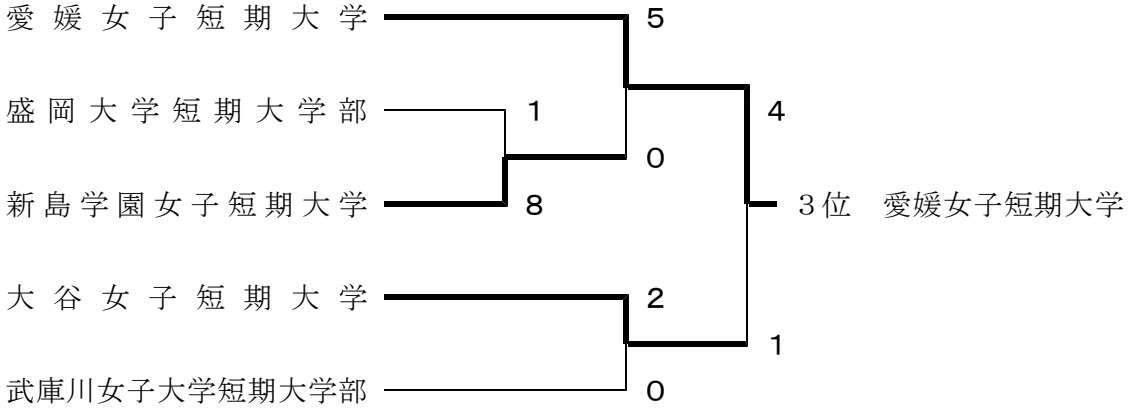
第７回全日本女子短期大学ソフトボール大会

会期：平成13年８月24日（金）～８月25日（土）
会場：明星大学日野キャンパス野球場

試合結果



敗者復活戦



大会感想

第７回大会は昨年と同じ明星大学日野キャンパスで開催され、心配された台風通過の後遺症もなく絶好な天候となり、よく整備されたグラウンド状態のもとで熱戦が繰り広げられた。

決勝戦は昨年と同じく淑徳短期大学と大阪国際女子短期大学の対戦となり、延長９回の末淑徳短期大学が２年連続３回目の優勝を飾った。

昨年より参加校数が減った関係上、敗者復活戦方式を採用して各チームは最低２試合以上戦えるように配慮された。しかし、敗者復活戦組合せの日程から、武庫川女子大学短期大学部は１日３試合を戦うことになった。炎天下での３試合目は疲れがありありと見受けられ、気の毒であった。（記録長　小川光弘）

大会打撃ベストテン（規定打席数５以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
○	8	金子　篤美	新　島	11	9	5	・	1	2	・	・	1	・	5	・	５５６	3
	6	山下　早苗	武庫川	9	8	4	・	2	・	1	・	・	・	4	・	５００	3
	2	橋本夕紀子	淑　徳	8	6	3	2	1	・	1	1	2	1	3	・	５００	2
○	3	小山田瑞穂	盛　岡	5	4	2	・	2	・	・	1	・	1	1	・	５００	2
	1	永石　緑理	愛媛女子	5	4	2	1	・	・	1	・	・	・	2	・	５００	4
	5	西舘真由美	盛　岡	5	4	2	2	・	・	1	・	・	・	・	・	５００	2
	3	東郷由香里	大谷女子	11	11	5	・	2	・	・	・	2	・	3	・	４５５	3
	9	福井　佐苗	大谷女子	8	7	3	・	・	1	・	・	・	・	3	・	４２９	3
○	DH	喜納　聡美	愛媛女子	7	7	3	・	1	・	・	・	2	1	1	・	４２９	2
○	1	森　雅代	武庫川	11	10	4	1	・	・	・	1	1	1	3	・	４００	3

大会投手成績

左投	選手名	大学名	回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四死	奪三振	被本打	投球数	防御率	勝試合	負試合
	永石　緑理	愛媛女子	21	73	68	13	1	1	2	3	25	・	267	0.33	2	1
	村松　　歩	大阪国際	21	80	70	13	3	1	7	3	13	・	271	0.35	2	1
	糺　　綾子	大谷女子	13.1/3	45	42	3	1	1	・	3	3	・	169	0.53	1	0
	森　　雅代	武庫川	8	38	37	12	2	1	1	・	1	・	101	0.88	0	1
	水野　絵美	淑　　徳	8.2/3	36	31	6	3	2	1	4	・	・	119	1.62	2	0
	中川　直美	武庫川	12	55	37	6	7	7	2	16	7	・	224	4.08	1	1
	工藤あさひ	盛　　岡	10.2/3	64	42	16	18	13	4	18	3	1	234	8.53	0	2

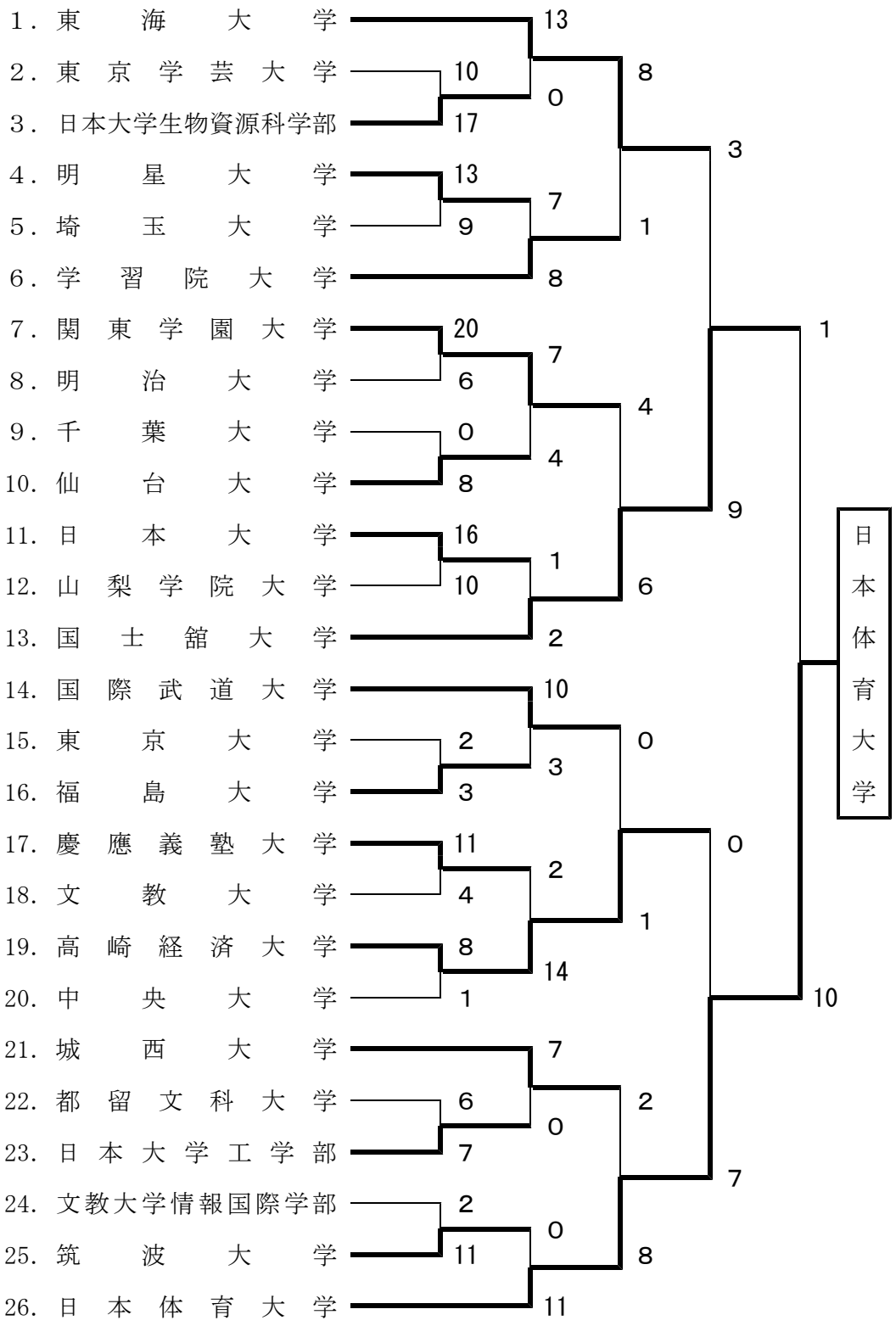
編集部註：全日本女子短期大学ソフトボール大会は、学連の30周年を記念して1995年９月に学習院大学のグラウンドで初めて開催されました。その後、第３回からは日本体育大学へ会場を移し、第６回からは明星大学で開催されて本年で７回を数えました。この間、東京都学連の学生委員を中心に、大会は運営されてきました。しかし、当初は15チームあった参加チームが、このところ激減し、開催が危ぶまれています。来年度からは、形を変えて愛媛女子短期大学の主管により、宇和島市において開催が予定されています。なお、大会記録につきましては、東京都ソフトボール協会記録委員会にお世話になりました。ご担当いただきました高田力士氏には、毎年所謂「新記録表」も作成していただいております。記して感謝いたします。

第16回東日本大学ソフトボール選手権大会

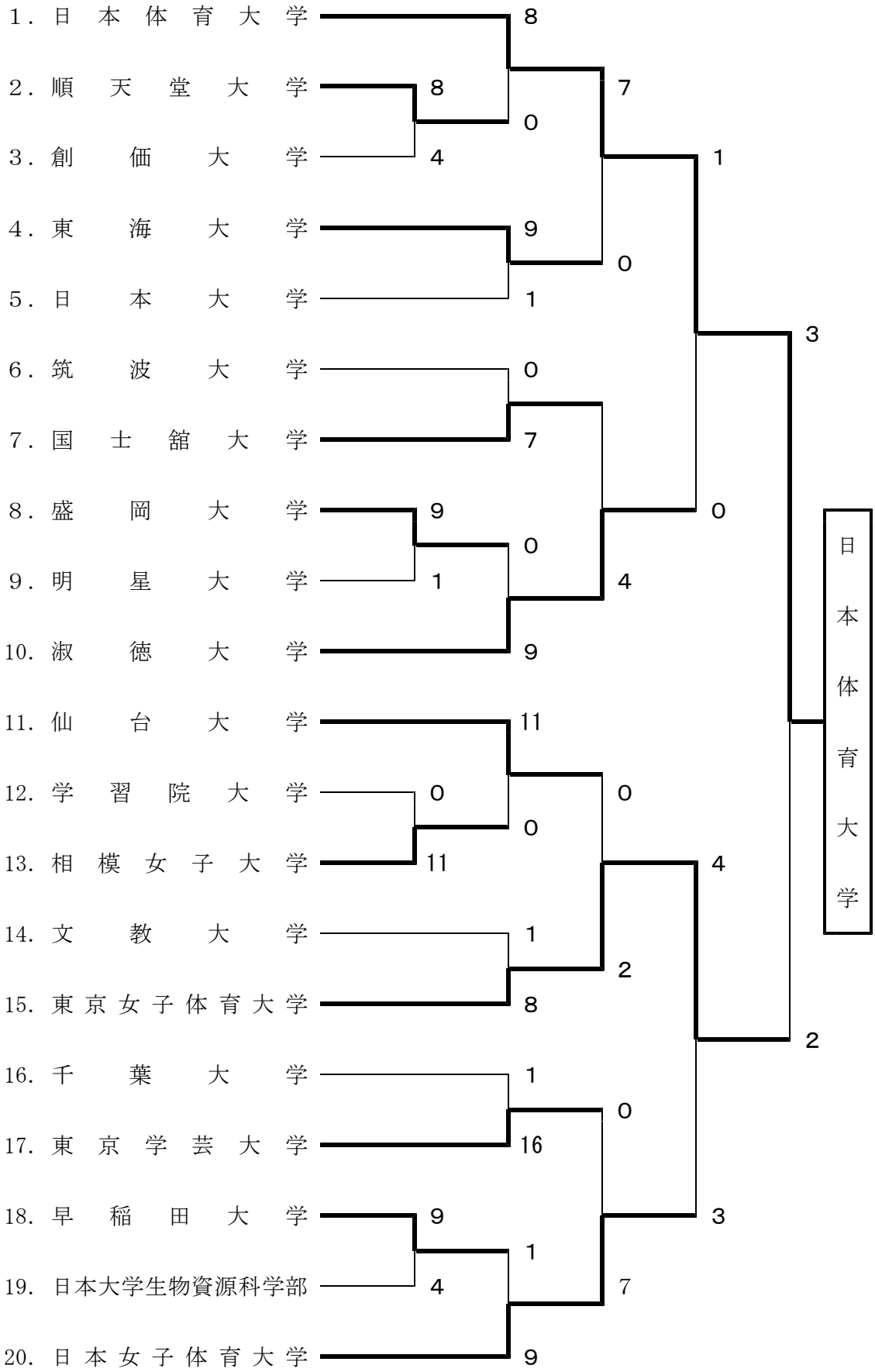
会期：平成13年８月１日(水)～８月３日(金)

会場：町田市民球場・忠生公園ソフトボール場・少年野球場（南）
少年野球場（北）・三輪みどり山球場・藤の台球場

男子試合結果



女子試合結果


1．日本体育大学
2．順天堂大学
3．創価大学
4．東海大学
5．日本大学
6．筑波大学
7．国士舘大学
8．盛岡大学
9．明星大学
10．淑徳大学
11．仙台大学
12．学習院大学
13．相模女子大学
14．文教大学
15．東京女子体育大学
16．千葉大学
17．東京学芸大学
18．早稲田大学
19．日本大学生物資源科学部
20．日本女子体育大学
8
8
0
4
9
0
1
0
0
7
9
0
0
11
11
0
1
2
8
1
0
16
9
1
4
7
9
7
1
0
4
0
3
4
2
3
日本体育大学

男子大会概要

東京は、７月から雨が少なく猛暑が続いて、この大会も日照りと暑さの中での試合となった。

初日は18試合が行われたが、９試合がコールドゲームとなり、力の差が目立った。しかし、２日目の３・４回戦になると接戦となり、緊迫した試合が繰り広げられた。ベスト４には、東海大学・国士舘大学・高崎経済大学・日本体育大学が勝ち残り、準決勝戦の結果は、東海大学３－９国士舘大学、高崎経済大学０－７日本体育大学であった。

３日目の決勝戦は、国士舘大学対日本体育大学。初回から日本体育大学が得点を重ね、10点を奪い失点を１点に抑えて圧勝した。日本体育大学は、杉田・岡・勝呂②が三塁打、川口が二塁打を放ち、12安打10点と効率よく得点できたのが勝因であろう。

日本体育大学は、２年ぶり６回目の優勝であり、女子と共にアベック優勝であった。アベック優勝は、昭和62年の郡山大会以来の２回目となった。

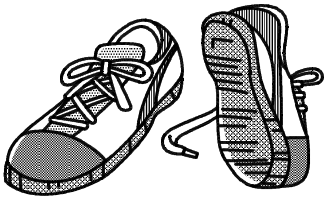
女子大会概要

暑さの中、今年は例年にない猛暑の中でのこの大会も、心配されていた熱中症もなく無事終了した。

20チームの参加で行われた大会は、19試合中11試合がコールドゲームとなり、力の差が出たが、準決勝１試合と決勝戦が延長になり、しかも決勝・準決勝が１点差という接戦であった。

準決勝は、淑徳大学対日本体育大学・日本女子体育大学対東京女子体育大学で、その勝者は虎の子の１点を守りきった日本体育大学と、延長９回４－３でサヨナラ勝ちを収めた東京女子体育大学であった。

決勝戦は、６回まで２点をリードしていた東京女子体育大学が７回表に日本体育大学に追いつかれ、10回には二番喜納の左中間安打で勝ち越しの１点を奪い、日本体育大学はその１点を守りきって男子と共にアベック優勝に輝いた。

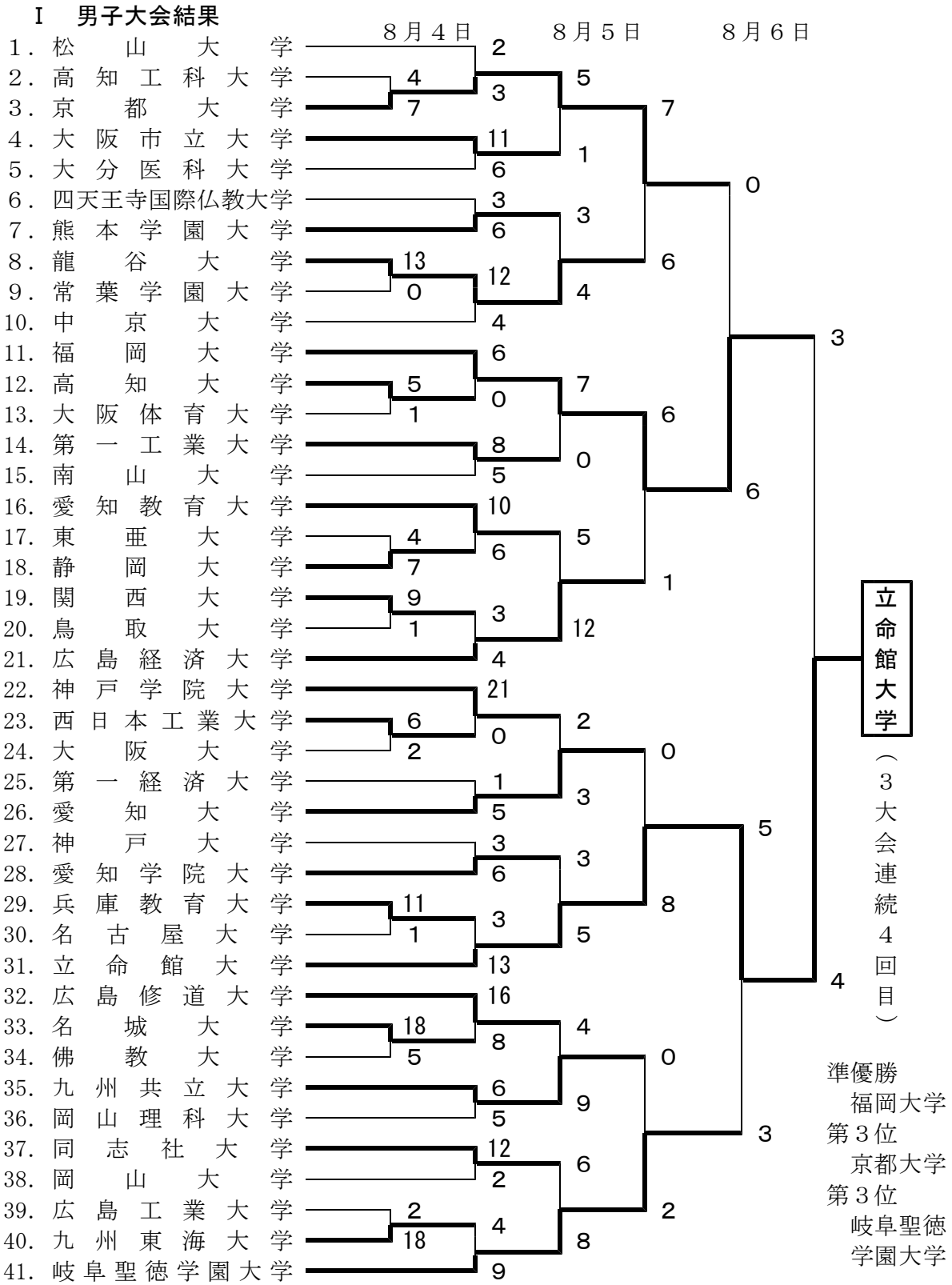


第33回西日本大学ソフトボール選手権大会

会期：平成13年８月４日(土)～６日(月)

会場：日進市総合運動公園野球場
日進市総合運動公園スポーツ広場
日進市東山グラウンド

Ⅰ　男子大会結果



準優勝
福岡大学
第３位
京都大学
第３位
岐阜聖徳学園大学

Ⅱ　男子個人成績

１．最優秀選手賞

福島　潤　捕手（立命館大学）

２．敢闘選手賞

江上祐介中堅手（福岡大学）

３．投手の記録（ベスト４）

選手名	チーム名	投球回数 n/3	打者数	被安打	自責点	与四死球	奪三振	被本塁打	不正投球	投球数	防御率	勝試合 負試合 試合数
尾上秀文	立命館	30	126	21	11	14	24	1	1	462	2.57	５０５
竹本孝典	立命館	4	16	2	・	2	3	・	・	53	0.00	００２
中尾太一	福岡	16	60	11	4	2	19	1	・	218	1.75	２１３
川口　努	福岡	9	31	4	1		15	1	・	122	0.78	１０４
緒方勝美	福岡	9	31	5	・	2	14	・	・	117	0.00	１０３
藤本義樹	京都	31	142	35	18	12	27	4	・	485	3.94	４１５
大野　晋	京都	3	12	2	1	1	2	1	・	37	2.33	００１
河村　聡	岐阜聖徳学園	26.2	117	29	11	6	26	3	・	400	2.89	３１４
手嶋智宏	岐阜聖徳学園	0.1	4	3	2	・	・	・	・	14	42.00	００１

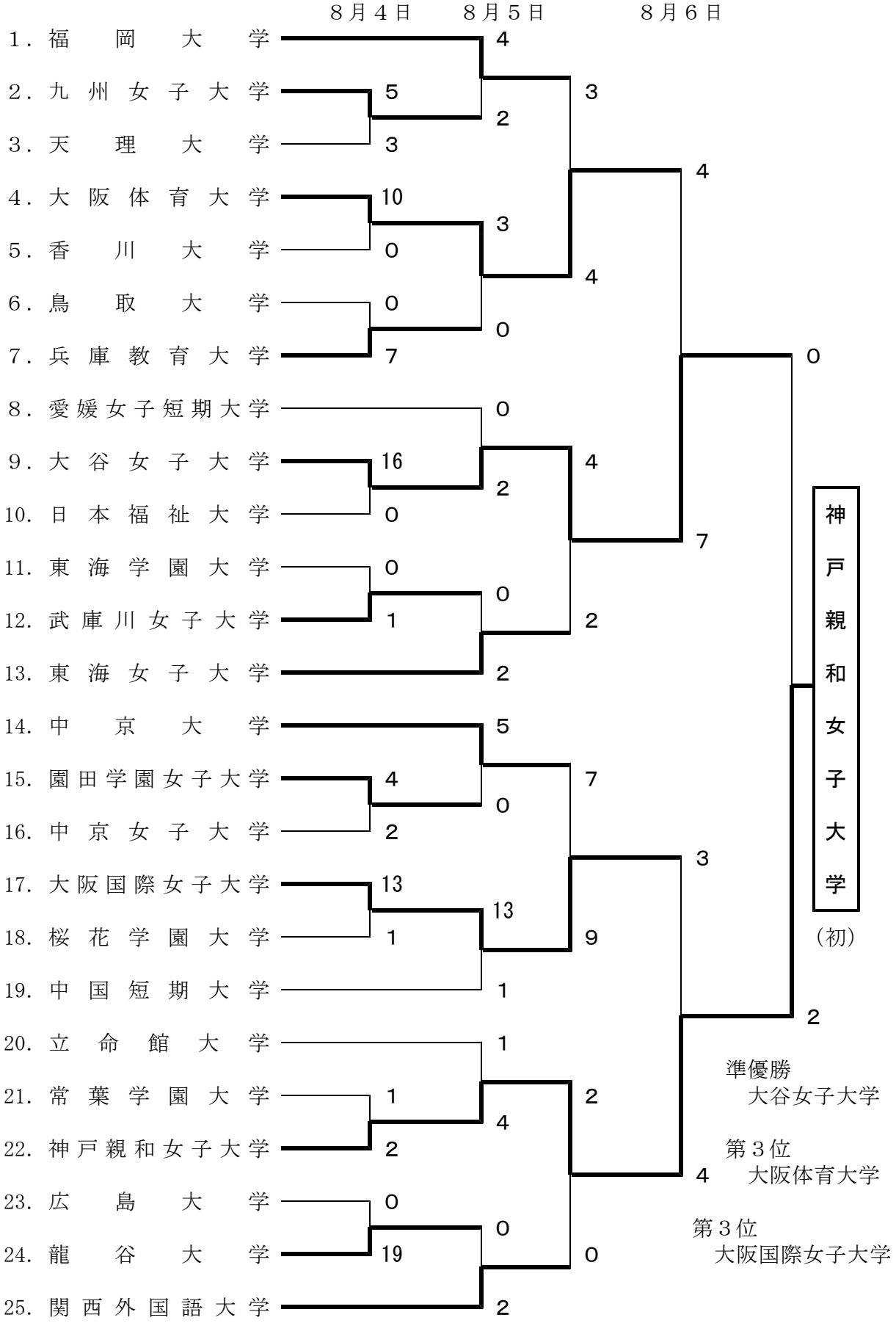
４．打撃ベストテン（規定打数12以上）

左打	位置	選手名	チーム名	打数	安打	得点	打点	犠牲打	四死球	三振	盗塁	本塁打	打撃率	試合数
	31	長池　和也	龍谷	13	12	9	10	・	4	・	2	4	0.923	4
○	6	守屋　佑紀	龍谷	14	9	6	3	1	2	1	・	・	0.643	4
	4	田代　研二	福岡	17	10	4	2	1	1	1	2	・	0.588	5
○	8	江上　祐介	福岡	19	11	6	8	・	・	・	6	1	0.579	5
	81	大野　晋	京都	14	8	5	3	・	1	2	3	2	0.571	5
○	4	亀田　悠樹	龍谷	15	8	6	2	1	1	1	1	・	0.533	4
○	6	熊井　拓	福岡	17	8	3	2	・	・	・	・	・	0.471	5
	8	中村　文彦	龍谷	13	6	2	3	・	2	4	・	・	0.462	4
○	3	片岡　一人	立命館	14	6	3	1	1	3	1	3	・	0.429	5
	4	山田　裕樹	立命館	14	6	5	6	2	1	2	・	・	0.429	5

５．投手成績（規定投球回数20以上）

選手名	チーム名	投球回数 n/3	打者数	被安打	自責点	与四死球	奪三振	被本塁打	不正投球	投球数	防御率	勝試合 負試合 試合数
長高圭介	龍谷	24	104	28	8	5	30	2	・	384	2.33	３１４
尾上秀文	立命館	30	126	21	11	14	24	1	1	462	2.57	５０５
西田満典	九州共立	21	87	23	8	4	8	1	・	267	2.67	２１３
河村　聡	岐阜聖徳学園	26.2	117	29	11	6	26	3	・	400	2.89	３１４
藤本義樹	京都	31	142	35	18	12	27	4	・	485	3.94	４１５

Ⅲ　女子大会結果


８月４日
８月５日
８月６日
1．福　岡　大　学
2．九州女子大学
3．天　理　大　学
4．大阪体育大学
5．香　川　大　学
6．鳥　取　大　学
7．兵庫教育大学
8．愛媛女子短期大学
9．大谷女子大学
10．日本福祉大学
11．東海学園大学
12．武庫川女子大学
13．東海女子大学
14．中　京　大　学
15．園田学園女子大学
16．中京女子大学
17．大阪国際女子大学
18．桜花学園大学
19．中国短期大学
20．立命館大学
21．常葉学園大学
22．神戸親和女子大学
23．広　島　大　学
24．龍　谷　大　学
25．関西外国語大学
神戸親和女子大学
（初）
準優勝
大谷女子大学
第３位
大阪体育大学
第３位
大阪国際女子大学

Ⅳ　女子個人成績

１．最優秀選手賞

阿部　環　遊撃手（神戸親和女子大学）

２．敢闘選手賞

福井　円　投手（大谷女子大学）

３．投手の記録（ベスト４）

選手名	チーム名	投球回数 n/3	打者数	被安打	自責点	与四死球	奪三振	被本塁打	不正投球	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
細田彩香	神戸親和女子	14.2	53	9	4	6	11	・	・	203	1.91	３	０	３
多田尚江	神戸親和女子	14.1	57	12	1	4	7	・	・	190	0.49	１	０	３
堀田真美	神戸親和女子	7	28	7	・	1	6	・	・	101	0.00	１	０	１
福井　円	大谷女子	23	84	13	4	6	26	1	・	356	1.22	２	１	４
山下朋子	大谷女子	5.1	20	3	1	1	6	・	・	69	1.31	２	０	２
森川憲子	大谷女子	2.2	14	2	・	2	・	・	・	57	0.00	０	０	１
土師りえ	大谷女子	2	7	・	・	1	1	・	・	19	0.00	０	０	１
近藤恵子	大阪体育	18	77	18	8	5	13	・	・	297	3.11	２	１	３
高橋智子	大阪体育	8	28	5	・	・	7	・	・	106	0.00	１	０	２
松村　歩	大阪国際女子	20.2	83	20	5	2	10	・	・	282	1.69	２	１	３
小田容子	大阪国際女子	5	19	4	・	・	1	・	・	38	0.00	１	０	１

４．打撃ベストテン（規定打数12以上）

左打	位置	選手名	チーム名	打数	安打	得点	打点	犠牲打	四死球	三振	盗塁	本塁打	打撃率	試合数
○	9	星野　恵	大阪国際	13	8	5	3	3	1	・	1	・	0.615	4
	6	上田　玲	大阪国際	13	7	5	5	1	1	1	・	・	0.538	4
	2	奥田　祥子	大阪国際	15	8	5	6	・	・	・	・	・	0.533	4
	3	東郷由香里	大谷女子	12	6	3	1	・	1	・	・	・	0.500	4
	5	高橋みどり	大阪体育	11	5	2	4	1	2	1	・	・	0.455	4
	4	森　宏美	大阪体育	11	5	2	6	・	1	1	・	1	0.455	4
○	5	藤井　麻妃	大阪国際	14	6	3	3	・	2	1	・	・	0.429	4
○	8	船田あずさ	大阪体育	14	6	3	3	1	・	1	・	・	0.429	4
○	3	兼城　美咲	大阪体育	12	5	5	・	・	・	1	・	・	0.417	4
○	3	秋岡　奈実	大阪国際	13	5	1	5	・	2	1	1	・	0.385	4

５．投手成績（規定投球回数16以上）

選手名	チーム名	投球回数 n/3	打者数	被安打	自責点	与四死球	奪三振	被本塁打	不正投球	投球数	防御率	勝負試試合合合数
福井　円	大谷女子	23	84	13	4	6	26	1	・	356	1.22	２１４
松村　歩	大阪国際女子	20.2	83	20	5	2	10	・	・	282	1.69	２１３
近藤恵子	大阪体育	18	77	18	8	5	13	・	・	297	3.11	２１３

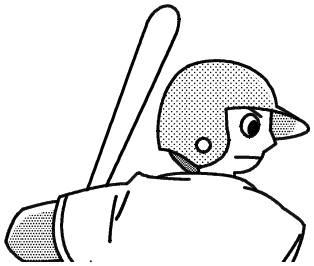
Ｖ　大会概要

西日本各地の予選を勝ち抜き、男子41校、女子25校が愛知県日進市に集まり、炎天下での熱戦を展開した。昨年が台風の影響で途中中断という結果であっただけに、本大会は例年になく盛り上がったものとなった。

男子は、立命館大学が接戦をチームワークで勝ち抜き、３大会連続４回目の優勝を飾った。準優勝の福岡大学は、決勝戦までが比較的大勝であったために、そこでの１点に涙を呑むことになった。３位は、共に初の京都大学と岐阜聖徳学園大学が獲得した。特に京都の１年生投手藤本義樹選手の健闘が目に付いた。また、打者では龍谷大学の長池和也選手が13打数12安打、９割２分３厘という驚異的な打率を残したのは特記される。

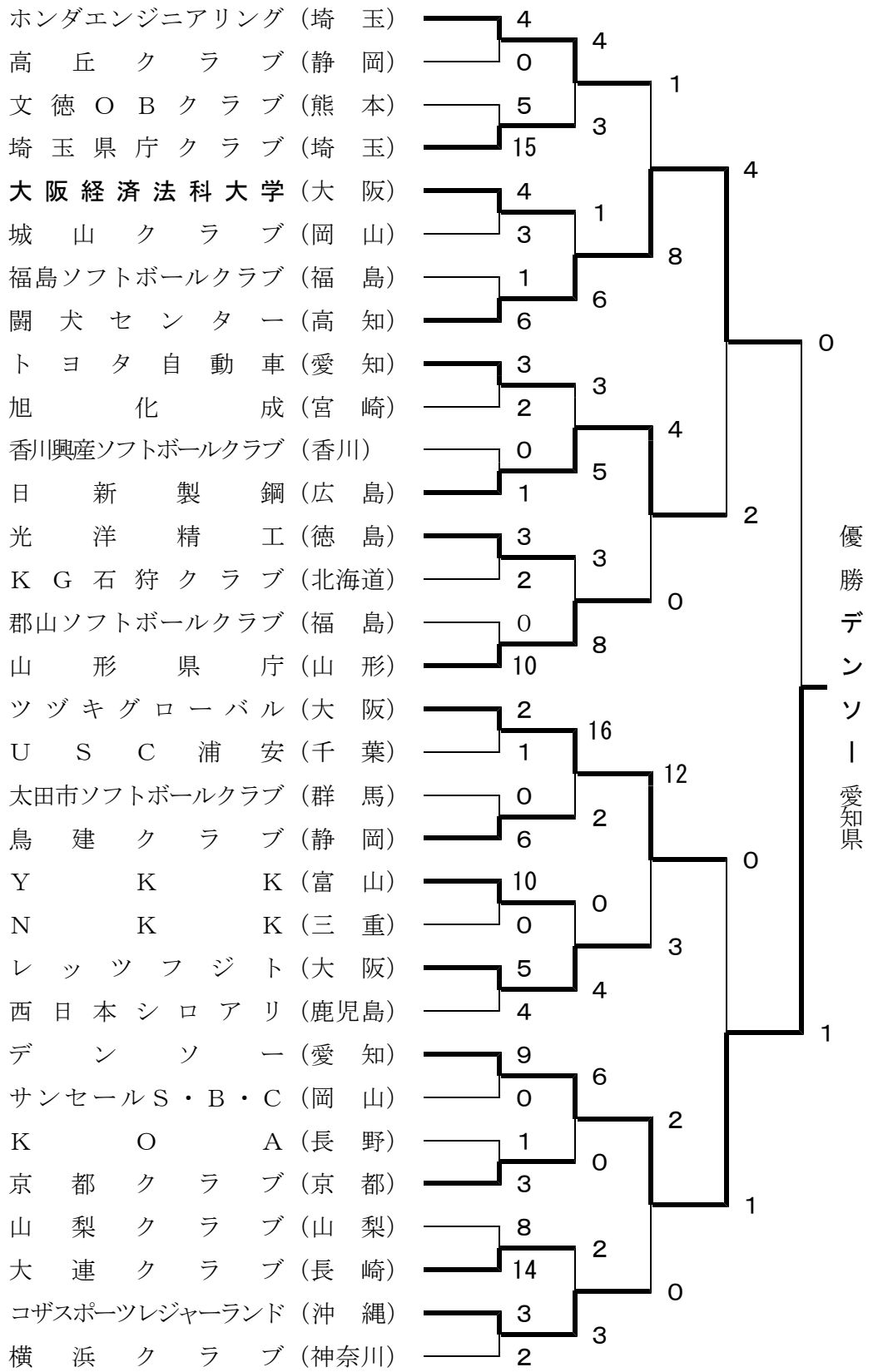
一方女子は、近畿地区の神戸親和女子大学・大谷女子大学・大阪体育大学・大阪国際女子大学がベスト４に勝ち残り、神戸親和女子大学の初優勝となった。大谷女子大学も初の準優勝を獲得した。注目されるのは、これまで常に西日本の上位を占めてきた武庫川女子大学・中京大学・園田学園女子大学などの名前がここにないことである。男子の結果と合わせて、西日本は勢力地図に大きな地殻変動が始まったのかも知れない。ますます目が離せなくなる西日本である。

なお、今回西日本大会初の試みとして、大会第２日に交流試合を実施しました。第１日に敗退した男子８チーム、女子２チームが出場を希望し、計５試合が実施されました。これは会場に余裕があり、日進市連盟審判部のご協力があったために実施できたものです。選手権大会である以上、その趣旨に反する面もありますが、競技力の向上と普及というベクトルはある意味では全く逆の方向を向いていますので、その統一のための問題提起とご理解いただければ幸いです。また、主催者としては、遠方から参加して２泊の義務宿泊を課しているのに、１試合で帰らなければならないのはあまりにかわいそうという思いがあったのも事実です。ご検討をお願いいたします。（中京女子大学　水谷　博）



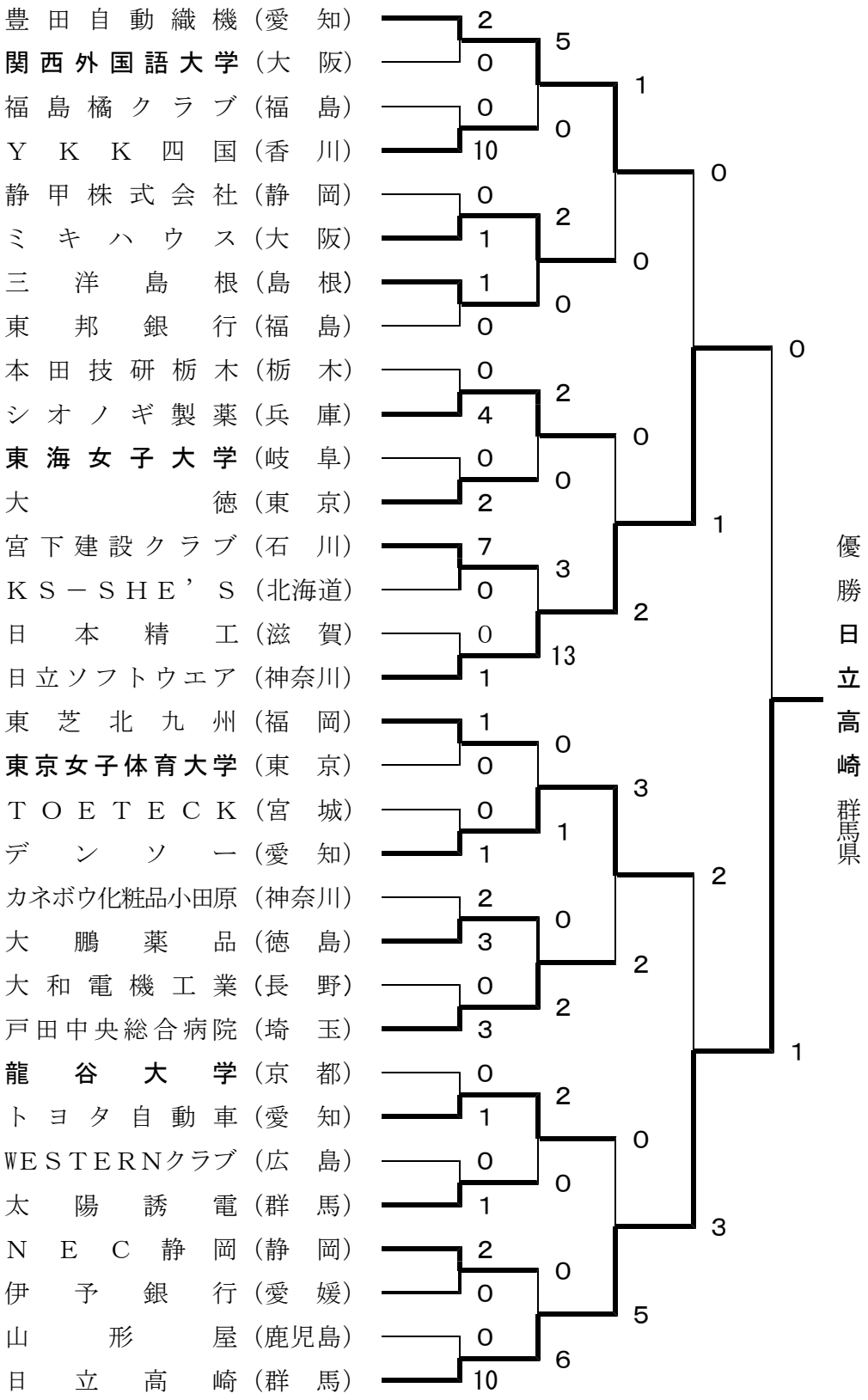
第47回全日本総合男子選手権大会結果

会期：平成13年９月21日（金）～25日（火）
会場：高知県鏡村青少年センター球場他



第53回全日本総合女子選手権大会結果

会期：平成13年９月21日（金）～24日（月）
会場：石川県金沢市専光寺ソフトボール場



【北海道・東北地区】

平成13年東北地区大学ソフトボール春季大会

男子リーグ戦

４月29・30日　　柴田町柴田多目的グラウンド・並松グラウンド
５月３・４・５日　福島市福島大学グラウンド

チーム	弘　前	八　工	盛　岡	東　北	宮　教	仙　台	福　島	日大工	順位
弘　前	＊	－	● ８－32	● ９－17		● １－53			６位
八戸工	棄権	＊	棄権		棄権	棄権			８位
盛　岡	○ 32－８	－	＊	● １－18	○ 22－12	● １－13			４位
東　北	○ 17－９		○ 18－１	＊	○ ９－１		● ５－６	○ ５－１	２位
宮城教		－	● 12－22	● １－９	＊	● ４－16	● ２－９	● ５－16	６位
仙　台	○ 53－１	－	○ 13－１		○ 16－４	＊	○ ４－３	○ ３－０	１位
福　島				○ ６－５	○ ９－２	● ３－４	＊	△ ２－２	３位
日大工				● １－５	○ 16－５	● ０－３	△ ２－２	＊	５位

女子リーグ戦

５月３・４日　　北上市展勝地球場

チーム	盛　岡	福　祉	宮　教	仙　台	順位
盛　　岡	＊	● ３－10	○ 21－２	● ０－22	３位
東北福祉	○ 10－３	＊	○ 12－０	● ０－９	２位
宮城教育	● ２－21	● ０－12	＊	● １－３	４位
仙　　台	○ 22－０	○ ９－０	○ 33－１	＊	１位

コメント

本来春の大会は、リーグ戦方式ということで、男子の方は南北２ブロックに分けて行ってきたが、北ブロックのチームが５チームから３チームに減少したため、今年から全体１

ブロックで変則的な（総当たりではない）リーグ戦という、新しい試みでやってみた。北のチームが滞在期間の関係で南に比べて、試合数が若干少ないという欠点はあるが、それでも北ブロックの時よりは、試合数は多くなっている。２・３年はこの方式でやってみる予定である。

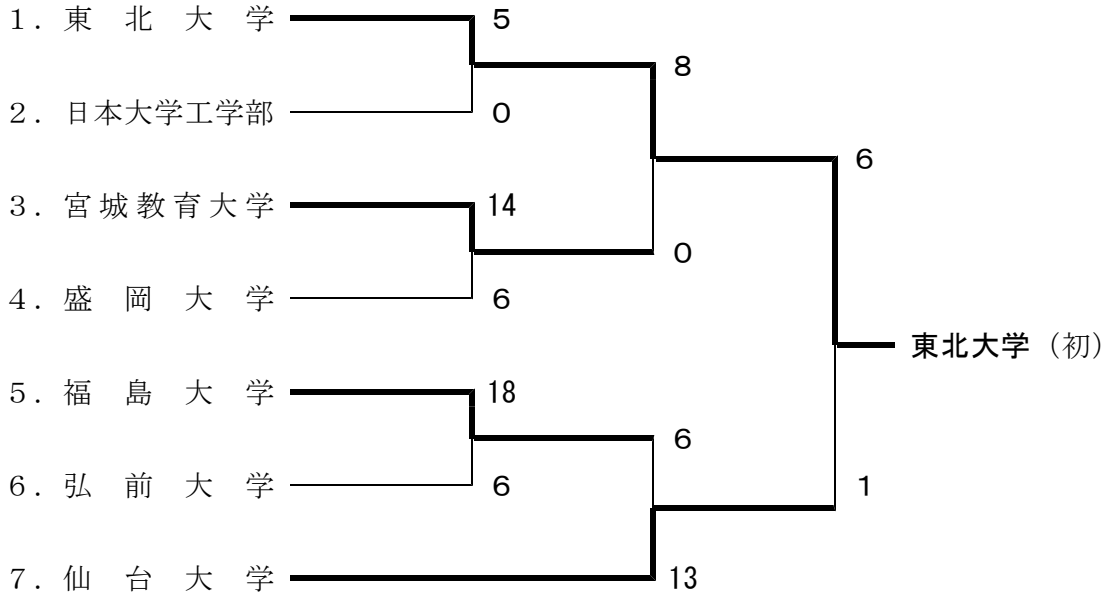
女子リーグの方は、今年から東北福祉大が加入したことは喜ばしいが、弘前がこの時期選手が揃わないということで今年も不参加ということで、４チームによるリーグ戦となった。

第36回　全日本大学ソフトボール選手権大会北海道東北予選会
兼第22回　北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会

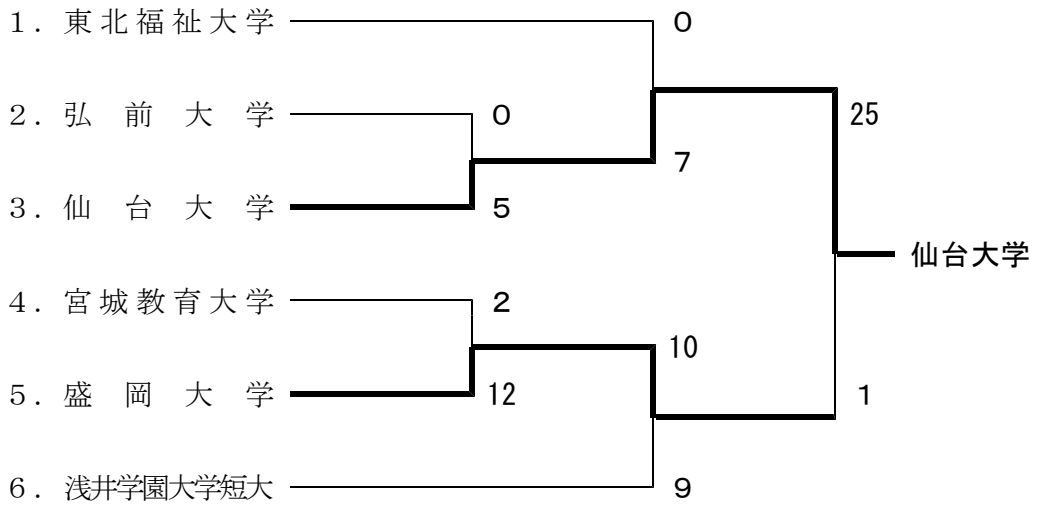
会期：平成13年５月26～27日

会場：秋田県本荘市本荘つるまい球場

男子選手権



女子選手権



コメント

男子は、八戸工業大学が不参加ということで、久しぶりに７チームによる、選手権争奪となった。一方、女子の方は東北福祉大学の加入で、こちらはチームが増えて６チームに戻った。

男子は、前評判の高かった東北大学の柏投手が、３試合で33個の三振を奪う評判通りの大活躍（自責点も１）で、東北大学の初優勝（インカレ初出場）に大きく貢献した。強打の仙台大学も、決勝では柏の快投の前に３安打で１点を取るのがやっとであった。優れた選手の登場で、東北地区の大学の勢力分野に地殻変動がもたらされるのは楽しみである。男子全体のチーム力も向上し、各チームの力が拮抗してきている。

女子は、常勝の仙台大学が順当勝ちして、11年連続14回目のインカレ出場を決めたが、いつも決勝で仙台大学を苦しめていた浅井学園大学が、２回戦で盛岡大学に敗れる波乱があった。東北福祉大学の加入が刺激となって、女子チームの方にも新しい動きが生まれてきていると言えるかもしれない。

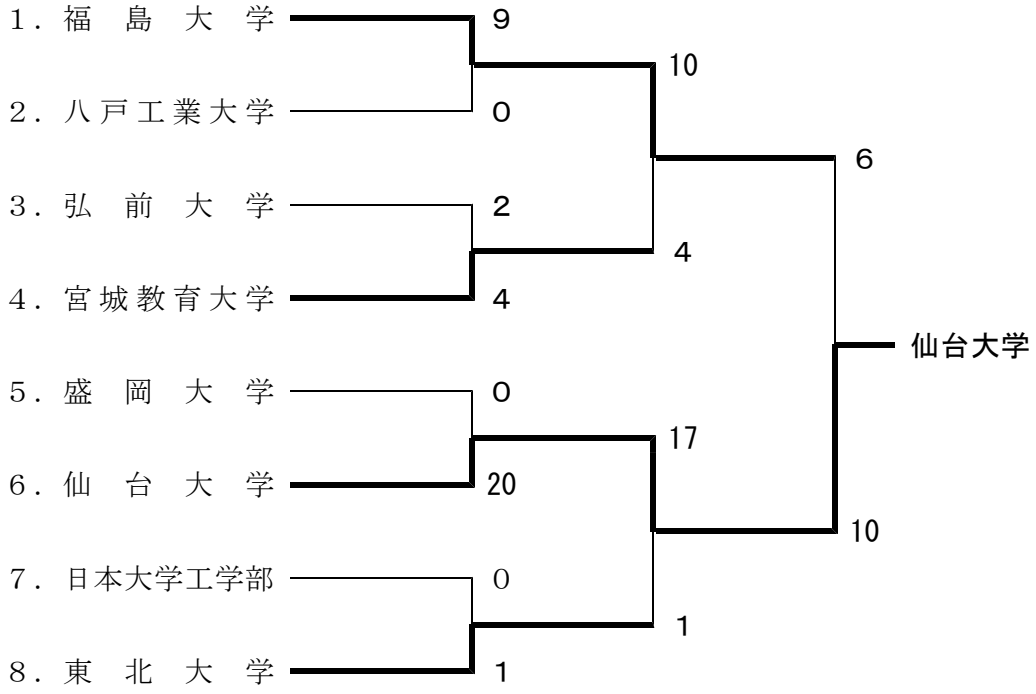
平成13年度東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：11月３・４日

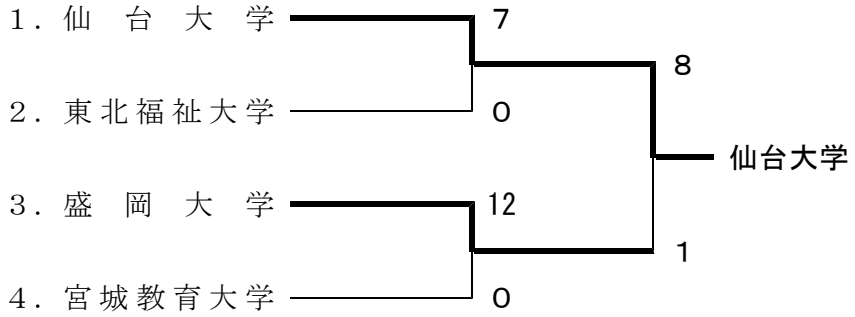
会場：並松グラウンド・阿武隈河川敷グラウンド

主管：仙台大学男子・女子ソフトボール部

男子トーナメント



女子トーナメント



コメント

宮城国体のため例年10月中旬の秋季大会が、半月遅れで実施された。他の大会もこの時期に集中して、会場探しや審判の手配が大変であった。一番心配された天候は１日目は快晴で暖かく小春日和であったが、２日目以降は午前中雨で寒い日であった。とにかく選手に怪我もなく、無事日程を終了した。男子は８チームが全て出場したが、女子は弘前大学が部員不足のため春に続けて不参加となった。

男子の日本大学工学部－東北大学戦は、８回３－３の日没による引き分けとなり、翌日再試合という珍しい記録を残した。その翌日の試合もスコアボードに０が並ぶ好ゲームとなったが、ようやく最終回７回表の東北大学の１点が決勝点となり、前日からの15イニングの戦いに決着がついた。その試合でエネルギーを使い果たしたのか、東北大学は、春のインカレ予選決勝で破った仙台大学に大敗したのは残念であった。

女子は仙台大学の順当勝ちであったが、今シーズン東北福祉大学の参加で活気が出てきた。

表紙デザイン・写真・カット等の募集

ウインドミルの誌面を飾るものを次の要領で募集します。ご応募ください。

１．全日本大学ソフトボール連盟の事業を表すのにふさわしい作品
２．優秀な作品は、***ウインドミル***に掲載し、氏名を発表します。
３．応募資格は、連盟加盟大学の学生に限ります。
４．作品は未発表のものに限り、版権は連盟に帰属します。
５．締切は、毎年11月末日です。
６．送付・問い合わせ先

〒474-0011　愛知県大府市横根町名高山55　中京女子大学　水谷　博
ＦＡＸ　（０５６２）４４－０３１０　渉外課気付
E-mail　mztn@chujo-u.ac.jp

【関東地区】

第２回「峠のまち」Matsuida Cup男・女大学ソフトボール強化大会

主催：松井田町・北関東甲信大学ソフトボールリーグ
主管：群馬県ソフトボール協会・安中市ソフトボール協会
　　高崎経済大学・新島学園女子短期大学
後援：松井田町教育委員会・松井田町体育協会
協賛：内外ゴム株式会社・大塚製薬株式会社
会期：平成13年４月28日（土）～29日（日）
会場：群馬県碓氷郡松井田町横川ふれあい運動公園野球場・坂本スポーツ広場
　　西横野多目的広場野球場・小日向農村広場
結果：
＜男子の部＞
【横川リーグ】

チーム名	山梨学院	信 州	城 西	長 野	勝点	順位
山梨学院	＊	×１－８	×０－11	○５－３	2	④
信　州	○８－１	＊	×３－13	×７－８	2	②
城　西	○11－０	○13－３	＊	○９－０	6	①
長　野	×３－５	○８－７	×０－９	＊	2	③

【碓氷リーグ】

チーム名	都留文科	高崎経済	筑 波	関東学園	勝点	順位
都留文科	＊	×３－10	×４－12	△８－８	1	④
高崎経済	○10－３	＊	△３－３	△３－３	4	②
筑　波	○12－４	△３－３	＊	○７－６	5	①
関東学園	△８－８	△３－３	×６－７	＊	2	③

【順位決定戦】
◇１－２位決定戦（　城西大学　８　）－（　１　筑波大学　）
◇３－４位決定戦（　信州大学　９　）－（　10　高崎経済大学　）
◇５－６位決定戦（　長野大学　５　）－（　11　関東学園大学　）
◇７－８位決定戦（　山梨学院大学　11　）－（　５　都留文科大学　）

【最終順位】
①　城西大学　②　筑波大学　③　高崎経済大学
④　信州大学　⑤　関東学園大学　⑥　長野大学
⑦　山梨学院大学　⑧　都留文科大学

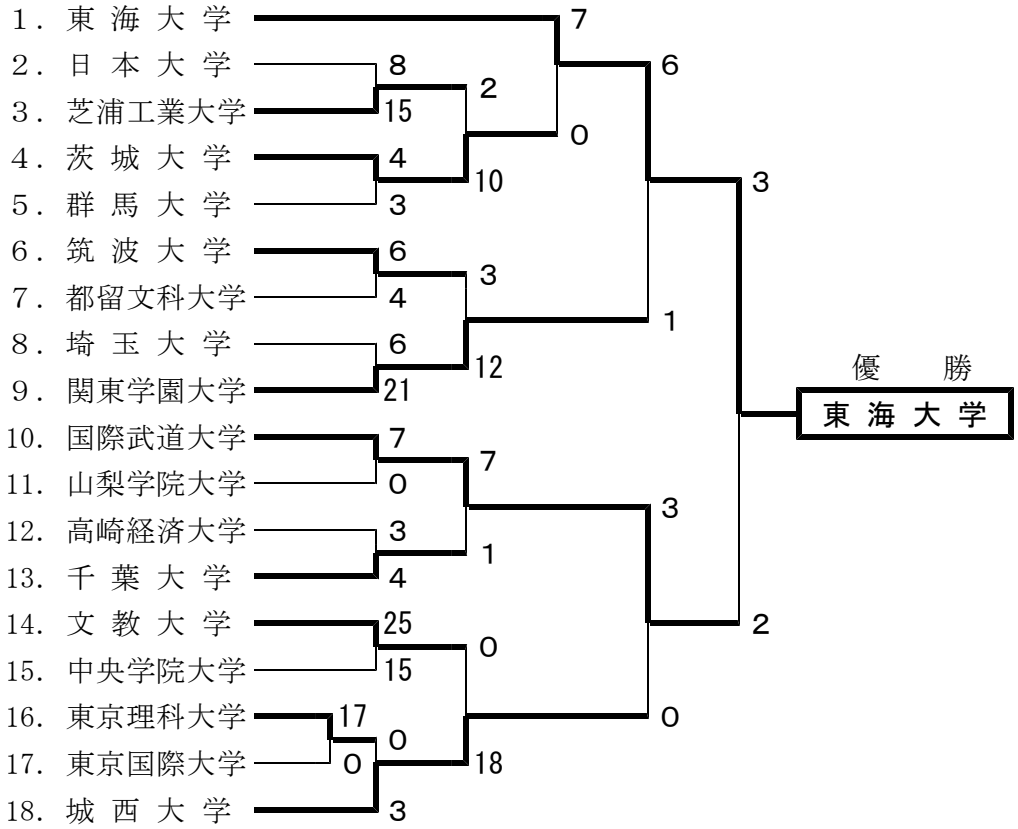
＜女子の部＞

チーム名	仙台Ａ	新島学園	仙台Ｂ	相模女子	東　海	順天堂	勝点	順位
仙台Ａ	＊	△２－２	○３－２	△０－０	○６－１	○14－０	8	①
新島学園	△２－２	＊	×２－５	○５－２	○８－６	○２－１	7	②
仙台Ｂ	×２－３	○５－２	＊	○６－０	×２－５	○２－０	6	④
相模女子	△０－０	×２－５	×０－６	＊	×３－４	○６－４	3	⑤
東　海	×１－６	×６－８	○５－２	○４－３	＊	○19－３	6	③
順天堂	×０－14	×１－２	×０－２	×４－６	×３－19	＊	0	⑥

第９回関東学生ソフトボール選手権大会

会期：平成13年５月18日（金）～20日（日）
会場：千葉県野田市東京理科大学グラウンド
主催：関東学生ソフトボール連盟
共催：
主管：千葉県ソフトボール協会

【男子の部】

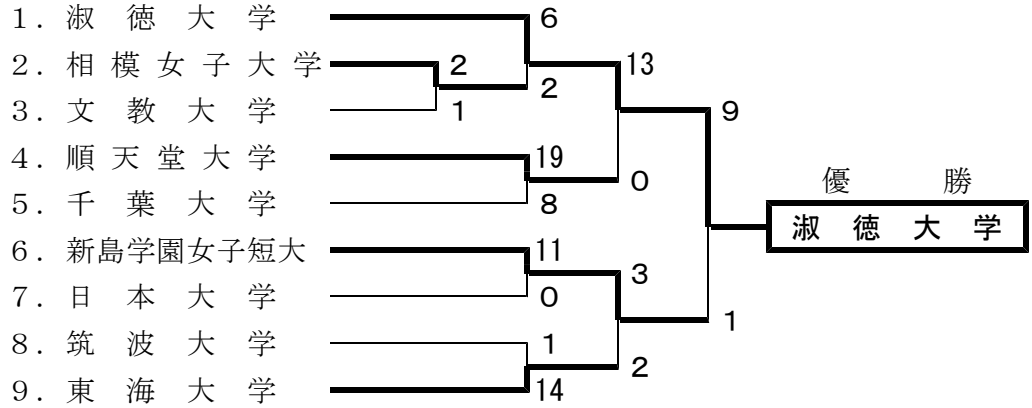


〈総　評〉

前年度インカレ準優勝の東海大学に対して、国際武道大学、あるいは近年急速に力をつけてきた城西大学がどういった戦い方をするのかが注目された大会であったが、投手力に優る東海大学が連覇を達成した。決勝戦では、継投で粘る国際武道大学が、終盤疲れの見える加藤投手に追いすがったが、一歩およばなかった。

茨城県下妻市で開催される今夏のインカレには、準優勝推薦枠の東海大学とベスト４の国際武道大学、関東学園大学、城西大学、茨城大学および地元推薦枠の筑波大学が出場する。

【女子の部】



［代表決定戦］

〈総　評〉

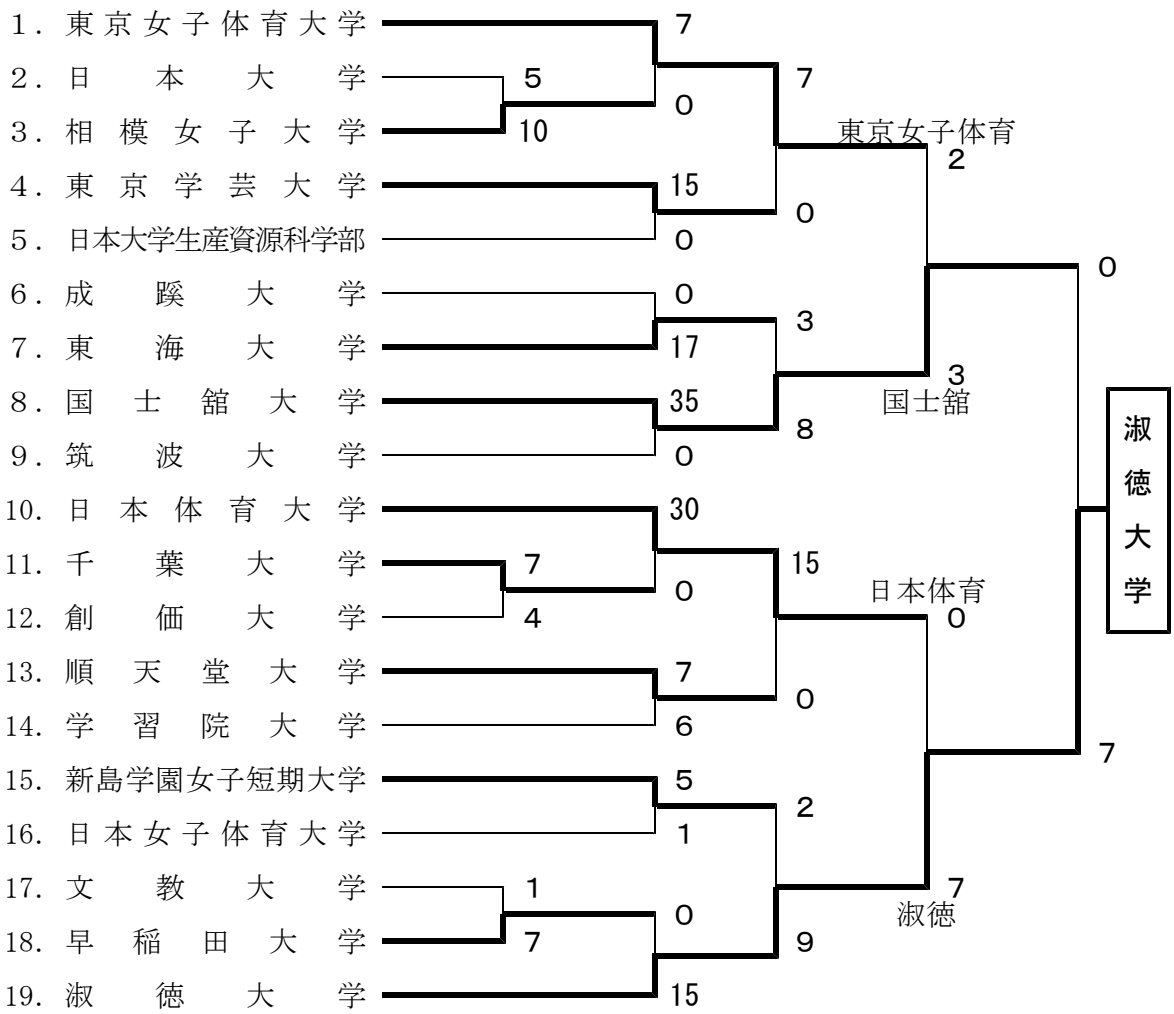
８連覇中の淑徳大学が、今大会においてもまったく危なげのない戦い方で他を寄せつけず、９年連続の優勝を達成した。投打にわたる洗練された試合運びは、すでに全国レベルの大会で上位をねらえる水準にあり、今夏のインカレでは関東からの旋風を期待したい。

なお、インカレにはほかに新島学園女子短期大学と東海大学、そして地元推薦枠の筑波大学が出場する。

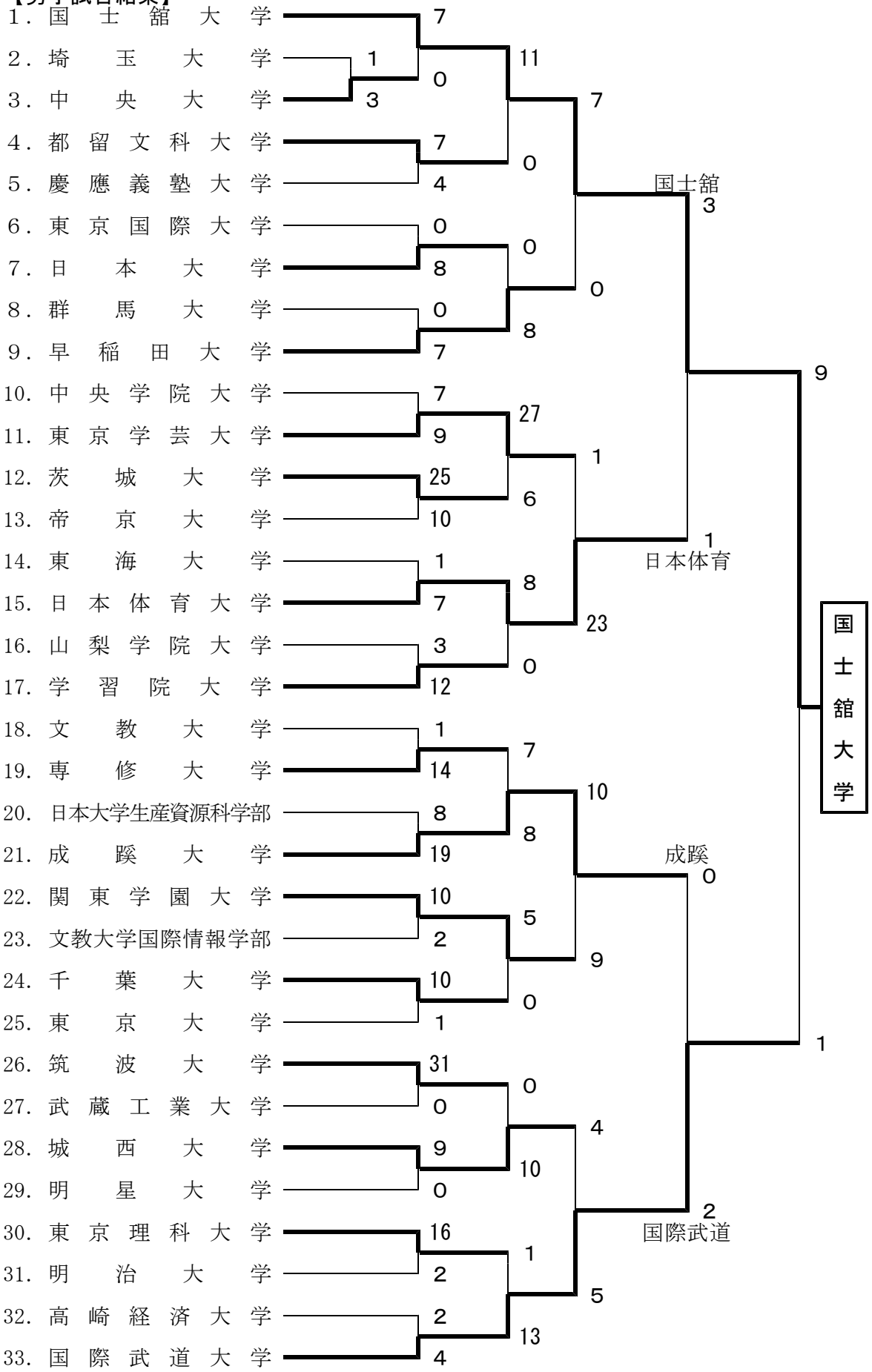
第32回関東大学男子・女子ソフトボール選手権大会

主催：関東大学ソフトボール連盟、関東ソフトボール協会
主管：東京都ソフトボール協会・板橋区ソフトボール連盟
後援：板橋区教委・板橋区体育協会・東京都大学ソフトボール連盟
協賛：ナガセケンコー(株)・内外ゴム(株)
会期：平成13年10月26日（金）～29日（月）
会場：戸田市一般野球場・戸田少年野球広場・小豆沢野球場

【女子試合結果】



【男子試合結果】


1．国士舘大学
2．埼玉大学
3．中央大学
4．都留文科大学
5．慶應義塾大学
6．東京国際大学
7．日本大学
8．群馬大学
9．早稲田大学
10．中央学院大学
11．東京学芸大学
12．茨城大学
13．帝京大学
14．東海大学
15．日本体育大学
16．山梨学院大学
17．学習院大学
18．文教大学
19．専修大学
20．日本大学生産資源科学部
21．成蹊大学
22．関東学園大学
23．文教大学国際情報学部
24．千葉大学
25．東京大学
26．筑波大学
27．武蔵工業大学
28．城西大学
29．明星大学
30．東京理科大学
31．明治大学
32．高崎経済大学
33．国際武道大学
7
1
0
3
11
7
7
4
0
0
0
8
0
8
7
7
9
27
1
25
6
10
1
8
7
23
3
0
12
1
7
14
10
8
8
19
成蹊
0
10
5
2
9
10
0
1
1
31
0
0
4
9
10
0
16
1
2
5
2
13
4
国士舘
3
1
日本体育
9
国士舘大学
2
国際武道

【北信越地区】

第７回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
（兼文部大臣杯第36回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会）

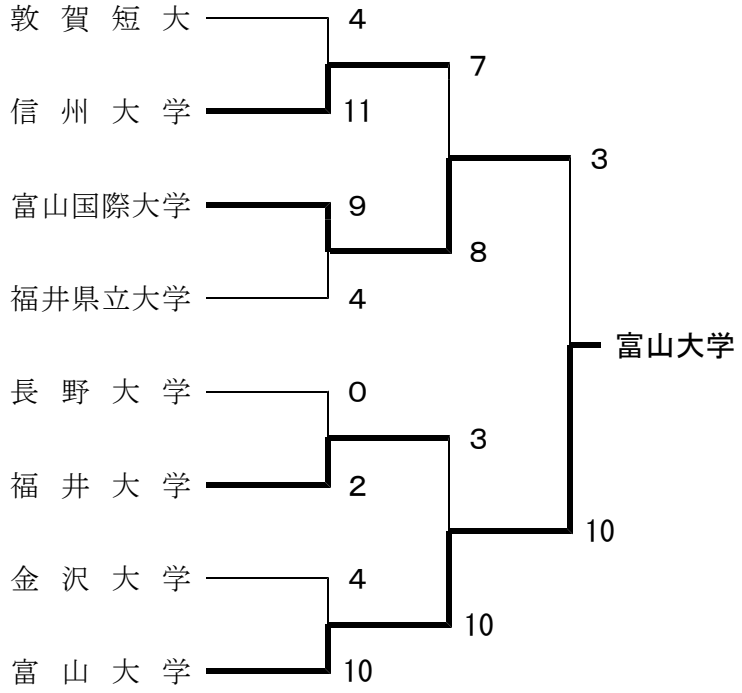
会期：平成13年５月26・27日

主催：北信越地区大学ソフトボール連盟・北信越ソフトボール協会

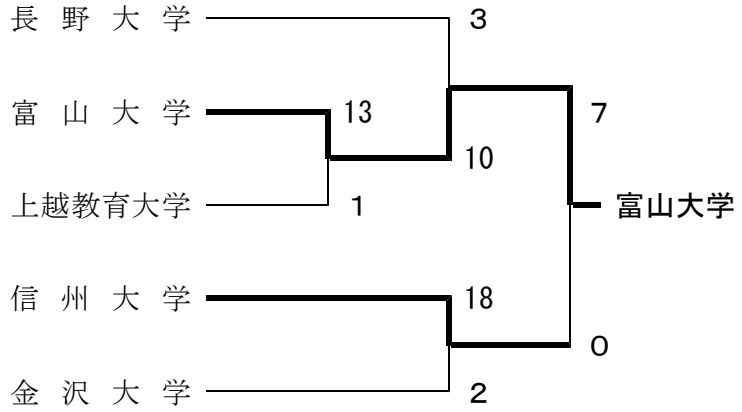
会場：福井市開発グラウンド・町屋グラウンド・大島グラウンド

【試合結果】

＜男子＞



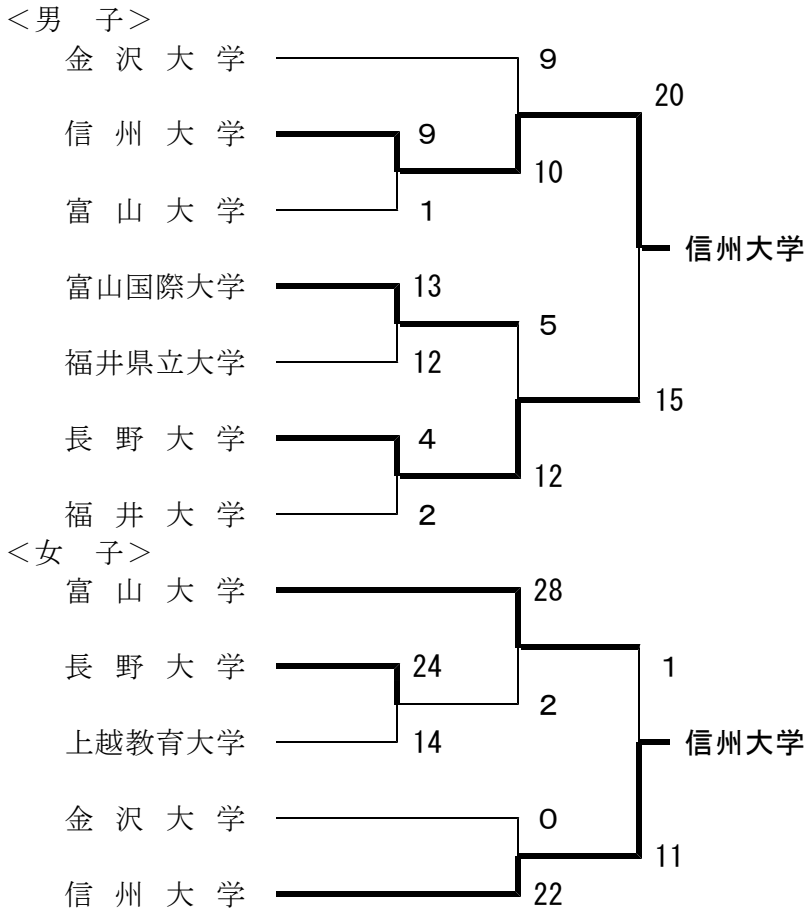
＜女子＞



第８回北信越地区大学男子・女子ソフトボール新人戦結果

主催　北信越地区大学ソフトボール連盟
主管　石川県ソフトボール協会・金沢市ソフトボール協会・
　　北信越ソフトボール協会
後援　石川県
会期　平成13年10月６日（土）・７日（日）
会場　石川県北部運動公園

【試合結果】



【講評】今年度の新人戦は男子、女子ともに信州大学が優勝した。男子の信州大学は投手と打撃の両輪がうまくかみ合ってバランスの取れたチームでチーム力で勝ち進んだ。投手は特に剛速球ではないがコントロールがよく、守備にリズムをもたらしている。打撃もリズムがあり得点もコンスタントであるが失点も多く、課題があるように思え、優勝は総合力といえる。準優勝の福井大学は、これまで実力を有しながらも上位に進出できなかったが、今年は投打に優れている。他のチームも此からの楽しみなところで冬場のチーム作り如何ではチャンスはあると思える。投手の整備、および打撃守備の力量の向上が課題である。

女子では信州大学が安定して投手と打撃力で他チームに勝り優勝した。信州大学の投手はコントロールとスピードがあり、安定した力と気力が備わっていることから今後の活躍が期待できる。打撃力も春に比較して大幅に向上して余裕の優勝であった。他のチームも投手の整備によって良くなるチームも多いのでやはり冬場の投手力の整備にかかっていると思われる。

一般にチームは今が出発であり来春の大会までどの様にチームを作り上げるかにかかっている。

残念なのは男子の敦賀短期大学チームが出場しなかったことであるが、来年の出場に期待している。来年度が楽しみであります。（富山大学　黒田重靖）

【東京地区】

平成13年度第33回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦（男女）

☆男子１部

順　位	大　学　名	日　体	国士舘	早稲田	学習院	中　央	東　京	勝・負・分
優　勝	日　体　大		○ 3－0	○ 6－5	○ 14－0	○ 10－0	○ 8－0	5・0・0
第２位	国 士 舘 大	● 0－3		○ 1－0	○ 7－0	○ 9－1	○ 9－0	4・1・0
第３位	早 稲 田 大	● 5－6	● 0－1		● 2－4	○ 6－1	○ 5－0	2・3・0
第３位	学 習 院 大	● 0－14	● 0－7	○ 4－2		● 2－9	○ 5－0	2・3・0
第３位	中　央　大	● 0－10	● 1－9	● 1－6	○ 9－2		○ 5－0	2・3・0
第６位	東　京　大	● 0－8	● 0－9	● 0－5	● 0－5	● 0－5		0・5・0

☆男子２部

順　位	大　学　名	東　農	成　蹊	日　本	杏　林	学　芸	桜美林	勝・負・分
優　勝	東京農業大		○ 10－2	○ 3－2	○ 8－7	○ 3－1	○ 11－1	5・0・0
第２位	成　蹊　大	● 2－10		○ 6－4	○ 17－7	○ 7－3	○ 11－2	4・1・0
第３位	日　本　大	● 2－3	● 4－6		○ 3－0	○ 6－2	○ 11－0	3・2・0
第４位	杏　林　大	● 7－8	● 7－17	● 0－3		○ 7－2	△ 5－5	1・3・1
第５位	東京学芸大	● 1－3	● 3－7	● 2－6	● 2－7		○ 13－3	1・4・0
第６位	桜 美 林 大	● 1－11	● 2－11	● 0－11	△ 5－5	● 3－13		0・4・1

☆男子３部

順　位	大　学　名	明　星	明　治	慶　應	文　教	東　洋	一　橋	勝・負・分
優　勝	明　星　大		● 8－10	○ 4－3	○ 12－2	○ 26－3	○ 4－2	4・1・0
第２位	明　治　大	○ 10－8		○ 6－5	○ 13－3	● 4－7	△ 5－5	3・1・1
第３位	慶應義塾大	● 3－4	● 5－6		○ 11－1	○ 6－5	○ 10－0	3・2・0
第４位	文　教　大	● 2－12	● 3－13	● 1－11		○ 9－8	○ 6－3	2・3・0
第５位	東　洋　大	● 3－26	○ 7－4	● 5－6	● 8－9		○ 10－3	2・3・0
第６位	一　橋　大	● 2－4	△ 5－5	● 0－10	● 3－6	● 3－10		0・4・1

☆男子４部

順　位	大　学　名	専　修	ＩＣＵ	武蔵工	日　歯	帝　京	東　経	勝・負・分
優　勝	専　修　大		△ ３－３	○ ５－２	○ 12－０	○ 10－０	○ 13－11	４・０・１
第２位	国際基督大	△ ３－３		○ ８－７	○ ７－２	● １－９	○ ５－３	３・１・１
第３位	武蔵工業大	● ２－５	● ７－８		○ 17－16	○ 13－12	● 10－14	２・３・０
第３位	日本歯科大	● ０－12	● ２－７	● 16－17		○ 15－11	○ 16－５	２・３・０
第３位	帝　京　大	● ０－10	○ ９－１	● 12－13	● 11－15		○ 13－５	２・３・０
第６位	東京経済大	● 11－13	● ３－５	○ 14－10	● ５－16	● ５－13		１・４・０

☆男子１部・２部入れ替え戦

東京大（１部６位）９－０東京農大（２部１位）＝東京大は１部残留

☆男子２部・３部入れ替え戦

桜美林大（２部６位）７－５明星大（３部１位）　＝桜美林大は２部残留

☆男子３部・４部入れ替え戦

一橋大（３部６位）３－７専修大（４部１位）　＝専修大は３部昇格

☆女子１部

順　位	大　学　名	日　体	東女体	日女体	学　芸	国士舘	早稲田	勝・負・分
優　勝	日　体　大		○ ９－１	○ ６－０	○ ８－０	○ ８－１	○ 10－０	５・０・０
第２位	東京女体大	● １－９		○ ４－１	○ ８－０	△ １－１	○ 17－０	３・１・１
第３位	日本女体大	● ０－６	● １－４		○ ３－０	○ ７－１	○ ８－０	３・２・０
第４位	東京学芸大	● ０－８	● ０－８	● ０－３		○ 10－７	○ ７－０	２・３・０
第５位	国 士 舘 大	● １－８	△ １－１	● １－７	● ７－10		○ 12－４	１・３・１
第６位	早 稲 田 大	● ０－10	● ０－17	● ０－８	● ０－７	● ４－12		０・５・０

☆女子２部

順　位	大　学　名	学習院	日　本	創　価	中　央	明　星	桜美林	勝・負・分
優　勝	学 習 院 大		○ ６－５	○ 11－０	○ 14－12	○ 14－４	○ 17－６	５・０・０
第２位	日　本　大	● ５－６		● ５－９	○ 22－８	○ 13－３	９－１	３・２・０
第３位	創　価　大	● ０－11	○ ９－５		△ ９－９	△ ８－８	○ ８－０	２・１・２
第４位	中　央　大	● 12－14	● ８－22	△ ９－９		○ 13－10	○ ７－０	２・２・１
第５位	明　星　大	● ４－14	● ３－13	△ ８－８	● 10－13		○ ７－５	１・３・１
第６位	桜 美 林 大	● ６－17	● １－９	● ０－８	● ０－７	● ５－７		０・０・５

☆女子３部

専修大、明治大の参加辞退のため、成蹊大が１位（入れ替え戦出場）

☆女子１部・２部入れ替え戦

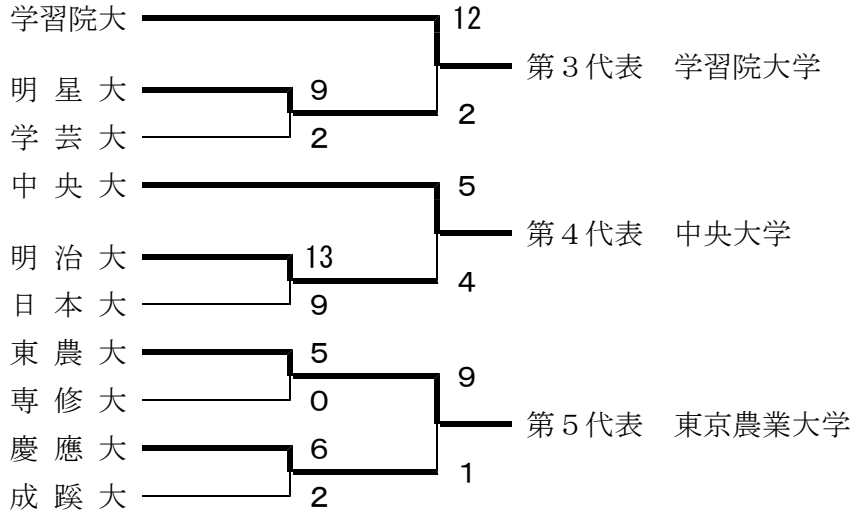
早稲田大（１部６位）２－９学習院大（２部１位）　＝学習院大は１部昇格

☆女子２部・３部入れ替え戦

桜美林大（３部１位）０－７成蹊大（３部１位）　　＝成蹊大は２部昇格

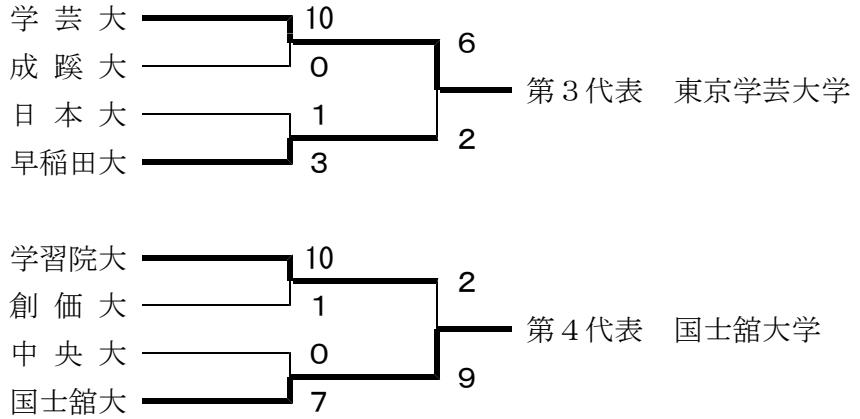
第36回全日本大学ソフトボール選手権大会東京地区予選会

【男子】



なお、東京地区の第36回全日本大学ソフトボール選手権大会出場チームは、上記以外に、全日本学連推薦（前年度優勝）で日本体育大学、第１代表は東京都学連推薦で国士舘大学、第２代表は東京都学連で早稲田大学である。

【女子】



なお、東京地区の第36回全日本大学ソフトボール選手権大会出場チームは、上記以外に、全日本学連推薦（前年度優勝）で東京女子体育大学、第１代表は東京都学連推薦で日本体育大学、第２代表は東京都学連推薦で日本女子体育大学である。

平成13年度第33回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦（男女）

☆男子１部

順　位	大　学　名	国士舘	日　体	早稲田	学習院	東　京	中　央	勝・負・分
優　勝	国士舘大		○ 5－3	● 3－4	○ 12－0	○ 7－4	○ 8－0	4・1・0
第２位	日　体　大	● 3－5		○ 6－0	○ 8－0	○ 11－0	△ 2－2	3・1・1
第３位	早稲田大	○ 4－3	● 0－6		△ 1－1	● 1－3	○ 5－1	2・2・1
第３位	学習院大	● 0－12	● 0－8	△ 1－1		○ 3－0	○ 8－0	2・2・1
第５位	東　京　大	● 4－7	● 0－11	○ 3－1	● 0－3		○ 3－1	2・3・0
第６位	中　央　大	● 0－8	△ 2－2	● 1－5	● 0－8	● 1－3		0・4・1

☆男子２部

順　位	大　学　名	日　本	東　農	成　蹊	杏　林	学　芸	桜美林	勝・負・分
優　勝	日　本　大		○ 5－4	○ 8－2	△ 4－4	○ 8－0	○ 12－3	4・0・1
第２位	東京農業大	● 4－5		○ 8－1	○ 4－3	○ 11－4	○ 16－2	4・1・0
第３位	成　蹊　大	● 2－8	● 1－8		○ 8－7	○ 15－5	○ 9－3	3・2・0
第４位	杏　林　大	△ 4－4	● 3－4	● 7－8		○ 7－5	○ 4－2	2・2・1
第５位	東京学芸大	● 0－8	● 4－11	● 5－15	● 5－7		○ 4－3	1・4・0
第６位	桜美林大	● 3－12	● 2－16	● 3－9	● 2－4	● 3－4		0・5・0

☆男子３部

順　位	大　学　名	明　星	専　修	慶　応	明　治	東　洋	文　教	勝・負・分
優　勝	明　星　大		○ 20－5	○ 6－0	○ 9－8	○ 4－2	△ 2－2	4・0・1
第２位	専　修　大	● 5－20		○ 9－0	○ 8－1	○ 13－3	○ 11－2	4・1・0
第３位	慶應義塾大	● 0－6	● 0－9		○ 11－7	○ 13－11	○ 10－7	3・2・0
第４位	明　治　大	● 8－9	● 1－8	● 7－11		○ 15－5	○ 11－1	2・3・0
第５位	東　洋　大	● 2－4	● 3－13	● 11－13	● 5－15		○ 18－17	1・4・0
第６位	文　教　大	△ 2－2	● 2－11	● 7－10	● 1－11	● 17－18		0・4・1

☆男子１部・２部入れ替え戦

中央大（１部６位）４－０日本大（２部１位）　＝中央大は１部残留

☆男子２部最下位決定戦

東京学芸大４－３桜美林大　＝桜美林大は入れ替え戦へ

☆男子２部・３部入れ替え戦

桜美林大（２部最下位）０－３明星大（３部１位）　＝明星大は２部昇格

☆男子３部・４部入れ替え戦
文教大（３部６位）10－２帝京大（４部１位）　＝文教大は３部残留

☆男子４部

順位	大学名	帝京	一橋	東経	武蔵工	ＩＣＵ	日歯	勝・負・分
優勝	帝京大		○ 16－15	○ 11－10	○ 11－6	● 8－9	○ 10－9	4・1・0
第２位	一橋大	● 15－16		○ 12－4	● 13－14	○ 12－3	○ 15－2	3・2・0
第２位	東京経済大	● 10－11	● 4－12		○ 14－4	○ 7－3	○ 7－3	3・2・0
第４位	武蔵工業大	● 6－11	○ 14－13	● 4－14		△ 7－7	○ 10－6	2・2・1
第５位	国際基督教	○ 9－8	● 3－12	● 3－7	△ 7－7		● 1－4	1・3・1
第６位	日本歯科大	● 9－10	● 2－15	● 3－7	● 6－10	○ 4－1		1・4・0

☆女子１部

順位	大学名	日体	東女体	日女	学芸	国士舘	学習院	勝・負・分
優勝	日本体育大		○ 6－2	○ 4－1	○ 1－0	○ 12－3	○ 7－0	5・0・0
第２位	東京女体大	● 2－6		○ 4－0	○ 2－0	○ 3－0	○ 7－0	4・1・0
第３位	日本女体大	● 1－4	● 0－4		● 3－4	○ 7－0	○ 8－1	2・3・0
第３位	東京学芸大	● 0－1	● 0－2	○ 4－3		● 4－6	○ 8－3	2・3・0
第３位	国士舘大	● 3－12	● 0－3	● 0－7	○ 6－4		○ 10－0	2・3・0
第６位	学院体習	● 0－7	● 0－7	● 1－8	● 3－8	● 0－10		0・5・0

☆女子２部

順位	大学名	早稲田	中央	日本	創価	明星	成蹊	勝・負・分
優勝	早稲田大		○ 8－6	○ 10－0	○ 9－0	○ 8－1	○ 13－7	5・0・0
第２位	中央大	● 6－8		○ 5－4	○ 10－4	○ 10－0	○ 3－2	4・1・0
第３位	日本大	● 0－10	● 4－5		○ 8－0	○ 8－1	○ 7－4	3・2・0
第４位	創価大	● 0－9	● 4－10	● 0－8		● 3－5	○ 8－4	1・4・0
第４位	明星大	● 1－8	● 0－10	● 0－10	○ 5－3		● 3－6	1・4・0
第４位	成蹊大	● 7－13	● 2－3	● 4－7	● 4－8	○ 6－3		1・4・0

☆女子２部入れ替え戦選出戦

		創価	明星	成蹊	勝・敗・分	得失差
進出	創価大		● 6－7	○ 14－2	1・1・0	＋１１
敗退	明星大	○ 7－6		● 5－6	1・1・0	0
敗退	成蹊大	● 2－14	○ 6－5		1・1・0	－１１

☆女子３部

順位	大学名	明治	桜美林	専修	勝・負・分
優勝	明治大		○ 8－5	○ 20－8	2・0・0
第２位	桜美林大	○ 5－8		○ 11－1	1・1・0
第３位	専修大	● 8－20	● 1－11		0・2・0

☆女子入れ替え戦：学習院大２－12早稲田大（早大は１部昇格）

【東海地区】

東海テレビ杯
平成13年度春季第48回東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦

主　催：東海地区大学ソフトボール連盟

主　管：愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・豊田市ソフトボール協会・愛知教育大学

開催日：４月29・30日、５月４・５日

会　場：愛知県豊田市千石公園ソフトボール場

一部リーグ戦対戦成績

チーム	聖　徳	愛　知	中　京	常　葉	愛　教	南　山	勝	分	負	失	順位
岐阜聖徳		○ 12－２	● １－２	○ ６－２	○ ６－３	○ 10－０	4	0	1	9	優勝
愛　　知	● ２－12		○ ５－４	○ ８－７	○ ７－４	○ 10－０	4	0	1	27	３位
中　　京	○ ２－１	● ４－５		○ ９－３	○ ７－４	○ ３－０	4	0	1	13	２位
常葉学園	● ２－６	● ７－８	● ３－９		○ ２－１	○ 15－６	2	0	3	30	４位
愛知教育	● ３－６	● ４－７	● ４－７	● １－２		○ ７－１	1	0	3	23	５位
南　　山	● ０－10	● ０－10	● ０－３	● ６－15	● １－７		0	0	5	45	６位

※１～３位の順位の決定はリーグ戦規定に基づき、当該チーム間での失点の少ない方が上位

二部リーグ戦対戦成績

Ａグループ戦

チーム	学　院	名古屋	朝　日	岐　経	勝	分	負	失点	順位
愛知学院		○ 13－５	○ 12－２	○ 15－２	3	0	0	9	１位
名 古 屋	● ５－13		○ 16－２	○ 16－４	2	0	1	１９	２位
朝　　日	● ２－12	● ２－16		● ６－18	0	0	3	４６	４位
岐阜経済	● ２－15	● ４－16	○ 18－６		1	0	2	３７	３位

１・２位決定戦
名　　城：４
VS
愛知学院：３

３・４位決定戦
名 古 屋：９
VS
静　　岡：３

Ｂグループ戦

チーム	名　城	静　岡	みずほ	日　福	勝	分	負	失点	順位
名　　城		○ 24－６	○ 11－10	● ４－５	2	0	1	２１	１位
静　　岡	● ６－24		○ 13－６	○ ８－６	2	0	1	３６	２位
み ず ほ	● 10－11	● ６－13		○ ８－４	1	0	2	２８	３位
日本福祉	○ ５－４	● ６－８	● ４－８		1	0	2	２０	４位

５・６位決定戦
み ず ほ：７
VS
岐阜経済：０

７・８位決定戦
日本福祉：９
VS
朝　　日：１

大学選手権第３代表決定戦

愛知大学（一部３位）８－１名城大学（二部１位）

愛知大学は、岐阜聖徳学園大学と中京大学とともに大学選手権の出場権を獲得

個人表彰

最優秀選手賞：河村　聡　　投　手（聖徳大４年）
敢闘選手賞：橋口　智広　左翼手（中京大３年）
優秀選手賞：二村　貴也　遊撃手（名城大３年）
一部首位打者賞：橋口　智広　遊撃手（中京大３年）打率５割７分１厘
二部首位打者賞：鈴木　卓真　中堅手（愛学大２年）打率６割６分７厘
ベストナイン：投　　手　河村　聡　（聖徳大４年）
捕　　手　大釜　啓之（聖徳大３年）
一 塁 手　多田　真仁（愛教大４年）
二 塁 手　守護　聖豪（常葉大３年）
三 塁 手　板東　俊輔（聖徳大３年）
遊 撃 手　福井　庸祐（中京大３年）
外 野 手　田辺　正彦（愛知大３年）
外 野 手　橋口　智広（中京大３年）
外 野 手　増田　智之（常葉大３年）
指名打者　牧野　宣仁（常葉大４年）

講評

今大会より東海テレビ放送株式会社のご後援をいただくことになり、益々の盛り上がりが期待される今回のリーグ戦は、上記４日間の日程により参加14校による１部15試合・２部12試合、２部順位決定戦４試合、大学選手権第３代表決定戦１試合の合計32試合が展開された。不安定な天候の中、一部の日程変更もありながら、白熱したゲームが展開された。

混戦が続く１部であるが、今リーグ戦も上位３チームが４勝１敗と並んだ結果、当該チーム間で最も失点の少なかった岐阜聖徳学園大が２季連続２度目の優勝を飾った。同時に念願の大学選手権の出場権を勝ち取った。河村投手（４年：石川：尾山台高出）を中心に、学生らしい非常に元気の良いチームであり、大学選手権においても一気に上位を目指してほしい。同じく大学選手権の出場権を得た中京・愛知の２大学は部員減少の影響もあるのか、かつての元気が見られない。打率.571で首位打者に輝いた中京大学の橋口選手（３年：佐賀：伊万里高出）、本塁打３本の愛知大学の田辺選手（３年：富山：雄山高出）が目立った程度。大学選手権では久しぶりの上位をめざしてほしい。昨年度大学選手権ベスト８入りの常葉学園大学はまさかの予選敗退となった。流した涙を忘れず、来年は雪辱を期してほしい。５位となった愛知教育大学は成績はいまひとつであったが盛り上がりはよい。自チームよりレベルの高いチームとの試合を重ねて力をつけ、来季のリーグ戦ではさらに好成績をのこしてほしい。混戦の１部では、ひとつのアウト・セーフが試合の結果のみならず最終順位までも決定してしまうというシビアな状況の連続で、勝負という面からは興味が尽きなかった。しかし、競技力という面からはやや物足りなさを感じさせられた。外野フェンスを設置する試合では１球の失投が試合の展開を大きく変えてしまう。今季から、失点によって順位を決定するルールに代えたことが典型的に示しているように、ソフトボールの原点は守備であり、如何に守りきることができ

るかが、各チームとも今後の大きな課題になる。

２部では、伝統の愛知学院大が貫禄を示し切れず、勢いのある名城大学が初優勝を飾り、１部最下位となった南山大学との自動入替で初の１部昇格となった。秋の１部での戦いぶりに注目したい。全体としては各チームともレベルの向上が認められるが、大量点のゲームが多く、緊張感にやや欠けるところが１部との大きな違いである。投手力を中心とする守備力の強化によって、まずは５点以内で勝敗を争う試合を期待したい。（愛知大学　紅林和博）

東海テレビ杯
平成13年度春季第37回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦

主　催：東海地区大学ソフトボール連盟

主　管：愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・幸田町ソフトボール協会・静岡大学

開催日：５月４・５・６日

会　場：愛知県幸田町とぼね運動場

一部リーグ戦対戦成績

チーム	中　京	東　海	中　女	桜　花	常　葉	静　岡	勝	分	敗	失	順位
中　京		● ０－４	○ ３－０	○ ３－０	○ ４－０	○ 10－０	4	0	1	4	２位
東海女子	○ ４－０		△ ２－２	○ ６－２	○ 13－０	○ 15－０	4	1	0	4	優勝
中京女子	● ０－３	△ ２－２		○ ６－１	○ ３－１	○ 10－０	3	1	1	9	３位
桜花学園	● ０－３	● ２－６	● １－６		● １－３	○ 10－０	1	0	4	18	５位
常葉学園	● ０－４	● ０－13	● １－３	○ ３－１		○ 12－２	2	0	3	23	４位
静　岡	● ０－10	● ０－15	● ０－10	● ０－10	● ２－12		0	0	5	57	６位

女子二部リーグ戦結果

チーム	聖　徳	愛　教	東　学	中　学	日　福	勝	分	敗	失点	順位
岐阜聖徳		○ 15－４	● ０－10	● ３－11	○ １－０	2	0	2	２５	３位
愛知教育	● ４－15		● ０－21	● ０－８	● ２－６	0	0	4	５０	５位
東海学園	○ 10－０	○ 21－０		○ 11－０	○ 14－０	4	0	0	0	１位
中京学院	○ 11－３	○ ８－０	● ０－11		○ ９－５	3	0	1	１９	２位
日本福祉	● ０－１	○ ６－２	● ０－14	● ５－９		1	0	3	２６	４位

大学選手権第３代表決定戦

東海学園大学（二部１位）４－０中京女子大学（一部３位）

（東海学園大学は、東海女子大学・中京大学とともに大学選手権の出場権を獲得）

個人表彰

最優秀選手賞：高野　智子一塁手（東海女子大学４年）
敢闘選手賞：黒野実奈子右翼手（中京大学４年）
優秀選手賞：宮本　直美投　手（東海学園大学１年）
一部首位打者賞：西埜　真紀右翼手（東海女子大学３年）　打率６割６分７厘
二部首位打者賞：堀川美由紀遊撃手（日本福祉大学３年）　打率７割０分０厘
ベストナイン：投　手　小長井美希（東海女子大学３年）
捕　手　諸頭悠紀子（中京大学３年）
一塁手　高野　智子（東海女子大学４年）
二塁手　大瀧百合香（東海女子大学４年）
三塁手　大矢　留美（東海女子大学４年）
遊撃手　高見美智菜（中京女子大学４年）
外野手　西埜　真紀（東海女子大学３年）
外野手　安田真富果（中京大学４年）
外野手　奥村　理代（中京大学１年）
指名打者　竹澤　苑美（東海女子大学１年）

講評

21世紀最初のリーグ戦、新しい時代の到来とともに、リーグ戦にも連盟にも大きな地殻変動が起こりつつあります。まず、今季より東海テレビの後援をいただき、「東海テレビ杯東海地区大学ソフトボールリーグ戦」としての第１歩を刻みました。二つ目には、開催地幸田町並びにソフトボール協会の全面的なご協力により、インカレにも見劣りしない立派な競技場をご準備いただきました。５月２日の雨の中、黙々とフェンス設置にご尽力いただきました協会のみなさまにはこの場を借りて御礼申し上げます。さらに、新規加盟チームが５チームもあったことです。まだ出場できなかったチームもありますが、登録チーム数16は、東京の14を凌ぎ、近畿の18に迫る全国第２位の数です。さらには、これが最も重要ですが、新規加盟チームによって、ゲーム内容が非常に充実したことです。特に、二部の投手はこれまでと比べると格段に技術的な向上が認められました。また、二部の活性化のために、本リーグ戦の大きな特徴である二部校にもインカレ出場の道を設けている制度が初めて機能しました。二部１位の東海学園大学が、24年インカレ連続出場の伝統校中京女子大学を代表決定戦で敗り、出場権を獲得したのです。東海女子大学・中京大学とともに、インカレでの活躍が期待されます。そのためには、守備力の強化がいずれの大学にも急務でしょう。「一球入魂」は投球や打撃ばかりでなく、送球にも当てはまります。ノックでの「もう１本」は許されますが、試合でのミスは取り返しがつきません。１球の怖さを肝に銘じましょう。

一部の優勝を決定する東海女子大学と中京大学の最終戦は、戦前の予想に反して、東海女子大学が４－０の大差で中京大学を敗りました。東海女子大学のチャンスにおける集中打は見事でした。初回にパスボールとワイルドピッチというミスで１点先制された中京大学が、これで堅くなってしまったのが大きな敗因でしょう。

二部は何と言っても東海学園大学の独壇場でした。長澤監督・小野澤コーチに率いられた１年生のエリートチームは、全試合コールド・無失点で勝ち進み、インカレ代表権も獲得して、格の違いを見せつけました。その陰に隠れてしまいましたが、笠原監督の中京学院大学が９名での２位は、称賛に値します。また、首位打者を獲得した堀川選手を中心に、日本福祉大学の活躍も見事でした。古参の愛知教育大学が全敗したのは残念ですが、１年生の加入によって、奮起されることを期待します。（中京女子大学　水谷　博）

東海テレビ杯
平成13年度秋季 第49回 東海地区大学男子ソフトボールリーグ戦

主　催：東海地区大学ソフトボール連盟

主　管：愛知県ソフトボール協会・同協会西三河支部・碧南市ソフトボール連盟・愛知教育大学

開催日：10月13日（土）・14日（日）・20日（土）・21日（日）

会　場：愛知県碧南市玉津浦グラウンド

一部リーグ戦対戦成績

チーム	聖　徳	中　京	愛　知	常　葉	愛　教	名　城	勝	分	負	失	順位
岐阜聖徳		○ 4－1	● 7－8	○ 10－3	○ 12－0	○ 15－1	4	0	1	13	２位
中　京	● 1－4		○ 4－2	● 2－7	● 1－4	○ 11－2	2	0	3	19	５位
愛　知	○ 8－7	● 2－4		○ 10－9	○ 5－4	○ 4－1	4	0	1	25	優勝
常葉学園	● 3－10	○ 7－2	● 9－10		● 7－10	○ 15－1	2	0	3	33	４位
愛知教育	● 0－12	○ 4－1	● 4－5	○ 10－7		○ 5－3	3	0	2	28	３位
名　城	● 1－15	● 2－11	● 1－4	● 1－15	● 3－5		0	0	5	50	６位

※１－２位及び４－５位は当該チーム同士の対戦結果による。

Ａグループ戦

チーム	名古屋	南　山	みずほ	日　福	勝	分	負	失点	順位
名 古 屋		○ 8－6	○ 11－1	○ 8－7	3	0	0	１４	１位
南　山	● 6－8		○ 6－0	○ 8－5	2	0	1	１３	２位
み ず ほ	● 1－11	● 0－6		○ 11－3	0	0	3	２８	３位
日本福祉	● 7－8	● 5－8	● 3－11		0	0	3	２７	４位

Ｂグループ戦

チーム	学　院	静　岡	岐　経	朝　日	勝	分	負	失点	順位
愛知学院		○ 11－1	○ 18－3	○ 11－0	2	0	1	4	１位
静　岡	● 1－11		○ 12－0	○ 11－3	2	0	1	１４	２位
岐阜経済	● 3－18	● 0－12		○ 9－3	1	0	2	３３	３位
朝　日	● 0－11	● 3－11	● 3－9		1	0	2	３１	４位

１・２位決定戦
愛知学院：９
VS
名 古 屋：２

３・４位決定戦
南　　山：５
VS
静　　岡：３

５・６位決定戦
岐阜経済：12
VS
み ず ほ：11

７・８位決定戦
日本福祉：11
VS
朝　　日：６

講評

３連覇を狙う岐阜聖徳学園大学に、どの大学がストップをかけるかが注目された中、混戦を抜け出して優勝を飾ったのは愛知大学（４季ぶり９度目）であった。愛知大学はリーグ戦序盤は投打ともに今ひとつの出来であったもの、優勝の可能性の出てきた第４戦・最終戦とも、５点差を一気にはね返す驚異の粘りで優勝を飾った。中でも後半２試合で３本塁打を放ち、最優秀選手にも輝いた挽内選手（２年：愛知：新城東高出）の打棒は目を見張るものであった。一方、投手陣２人はともに不調であり、大きな課題も残った。惜しくも準優勝に終わった岐阜聖徳学園大学は、新チーム結成後も元気さを継続している。手嶋投手（２年：愛知：西尾高出）はベストナインに選出され、前エースの河村投手の抜けた穴を十分にうめている。来季はひとまわり大きくなったチームを期待したい。愛知教育大学は過去最高の３位となった。幹事校としての役割も十分に果たし、他大学の模範となるような活躍ぶりであった。勢いを継続して来季に臨んでほしい。

今リーグ戦は打撃戦となる試合が目立った。外野フェンスを設置し本塁打がでやすい環境ではあるが、低レベルな投手力が主要因であろう。「点を取る」よりも「点を取られない」チーム作りの方が全国レベルで通用する早道であることは言うまでもない。東海地区の男子大学チームが全国規模において上位を狙うために、全チーム投手力の強化をはかってほしい。

レベルアップしてきている２部においては、愛知学院大学が優勝を飾り、１部最下位となった名城大学との入れ替え戦でも勝利を収めて１部に昇格した。リーグ戦結成当初から参加している大学であり、１部での活躍を期待したい。（文責：東海地区大学ソフトボール連盟 理事 紅林和博）

１部・２部入替戦

愛知学院大学　４－３　名城大学　※愛知学院大学は来季より１部昇格

個人表彰

最優秀選手賞：挽内勇次（愛知大２年）
敢闘選手賞：板東俊輔（岐阜聖徳大３年）
優秀選手賞：森　亮介（愛知学院大４年）
一部首位打者賞：河下卓司（愛知教育大４年）
二部首位打者賞：佐藤健二（愛知学院大４年）
ベストナイン：投　　手　手嶋智宏（岐阜聖徳大２年）
捕　　手　大釜啓之（岐阜聖徳大３年）
一塁手　板東俊輔（岐阜聖徳大３年）
二塁手　守護聖豪（常葉学園大３年）
三塁手　挽内勇次（愛知大２年）
遊撃手　福井庸祐（中京大３年）
外野手　小川論侑（愛知大１年）
外野手　伊藤秀文（岐阜聖徳大３年）
外野手　前川博信（愛知大３年）

指名打者　田辺正彦（愛知大３年）

東海テレビ杯
平成13年度秋季第38回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦

主　催：東海地区大学ソフトボール連盟
主　管：愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・刈谷市ソフトボール連盟・静岡大学
開催日：10月６・７・８・13日
会　場：愛知県刈谷市刈谷駅南運動広場

一部リーグ戦対戦成績

チーム	東　女	中　京	中　女	常　葉	桜　花	東　学	勝	分	敗	失	順位
東海女子		○ 3－2	○ 3－0	○ 5－0	○ 7－2	△ 2－2	4	1	0	6	優勝
中　京	● 2－3		○ 7－0	○ 11－0	○ 5－1	○ 1－0	4	0	1	4	２位
中京女子	● 0－3	● 0－7		● 2－9	● 0－2	● 0－6	0	0	5	27	６位
常葉学園	● 0－5	● 0－11	○ 9－2		● 1－5	● 0－1	1	0	4	24	５位
桜花学園	● 2－7	● 1－5	○ 2－0	○ 5－1		● 0－2	2	0	3	15	４位
東海学園	△ 2－2	● 0－1	○ 6－0	○ 1－0	○ 2－0		3	1	1	3	３位

二部リーグ戦対戦成績

A group	静　岡	聖　徳	愛　教	南　山	勝	分	負	失点	順位
静　岡		○ 9－6	○ 13－1	○ 12－1	3	0	0	8	１位
岐阜聖徳	● 6－9		○ 7－1	○ 12－2	2	0	1	１２	２位
愛知教育	● 1－13	● 1－7		● 0－12	0	0	3	３２	４位
南　山	● 1－12	● 2－12	○ 12－0		1	0	2	２４	３位

B group	中　学	日　福	名　大	名　城	勝	分	負	失点	順位
中京学院		○ 13－3	● 0－1	○ 9－1	2	0	1	4	２位
日本福祉	● 3－13		● 0－8	○ 14－2	1	0	2	１３	３位
名古屋	○ 1－0	○ 8－0		○ 8－1	1	0	2	1	１位
名　城	● 1－9	● 2－14	● 1－8		1	0	2	３１	４位

１・２位決定戦
静　　岡：１
VS
名古屋：０

３・４位決定戦
中京学院：８
VS
岐阜聖徳：２

５・６位決定戦
南　　山：３
VS
日本福祉：２

７・８位決定戦
名　　城：９
VS
愛知教育：９

１部２部入れ替え戦

中京女子大学（１部６位）12－２静岡大学（２部１位）　中京女子大学は１部残留

個人表彰

最優秀選手賞：東　　芳美左翼手（東海女子大学　２年）
敢闘選手賞：鬼頭　直子投　手（中京大学３年）
優秀選手賞：渡辺あゆち投　手（静岡大学３年）
１部首位打者賞：奥村　理代中堅手（中京大学１年）５割５分６厘
２部首位打者賞：近藤奈緒美（静岡大学１年）７割１分４厘
ベストナイン：投　　手　小長井美希（東海女子大学３年）
捕　　手　小川　浩世（東海女子大学　３年）
一塁手　蔦　ゆみ子（中京大学３年）
二塁手　山田江利子（東海女子大学　２年）
三塁手　近藤　真代（中京大学２年）
遊撃手　服部　由美（桜花学園大学３年）
外野手　奥村　理代（中京大学１年）
外野手　土橋　佳代（東海学園大学　１年）
外野手　中岡加奈子（東海女子大学　２年）
指名打者　牟田　知里（東海女子大学　２年）

講評

リーグ戦は４日間の好天に恵まれ、これまでの最高の１部６チーム、２部８チーム、計14チームで戦われた。

１部リーグ戦は、夏のインカレに準優勝した東海女子大学とベスト８の東海学園大学がいきなり対戦する試合から始まった。この試合は、１点を先行された東海学園大が４回にソロ本塁打で追いつき、タイブレーカーに持ち込んでまたも先行されるもののしぶとく追いつき、結局２－２で引き分けることになった。次の中京女子大学と桜花学園大学の試合は、桜花学園大学の永井投手が本リーグ戦２度目の完全試合を達成した。その記録は、三振２、内野ゴロ10、内野フライ５、外野フライ４であった。このように初日から盛り上がったリーグ戦の順位は、これまでとは大きく異なったものになった。優勝は、最終戦で中京大学の粘りを振り切って、春季に続き10回目の東海女子大学が獲得した。１部に昇格したばかりの東海学園大学は、中京大学に惜敗したが、堂々の３位を確保した。桜花学園大学も永井投手と服部遊撃手を中心によく健闘し、初の４位となった。一方、伝統の中京女子大学は、新チームによる選手層の薄さを露呈し、５戦全敗屈辱の入れ替え戦出場となった。注目された選手は、何と言っても中京大学の奥村理代中堅手である。５割５分６厘で首位打者を獲得したシュアなバッティングと俊足は高く評価される。豊田自動織機・トヨタ自動車・デンソーの日本リーグ３チームの選手で構成される国体成年女子愛知県チームに大学生でただひとり選ばれ、宮城県での活躍が期待される。

２部リーグ戦は、男子と同じように、８チームを２組に分けたグループ戦の後に順位決定戦を行う方式になった。Ａグループでは静岡大学が圧倒的な強さを見せつけた。Ｂグループは名古屋大学が藤原投手を中心によく健闘しグループ１位となった。また、初出場の名城大学は、順位決定戦で愛知教育大学と引き分け、全敗を免れた。いずれのチームも投手が格段によくなり、これまでにない充実した２部リーグであった。１部のチームを脅かすためには、まず守備力の強化、特に送球の速さと正確性の向上が大きな課題であろう。（中京女子大学　水谷　博）

【近畿地区】

平成13年度第33回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

主催：関西学生ソフトボール連盟男子事務局
後援：大阪ソフトボール協会、ラジオ大阪
協賛：（株）MIZUNO、（株）ツヅキ
期日：平成13年４月１，15，22，29，５月３，４日
会場：万博公園スポーツ広場

１部リーグ戦結果場

１　部	京　産	経　法	四　仏	神　院	龍　谷	立命館	勝	敗	分	点	順
京都産業		● １－４	○ ８－２	○ ４－０	○ １－０	○ ７－３	4	1	0	12	2
大阪経法	○ ４－１		○ ４－０	○ ２－１	○ ６－３	○ ４－２	5	0	0	15	1
四国仏教	● ２－８	● ０－４		● １－９	● ０－13	● ０－９	0	5	0	0	6
神戸学院	● ０－４	● １－２	○ ９－１		○ ３－０	● ４－７	2	3	0	6	4
龍　　谷	● ９－２	● １－３	○ ８－４	● ０－２		○ ２－６	2	3	0	6	5
立 命 館	● ３－７	● ２－４	○ ９－０	○ ７－４	● ０－１		2	3	0	6	3

※３位、４位、５位は得失点差規定による。
※５位の龍谷大学は２部との入れ替え戦へ。
※６位の四天王寺国際仏教大学は自動的に２部に降格。

１部総評

秋季リーグ優勝の大阪経済法科大学は、エースの中村の安定したピッチングに加えて、打線でも守備でも他チームにつけいるスキを見せない試合運びで、全勝優勝を果たし連覇を成し遂げた。一方、２部から昇格を果たして１部に挑んだ四天王寺国際仏教大学は力の違いを見せつけられ、全敗で２部に逆戻りとなった。また、京都産業大学の林投手（２年生）は成長著しく、力強いライズボールを武器にしてチームの２位（４勝１敗）に大きく貢献した。この京都産業大学とは逆に、秋季２位の龍谷大学は、長高・谷藤のバッテリーが投打に活躍を見せたが、一歩及ばす２勝３敗で得失点差により５位となり、入れ替え戦に回る結果となった。立命館大学は初戦の龍谷大学での惜敗が響き、波に乗れぬままリーグを終え、神戸学院大学も竹下投手の抜けた穴を若いメンバーでうまくカバーしてチームを作ってきたが、ともに２勝３敗どまりとなった。

秋季リーグは中村、林の両功投手をいかに打ち崩すかが優勝争いの鍵となりそうである。
（事務次長　関西大学　高村慎一郎）

２部リーグ戦結果

２部Ａ	神　戸	関　西	仏　教	大　体	大府立	勝	敗	分	点	順
神　戸		● 13－２	○ 12－６	● ３－２	○ ４－７	2	2	0	6	2
関　西	○ ２－13		○ ５－６	○ ３－９	○ ０－10	4	0	0	12	1
仏　教	● ６－10	● ０－11		△ ９－９	○ ６－４	1	2	1	4	4
大阪体育	○ 10－０	● ３－４	△ 11－０		● ２－０	1	2	1	4	3
大阪府立	● ７－４	● 10－０	● 21－０	○ ３－５		1	3	0	3	5

２部Ｂ	京　都	大市立	同志社	兵　教	大　阪	勝	敗	分	点	順
京　都		● ３－７	○ ４－１	○ ４－１	○ ５－０	3	1	0	9	1
大阪市立	○ ７－３		● ４－６	● ２－６	△ ９－９	1	2	1	4	3
同 志 社	● １－４	○ ６－４		● ８－11	● ２－21	1	3	0	3	5
兵庫教育	● １－４	○ ６－２	○ 11－８		○ ９－５	3	1	0	9	2
大　阪	● ０－５	△ ９－９	○ 21－２	● ５－９		1	2	1	4	4

２部決勝戦　関西大学（Ａ１位）10－０京都大学（Ｂ１位）

※関西大学は１部昇格、京都大学は１部との入れ替え戦へ

２部９・10位決定戦　大阪府立大学（Ａ５位）５－９同志社大学（Ｂ５位）

※大阪府立大学は自動的に３部に降格、同志社大学は３部との入れ替え戦へ

２部総評

いよいよ今季から始まった３部リーグ制。結果的に、２部リーグ在籍のチームにとって非常に緊張感のあるリーグ戦になった。Ａブロックでは１部復帰を目指す関西大学が他チームより一歩抜きんでた実力で、大方の予想通り４戦全勝で危なげなくブロック戦にコマを進めた。一方、Ｂブロックは実力が伯仲したチームが集まったため接戦となる試合が続いたが、失点の少ない効率的な試合運びをした京都大学が、勝ち点で並んだ兵庫教育大学を直接対決で下していたため、この混線を制することとなった。この２チームによる１部昇格をかけたブロック決勝は、関西大学が秀でた攻撃力で京都大学を圧倒し、１部復帰を果たした。この後に、行われた１部－２部入れ替え戦では、５位とはいいえ１部としての力を十分有した龍谷大学が京都大学に快勝した。一方、今回から３部降格もありうることになったが、昨季ブロック優勝した大阪府立大学と同志社大学が２部残留をかけて戦うという意外な結果も見られたように、２部リーグ内の実力は接近しており一戦一戦が結果に

大きく影響してくることが明らかである。（記録次長　神戸大学　泉谷直哉）

３　部	京　学	関　学	和歌山	奈良教	大経済	甲　南	大工業	勝敗分	順
京都学園			○ 20－０	○ ６－４		○ 10－０	● ０－８	３１０	3
関西学院			○ ２－１	● ５－11	○ 15－０	○ 11－１		３１０	2
和 歌 山	● ２－20	● １－２		● ０－10	△ 10－10			０３１	6
奈良教育	● ４－６	○ 11－５	○ 10－０				● ４－８	２０２	4
大阪経済		● ０－15	△ 10－10			○ 10－０	● ０－10	１２１	5
甲　　南	● ０－10	● １－11			● ０－10		● ０－26	０　４	7
大阪工業	○ ８－０			○ ８－４	○ 10－０	○ 26－０		４００	1

※２位、３位よる。

３部総評

昨年２部リーグで残念ながら結果が振るわなかった６チームと今年から関西リーグに加盟した大阪経済大学を加えた７チームで３部リーグ戦は実施された。しかしながら、グランド確保等の問題から、７校総当たりではなく、全チーム４試合を行いその結果から順位を決めるという変則的な試合形式となった。このことから、各チーム間の実力が均衡しているため同じ勝敗数のチームが出てくる可能性があり、一つでも多くの勝ち点・最小失点が優勝の条件であった。

このような中、大阪工業大学が４戦全勝で２部リーグ昇格を決め、２位には関西学院大学（京都学園大学も３勝１敗だったが、得失点差による）が入った。ただ、２部との入れ替え戦では力の差を見せつけられた結果に終わった。リーグは戦前の予想とは相反し、各チームの実力差がはっきりと表れ、投手力・守備力が上回るチームが順当に勝ち進んでいるように思われた。その中で、今春加盟の大阪経済大学の善戦が目立った。今後は、秋季リーグに向けて各チームが練習を積み重ね戦力アップを行い、２部リーグとの実力格差を埋めることが３部リーグ各チームの課題となるであろう。（大阪工業大学　主将　紙森健太郎）

入れ替え戦

１部－２部：龍谷大学９－１京都大学　※龍谷大学は１部残留

２部－３部　　同志社大学　　10－３　　関西学院大学、同志社大学は２部残留

全日本大学選手権大会（インカレ）予選結果

春季リーグの１部上位３チーム（大阪経済法科大学、京都産業大学、立命館大学）に加えて、予選を勝ち上がった。神戸学院大学と龍谷大学が出場権を獲得した。

大会を振り返って

今季から２部以下の試合内容をできるだけ均衡化したものにする等の趣旨で、リーグの再編成（２部制から３部制へ）がなされ、新方式でリーグ戦が行われた。具体的には、大阪経済大学がリーグに準加盟したこともあり、当初は２部が５チームの２ブロック制、３部が４チームの２ブロック制をしく予定であった。しかし、３部に急遽不参加チームが出たため、３部については７チーム間で変則の形で対戦せざるを得なくなった（各チームとも４試合を行う。ただ、対戦しない相手も出てくる）。結果をみてみると、２部では接戦が多く展開されたように感じる。また、チームの反応も今回のやり方については概ね好評の意見であった。（理事長　兵庫教育大学　森田啓之）

平成13年度第33回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成13年４月15・21・22・29・30日、５月３・４・５日
会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・兵庫教育大学・京都女子大学
主催：関西学生ソフトボール連盟
主管：関西学生ソフトボール女子事務局・兵庫県大学ソフトボール連盟
後援：兵庫県ソフトボール協会・京都府ソフトボール協会

予選リーグ結果

予選Ａ１	武庫川	関　外	龍　谷	大　谷	大　体	勝	敗	分	順
武庫川		● １－３	● ０－４	● ０－１	○ ６－４	1	3	0	4
関西外語	○ ３－１		○ ２－１	● ０－１	○ １－０	3	1	0	1
龍　谷	○ ４－０	● １－２		○ １－０	○ １－０	3	1	0	2
大谷女子	○ １－０	○ １－０	● ０－１		● １－２	2	2	0	3
大阪体育	● ４－６	● ０－１	● ０－１	○ ２－１		3	1	0	5

関西外国語大学、龍谷大学、大谷女子大学は１部リーグへ
武庫川女子大学、大阪体育大学は２部リーグへ

予選Ａ２	園　田	親　和	国　際	立命館	兵　教	勝	敗	分	順
園田学園		● ０－１	● ０－２	● １－６	○ 10－４	1	3	0	4
神戸親和	○ １－０		● ０－１	● １－２	○ ７－０	2	2	0	3
大阪国際	○ ２－０	○ １－０		● ２－４	○ 11－０	3	1	0	2
立 命 館	○ ６－１	○ ２－１	○ ４－２		○ 10－０	4	0	0	1
兵庫教育	● ０－10	● ０－７	● ０－11	● ０－10		0	4	0	5

立命館大学、大阪国際女子大学、神戸親和女子大学は１部リーグへ
園田学園女子大学、兵庫教育大学は２部リーグへ

予選Ｂ	佛　教	天　理	大府立	神　戸	四　天	勝	敗	分	順
佛　　教		● ０－10	○ ８－１	● 12－13	○ 14－４	2	2	0	3
天　　理	○ 10－０		○ 10－０	○ 10－０	○ 13－３	4	0	0	1
大阪府立	● １－８	● ０－10		● ３－７	● 14－19	0	4	0	5
神　　戸	○ 13－12	● ０－10	○ ７－３		○ 11－13	3	1	0	2
四天王寺	● ４－14	● ３－13	○ 19－14	○ 13－11		2	2	0	4

天理大学は２部リーグへ
佛教大学、神戸大学、四天王寺国際仏教大学、大阪府立大学は３部リーグへ

１部リーグ戦結果

１　部	関　外	立命館	国　際	龍　谷	大　谷	親　和	勝	敗	分	順
関西外語		○ １－０	○ １－０	● ０－６	● ０－１	○ １－０	3	2	0	1
立 命 館	● ０－１		● ０－１	○ １－０	○ ２－１	○ ２－１	3	2	0	2
大阪国際	● ０－１	○ １－０		● ４－５	○ ６－５	● ０－４	2	3	0	6
龍　　谷	○ ６－０	● ０－１	○ ５－４		● ０－１	● ０－１	2	3	0	4
大谷女子	○ １－０	● １－２	● ５－６	○ １－０		● ０－１	2	3	0	5
神戸親和	● ０－１	● １－２	○ ４－０	○ １－０	○ １－０		3	2	0	3

※ １・２・３位は、当該チームの対戦成績により順位を決定しました。
　４・５・６位は、当該チームの総得失点差により順位を決定しました。

１部個人表彰

打撃成績

順位	氏　名	大　学	打　率
首位打者	計盛　志津子	神戸親和女子女子大学	４割９厘
２　位	渡辺　真弓	関西外国語大学	３割７分９厘
３　位	山田　沙織	立命館大学	３割３分３厘
４　位	松田　逸佳	龍谷大学	３割４厘
５　位	星野　恵	大阪国際女子大学	３割
６　位	秋岡　奈美	大阪国際女子大学	２割８分
７　位	山根　輝美	立命館大学	２割７分３厘
８　位	佐藤　裕美	立命館大学	２割５分９厘
８　位	菅原　絵美	大谷女子大学	２割５分９厘
１０　位	宮林　里香	龍谷大学	２割５分８厘

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
最優秀投手	多田　尚江	神戸親和女子大学	０．０００
２　位	敷地　由美子	立命館大学	０．３６８
３　位	細田　彩香	神戸親和女子大学	０．４１１
４　位	帰山　悦子	関西外国語大学	０．５９５
５　位	福井　円	大谷女子大学	０．６４８

ベストプレー賞

大　学	氏　名
関西外国語大学	南　ひとみ
立命館大学	楽　直子
神戸親和女子大学	前田　真美
龍谷大学	山下　郁代
大谷女子大学	福井　円
大阪国際女子大学	前原　千春

盗塁賞

岡本　久美子	立命館大学	４本
佐藤　裕美	立命館大学	４本
星野　恵	大阪国際女子大学	４本

ホームラン賞

新小田　美　紀	龍谷大学	１本
東　郷　由香里	大谷女子大学	１本
上　田　玲	大阪国際女子大学	１本

優秀選手賞

大　　学	氏　　名
関西外国語大学	渡辺　真弓
立命館大学	山田　沙織
立命館大学	山根　輝美
立命館大学	敷地　由美子
神戸親和女子大学	細田　彩香
龍谷大学	松田　逸佳
大阪国際女子大学	星野　恵
大阪国際女子大学	秋岡　奈美

２部リーグ戦結果

２　部	園　田	武庫川	大　体	兵　教	天　理	勝	敗	分	順
園田学園		○ ３－０	○ ２－０	○ ６－０	○ 12－０	4	0	0	1
武 庫 川	● ０－３		○ １－０	○ 18－０	○ 10－１	3	1	0	2
大阪体育	● ０－２	● ０－１		○ ７－０	○ 10－０	2	2	0	3
兵庫教育	● ０－６	● ０－18	● ０－７		● ８－10	0	4	0	5
天　　理	● ０－12	● １－10	● ０－10	○ 10－８		1	3	0	4

２部個人表彰

打撃成績

順位	氏　　名	大　　学	打　　率
首位打者	高嶋　彩世	天理大学	５割
首位打者	船田　由香里	天理大学	５割
３　　位	弓場　彰子	園田学園女子大学	４割２分１厘
４　　位	奥村　幸子	天理大学	３割８分９厘
５　　位	藤本　詔子	天理大学	３割５分３厘
６　　位	平川　香奈子	武庫川女子大学	３割５分
７　　位	幅中　留理	園田学園女子大学	３割３分３厘
８　　位	大澤　亜弓	園田学園女子大学	３割１分３厘
９　　位	奥本　亜里沙	大阪体育大学	３割４厘
１０　位	西田　由希子	兵庫教育大学	２割９分４厘

投手成績

順位	氏　　名	大　　学	防御率
最優秀投手	近　藤　恵子	大阪体育大学	１．３８
２　位	小福田　聖子	武庫川女子大学	１．８１
３　位	高　嶋　彩世	天理大学	５．８２

ベストプレー賞

大　　学	氏　　名
園田学園女子大学	金子　直美
武庫川女子大学	吉澤　純子
大阪体育大学	岡本　佳乃
天理大学	法森　千佳
兵庫教育大学	松尾　江里

盗塁賞

安達　珠美　　園田学園女子大学　　４本

ホームラン賞

桝本　亜希　　園田学園女子大学　　４本

優秀選手賞

大　　学	氏　　名
園田学園女子大学	弓場　彰子
園田学園女子大学	幅中　留理
武庫川女子大学	平川　香奈子
天理大学	奥村　幸子
天理大学	藤本　詔子

３部リーグ戦結果

３　部	佛　教	神　戸	四　天	大府立	勝	敗	分	順
佛　　教		○ 12－１	○ ４－３	○ ８－２	３	０	０	１
神　　戸	● １－12		○ 10－０	○ ６－５	２	１	０	２
四天王寺	● ３－４	● ０－10		○ 14－４	１	２	０	３
大阪府立	● ２－８	● ５－６	● ４－14		０	３	０	４

３部個人表彰

打撃成績

順位	氏　　名	大　　学	打　　率
首位打者	成田　暁美	四天王寺国際仏教大学	５割５分
２　位	盛岡　真弓	神戸大学	４割６分７厘
３　位	柳谷　真理	大阪府立大学	４割５分５厘
４　位	西村　香里	四天王寺国際仏教大学	３割８分１厘
５　位	平野　さやか	大阪府立大学	３割７分５厘
５　位	山井　由美子	神戸大学	３割７分５厘
７　位	木村　朗子	佛教大学	３割６分８厘
８　位	植山　季絵	仏教大学	３割５分３厘
９　位	田中　美津子	大阪府立大学	３割３分３厘

9　位	直原　一恵	神戸大学	3割3分3厘

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
最優秀投手	西村　香里	四天王寺国際仏教大学	1．53
2　位	葛目　江美	佛教大学	2．79
3　位	浅野　幸恵	神戸大学	3．74

ベストプレー賞

大　学	氏　名
佛教大学	葛目　江美
神戸大学	山井　由美子
四天王寺国際仏教大学	若狭　志奈
大阪府立大学	平野　さやか

盗塁賞

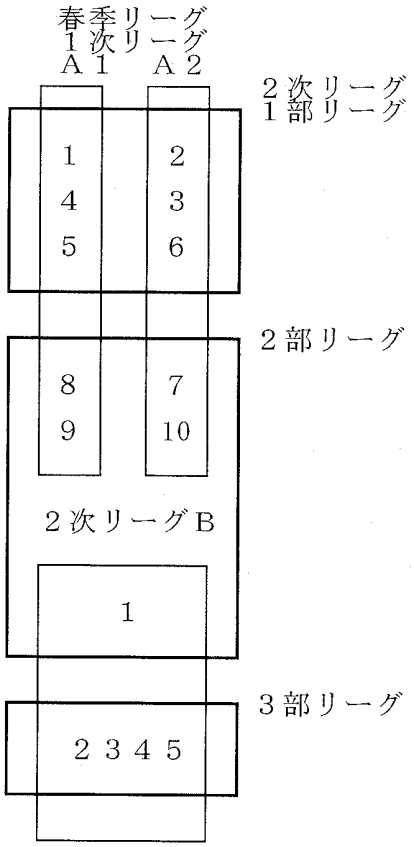
栗間　愛　　神戸大学　　7本

優秀選手賞

大　学	氏　名
神戸大学	盛岡　真弓
大阪府立大学	柳谷　真理

※春季リーグ戦におけるリーグ再編成について※

関西リーグ（女子）は、平成12年度よりリーグ再編成を実施し、この春よりこれまでの縦割りのリーグ戦形式を改め、右図に示したような1次予選リーグ、2次部別リーグと2段階システムの方法を採用した。変更の主旨は、1．試合数を確保する、2．レベルの均衡したチームと試合を多くする、3．インカレ予選をリーグ戦で実施する等である。これにより、問題とされていたリーグ内の実力差が大きすぎて有意義なゲームができない、チームの棄権や廃部によって安定した試合数が確保できない等の問題がある程度解消された。また、インカレ出場の権利獲得方法についても、上位10チームによる予選リーグを実施することにより予選出場枠の拡大が実現できた。関西リーグ女子としては、強いチームにはより強くなり全国大会等で活躍することを望み、クラブライフを楽しむチームには、いい刺激を何らかの形で提供していきたいと考えている。



リーグ戦総評

予選リーグから、A1・A2リーグで大きな番狂わせが起こった。武庫川女子大学、園田学園女子大学が2部リーグに回ったのである。まさかであるが、ここ2～3シーズは上位8チームが混戦する関西女子戦国リーグの結果でもあろう。1部リーグでも混戦模様は

続き、上位３チームが３勝２敗、下位３チームが２勝３敗と力の均衡したゲームを展開した。結果、優勝は関西外国語大学、２位は立命館大学、３位は神戸親和女子大学、順に龍谷大学、大谷女子大学、大阪国際女子大学であった。今回の１部リーグは、少ないチャンスをものにしたチーム、最後まで集中力が持続したチームが勝利をものにした感じがする。選手からは、接戦の試合を多く経験できよかったとの声も聞かれたが、今後の検討課題として対戦相手の偏りについての意見もあった。

２部リーグは、予想通り園田学園女子大学と武庫川女子大学の決戦となり、園田学園女子大学が勝利した。順に大阪体育大学、天理大学、兵庫教育大学という結果であった。昨シーズンより加盟した天理大学の頑張りが印象に残った。３部リーグは、予想通り佛教大学が優勝し、順に神戸大学、四天王寺国際仏教大学、大阪府立大学という結果であった。

リーグ戦終了後の意見交換で、２段階システムの試合形式については好評を得たが、リーグの枠組みの見直し意見が出された。具体的な内容は、１部リーグに対戦チームの偏りができインカレの出場権を争う試合ならば、リーグの枠数を競技力の向上からみても検討すべきであるとの意見と、２部リーグの試合の半数以上がコールドゲームであったため、リーグの枠組みを再検討してはどうかという意見である。検討した結果、１部リーグを８チーム、２部リーグを４チームとし秋季リーグを実施することとなった。（文責：大阪国際女子大学　久保田豊司）

平成13年度第33回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

主催：関西学生ソフトボール連盟男子事務局
後援：大阪ソフトボール協会、ラジオ大阪
協賛：（株）MIZUNO、（株）ツヅキ
期日：平成13年９月30日，10月７，14，21，28，11月４日
会場：万博公園スポーツ広場

１部リーグ戦結果

１　部	関　西	龍　谷	大経法	立命館	神　院	京　産	勝	敗	分	点	順
関　西		● 1－4	● 0－7	● 3－4	● 0－9	● 0－8	0	5	0	0	6
龍　谷	○ 6－1		● 0－6	○ 5－4	○ 5－4	● 1－8	3	2	0	9	3
大阪経法	○ 7－0	○ 6－0		● 0－4	○ 3－2	○ 3－2	4	1	0	12	1
立命館	○ 4－3	● 4－5	○ 4－0		○ 3－2	△ 2－2	3	1	1	10	2
神戸学院	○ 9－0	● 4－5	● 2－3	● 2－3		○ 8－3	2	3	0	6	5
京都産業	○ 8－0	○ 8－1	● 2－3	△ 2－2	● 3－8		2	2	1	7	4

※５位の神戸学院大学は２部との入れ替え戦へ。
※６位の関西仏教大学は自動的に２部に降格。

１部総評

例年、秋季リーグは４年生が抜けた穴を各チームがどう埋めて、新チームとしてのゲーム展開をどれだけ作れているかが勝負の鍵となっている。

２季連続優勝の大阪経済法科大学は初戦、立命館大学によもやの完封負けを喫したものの、その後は大経法らしい試合を重ね、３季連続優勝を飾った。その大阪経済法科大学に唯一勝利した立命館大学は、優勝のかかった最終試合での龍谷大学での敗戦が本当に悔やまれる。しかし、尾上投手を中心に接戦をものにする展開が目立ち、今後に期待が持てそうである。春季リーグ５位の龍谷大学は、主将の谷藤選手を中心に３位に食い込んだ。逆に、京都産業大学は初戦を落としたのが響いたか、波に乗れずに２勝どまりとなった。また、神戸学院大学は春季とほとんど変わらないメンバーで臨んだが５位となり、２部から再昇格した関西大学も１勝もできず、最下位となった。（事務次長　関西大学　井澤一也）

２部Ａ	兵　教	京　都	大　阪	四　仏	同志社	勝	敗	分	点	順
兵庫教育		△ 6－6	● 5－7	○ 7－6	○ 10－7	2	1	1	7	2
京　　都	△ 6－6		○ 3－1	○ 4－1	○ 4－3	3	0	1	10	1
大　　阪	○ 7－5	● 1－3		○ 5－3	● 3－4	2	2	0	6	4
四天国仏	● 6－7	● 1－4	● 3－5		● 4－9	0	4	0	0	5
同 志 社	● 7－10	● 3－4	○ 4－3	○ 9－4		2	2	0	6	3

※３位と４位は直接対決の結果による。

２部Ｂ	仏　教	大　体	神　戸	大工業	大市立	勝	敗	分	点	順
仏　　教		● 0－10	● 1－11	○ 1－0	△ 2－2	1	2	1	4	4
大阪体育	○ 10－0		○ 7－5	○ 5－2	● 3－12	3	1	0	9	1
神　　戸	○ 11－1	● 5－7		○ 9－6	○ 5－3	3	1	0	9	2
大阪工業	● 0－1	● 2－5	● 6－9		● 0－2	0	4	0	0	5
大阪市立	△ 2－2	○ 12－3	● 3－5	○ 2－0		2	1	1	7	3

※１位と２位は直接対決の結果による。

２部優勝決定戦　京都大学（Ａ１位）８－０大阪体育大学（Ｂ１位）

※京都大学は１部昇格、大阪体育大学は１部との入れ替え戦へ

２部９・10位決定戦　四天王寺国際仏教大学（Ａ５位）５－４大阪工業大学（Ｂ５位）

※大阪工業大学は自動的に３部に降格、四天王寺国際仏教大学は３部との入れ替え戦へ

との入れ替え戦へ

2部総評

2部Aブロックは、抽選が決まったときから激戦と目されていたが、終わってみると、攻撃力もあり、投手も安定していた京都大学がブロック優勝を果たした。最終日まで京都大学に迫る勢いを見せた兵庫教育大学は、京都大との直接対決でリードしていながら最終回で同点にされた初戦が悔やまれる形となった。一方、Bブロックは、大阪体育大学が勝ち点で並んでいた神戸大学を直接対決で下し、2部決勝戦にコマを進めた。この2チームによる決勝戦は、大阪体育大学の攻撃を封じ込め、また打線も爆発した京都大学が、8－0という大差で1部昇格を果たした。この後に行われた1部・2部の入れ替え戦でも、大阪体育大学は神戸学院大学の厚い壁の前に涙をのんだ。一方、今季1部から降格してきた四天王寺国際仏教大学はまさかの全敗で、やはり3部から昇格してきたが全敗で最下位となった大阪工業大学と、2部残留をかけて争うことになった。結果は、接戦だったが、四天王寺国大が大工大を5－4で下し、2部残留を決めた。1部・2部の入れ替え戦を見ていると、まだまだその1部と2部の差は大きいように感じた。ただ、今回昇格を果たした京都大は、2部の中でもその実力は一歩抜け出ていたので、次季リーグ戦では1部リーグの台風の目となって、大いに活躍してもらいたい。（記録次長　神戸大学　永井雄三）

3部A	流　通	奈良教	甲　南	関　学	京　学	勝	敗	分	点	順
流通科学		● 5－9	○ 8－2	○ 7－3	● 0－10	2	2	0	6	3
奈良教育	○ 9－5		○ 6－2	● 5－6	● 4－8	2	2	0	6	2
甲　南	● 2－8	● 2－6		● 4－8	● 0－14	0	4	0	0	5
関西学院	● 3－7	○ 6－5	○ 8－4		● 0－7	2	2	0	6	4
京都学園	○ 10－0	○ 8－4	○ 14－0	○ 7－0		4	0	0	12	1

※2、3、4位は得失点差による。

3部B	大府立	獨　協	和歌山	大経済	勝	敗	分	点	順
大阪府立		○ 11－1	● 10－14	○ 10－3	2	1	0	6	2
姫路獨協	● 1－11		● 1－11	● 3－14	0	3	0	0	4
和歌山	○ 14－10	○ 11－1		○ 19－1	3	0	0	9	1
大阪経済	● 3－10	○ 14－3	● 1－19		1	2	0	3	3

3部総評

3部リーグは、春に出場できなかった姫路獨協大学と新規加盟の流通科学大学が加わって計9チームとなり、2ブロッ制で実施することができた。Aブロックでは、京都学園大学が4試合中3完封勝ちという圧倒的な強さで優勝を決めた。今回の3部の投手は全体的

によかったが、なかでも京都学園大学の投手はライズボールを操り、レベルの違いを感じさせた。また、２位から４位までが得失点差による順位決定となったように、緊迫した試合が多かった。一方、Ｂブロックは春に２部だった大阪府立大学に直接対決で打ち勝った和歌山大学が優勝し、ブロック決勝に進んだ。３部の優勝を決める京都学園と和歌山の対戦は接戦となったが、４－３で京都学園が勝利し、２部昇格を果たした。なお、初参加の流通科学大学は初勝利に苦しんだものの５分の成績はまずまずであり、と同時に来季への課題が明らかになったのではないだろうか。今年から導入された２部との入れ替え制により、来春も３部の上位争いは大いに楽しみを抱かせる。また、２部昇格を果たす原動力となった京都学園大学バッテリーには次季リーグでの更なる飛躍を期待したい。（奈良教育大学　山本大介）

平成13年度第33回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成13年９月15・16６・23・29・30日、10月６・７・８・14・21日
会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・兵庫教育大学・京都女子大学
主催：関西学生ソフトボール連盟
主管：関西学生ソフトボール女子事務局・兵庫県大学ソフトボール連盟
後援：兵庫県ソフトボール協会・京都府ソフトボール協会

１部対戦成績

１　部	龍　谷	園　田	親　和	関　外	武庫川	国　際	立命館	大　谷
龍　谷		○ 2－1	● 0－2	○ 1－0	○ 4－0	● 2－4	● 0－2	○ 1－0
園田学園	● 1－2		○ 4－3	○ 1－0	○ 7－1	● 0－1	○ 3－2	○ 2－1
神戸親和	○ 2－0	● 3－4		○ 3－0	● 1－2	○ 1－0	○ 1－0	○ 7－0
関西外語	● 0－1	● 0－1	● 0－3		○ 1－0	● 1－2	● 1－3	○ 2－1
武庫川	● 0－4	● 1－7	○ 2－1	● 0－1		● 0－5	● 2－3	○ 5－4
大阪国際	○ 4－2	○ 1－0	● 0－1	○ 2－1	○ 5－0		○ 5－4	○ 2－0
立命館	○ 2－0	● 2－3	● 0－1	○ 3－1	○ 3－2	● 4－5		○ 6－0
大谷女子	● 0－1	● 1－2	● 0－7	● 1－2	● 4－5	● 0－2	● 0－6	

１部最終成績

１位　大阪国際女子大学　　６勝１敗
２位　園田学園女子大学　　５勝２敗
３位　神戸親和女子大学　　５勝２敗
４位　立命館大学　　４勝３敗
５位　龍谷大学　　４勝３敗

6位　関西外国語大学　　2勝5敗
7位　武庫川女子大学　　2勝5敗
8位　大谷女子大学　　0勝7敗

※ 2・3位、4・5位、6・7位は当該チームの成績により順位を決定しました。

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
首位打者	上田　玲	大阪国際女子大学	5割6分
2位	阿部　環	神戸親和女子大学	4割7分3厘
3位	宮林　里佳	龍谷大学	4割1分6厘
4位	井村　智美	立命館大学	4割0分9厘
5位	渡辺　亜里紗	立命館大学	3割8分8厘
6位	幅中　留理	園田学園女子大学	3割7分5厘
7位	計盛　志津子	神戸親和女子大学	3割6分8厘
8位	藤井　麻妃	大阪国際女子大学	3割5分7厘
8位	吉澤　純子	武庫川女子大学	3割5分7厘
10位	松田　逸佳	龍谷大学	3割5分2厘

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
最優秀投手	細田　彩香	神戸親和女子大学	0．00
2位	田中　紅里	立命館大学	0．64
2位	帰山　悦子	関西外国語大学	0．64
4位	杉村　宏美	龍谷大学	0．67
5位	糺　綾子	大谷女子大学	0．95

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
大阪国際女子大学	松村　歩	投手
園田学園女子大学	弓場　彰子	一塁手
神戸親和女子大学	阿部　環	遊撃手
立命館大学	渡辺　亜里紗	一塁手
龍谷大学	杉村　宏美	投手
関西外国語大学	帰山　悦子	投手
武庫川女子大学	吉澤　純子	左翼手
大谷女子大学	糺　綾子	投手

盗塁賞

大前　千春　　園田学園女子大学　　5本

ホームラン賞

弓場　彰子　　園田学園女子大学　　1本
計盛　志津子　　神戸親和女子大学　　1本
原田　早苗　　武庫川女子大学　　1本

優秀選手賞

大　　学	氏　　名	守備位置
大阪国際女子大学	星野　　恵	右翼手
園田学園女子大学	弓場　彰子	一塁手
園田学園女子大学	谷川　由香	三塁手
園田学園女子大学	安達　珠実	中堅手
園田学園女子大学	大前　千春	左翼手
神戸親和女子大学	前田　真美	捕　手
立命館大学	井村　智美	三塁手
立命館大学	瀬戸　晶恵	二塁手
立命館大学	岡本久美子	遊撃手
立命館大学	外薗　麻衣	右翼手
龍谷大学	森　久美子	右翼手
龍谷大学	桜井　あず沙	遊撃手
武庫川女子大学	原田　早苗	二塁手
大谷女子大学	菅原　絵美	遊撃手

※打率が２割７分以上の選手

２部対戦成績表

２　部	大　体	天　理	兵　教	四　天	勝	敗	分	順
大阪体育		○ 1－0	○ 8－1	○ 14－1	3	0	0	1
天　　理	● 0－1		● 0－1	○ 11－3	1	2	0	3
兵庫教育	● 1－8	○ 1－0		○ 14－0	2	1	0	2
四天王寺	● 1－14	● 3－11	● 0－14		0	3	0	4

２部個人表彰

打撃成績

順位	氏　　名	大　　学	打　　率
首位打者	西村　香里	四天王寺国際仏教大学	５割６分３厘
２　位	三好　千春	兵庫教育大学	５割２分４厘
３　位	船田　あずさ	大阪体育大学	４割６分７厘
４　位	小坂　明日香	兵庫教育大学	４割２分１厘
５　位	山本　佳世	兵庫教育大学	４割
６　位	森川　知子	四天王寺国際仏教大学	３割７分
７　位	若狭　志奈	四天王寺国際仏教大学	３割６分４厘
８　位	喜　亜紀子	大阪体育大学	３割５分７厘
９　位	久下　愛美	兵庫教育大学	３割４厘
１０　位	兼城　美咲	大阪体育大学	２割８分６厘

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
最優秀投手	三好　千春	兵庫教育大学	0．47
2　位	近藤　恵子	大阪体育大学	1．7
3　位	高嶋　彩世	天理大学	4．25

ベストプレー賞

大　学	氏　名	守備位置
大阪体育大学	近藤　恵子	投　手
兵庫教育大学	松尾　江里	遊撃手
天理大学	高嶋　彩世	投　手
四天王寺国際仏教大学	奥山　亮子	内野手

盗塁賞

森川　知子　　四天王寺国際仏教大学　7本

ホームラン賞

向井　理栄　　四天王寺国際仏教大学　1本

優秀選手賞

大　学	氏　名
大阪体育大学	船田　あずさ
大阪体育大学	喜　亜紀子
兵庫教育大学	三好　千春
兵庫教育大学	小坂　明日香
兵庫教育大学	山本　佳世
四天王寺国際仏教大学	森川　知子
四天王寺国際仏教大学	若狭　志奈

※打率が3割3分3厘以上の選手

3部対戦成績表

3　部	大府立	神　戸	佛　教	京　女	勝	敗	分	順
大阪府立		○ 9－2	○ 13－0	○ 13－12	3	0	0	1
神　戸	● 2－9		○ 11－8	● 9－10	1	2	0	3
佛　教	● 0－13	● 8－11		○ 13－7	1	2	0	2
京都女子	● 12－13	○ 10－9	● 7－13		1	2	0	4

※　2・3・4位は当該チームの総得失点差により順位を決定しました。

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏　名	大　学	打　率
首位打者	北原　久実	京都女子大学	5割8分3厘
2　位	柳谷　真理	大阪府立大学	5割5分6厘
3　位	武富　麻衣	大阪府立大学	5割
4　位	栗間　愛	神戸大学	3割8分1厘
5　位	高倉　このみ	大阪府立大学	3割7分9厘
6　位	佐藤　亜季子	京都女子大学	3割7分5厘
7　位	伊藤　祐子	神戸大学	3割5分3厘
8　位	平野　さやか	大阪府立大学	3割4分8厘
8　位	青木　麻衣	佛教大学	3割4分8厘
8　位	北川　由紀	京都女子大学	3割4分8厘

投手成績

順位	氏　名	大　学	防御率
最優秀投手	柳谷　真理	大阪府立大学	1．75
2　位	川嶋　めぐみ	佛教大学	5．76
3　位	藤崎　順子	神戸大学	5．97

ベストプレー賞

大　学	氏　名	守備位置
大阪府立大学	平野　さやか	捕　手
佛教大学	山城　仁美	投　手
神戸大学	藤崎　順子	投　手
京都女子大学	鈴木　佳代	遊撃手

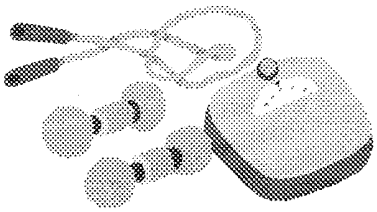
盗塁賞

高倉　このみ　　大阪府立大学　　12本

優秀選手賞

大　学	氏　名
大阪府立大学	柳谷　真理
大阪府立大学	武富　麻衣

※打率が4割以上の選手



リーグ戦総評

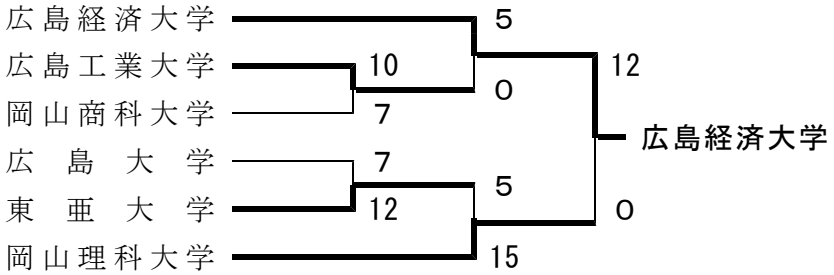
予選リーグでは波乱もなく、順調に部別リーグに入った。1部リーグの戦前の予想は、インカレ3位の園田学園女子大学、大谷女子大学、西日本インカレ優勝の神戸親和女子大学、春季リーグ優勝の関西外国語大学の4チームが有利に試合を進めていくものと思われた。しかし、優勝したのは投打の歯車がかみ合い、接戦をものにした大阪国際女子大学であった。春季リーグこそ6位であったが、西日本インカレ3位と着実に実力をつけ秋季リーグの優勝に結びつけた。2位には実力通り園田学園女子大学、3位は神戸親和女子大学であった。順に、立命館大学、龍谷大学、関西外国語大学、武庫川女子大学、大谷女子大学であった。今秋のリーグ戦の試合内容から、1部リーグでは下位のチームにおいても投打がかみ合えば十分に上位へ進出できる実力があるものと判断できる。この力の均衡した1部リーグ戦はここ2～3年続いており、関西の代表チームが全日本インカレ、西日本インカレで好成績を残す結果につながっているものと思われる。2部リーグは、予想通り安定した力を発揮した大阪体育大学が優勝した。2位には、天理大学を倒し春季リーグ戦の雪辱を果たした兵庫教育大学、順に天理大学、四天王寺国際仏教大学であった。3部リーグは、投手力・攻撃力とも安定した力を発揮した大阪府立大学が優勝した。2・3・4位は、当該チームの総得失点差で、神戸大学、佛教大学、京都女子大学の順であった。3部の試合も年々レベルが高くなっており、今以上の努力を各チームに期待したい。（文責：大阪国際女子大学　久保田豊司）

【中国地区】

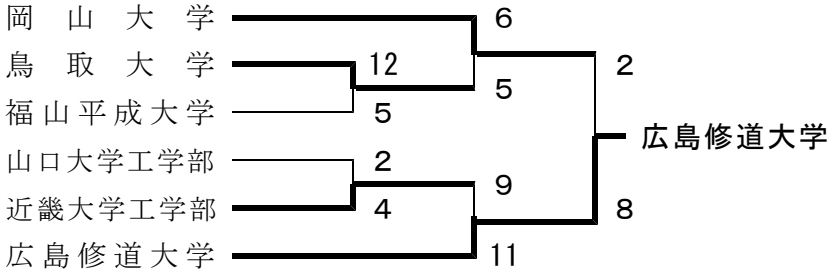
第36回全日本大学ソフトボール選手権大会
第33回西日本大学ソフトボール選手権大会
中　国　地　区　予　選　会

主催：中国地区大学ソフトボール連盟、中国ソフトボール協会
主管：広島県ソフトボール協会、広島市ソフトボール協会
　　中国地区大学ソフトボール連盟
会期：平成13年６月９・10日
会場：広島修道大学

男子Ａゾーンの結果



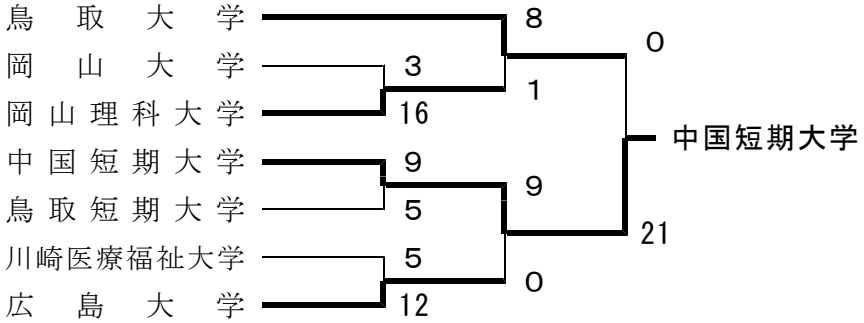
男子Ｂゾーンの結果



インカレ・西日本出場権獲得チーム

全日本大学選手権大会：広島経済大学・広島修道大学
西日本大学選手権大会：広島経済大学・広島修道大学
　　広島工業大学・東亜大学
　　岡山理科大学・岡山大学
　　鳥取大学

女子



３位決定戦

岡山理科大学 ―┐ 9
広　島　大　学 ―┘ 23 広島大学

インカレ・西日本出場権獲得チーム

全日本大学選手権大会：中国短期大学

西日本大学選手権大会：中国短期大学・鳥取大学・広島大学

総評

広島修道大学を会場に、平成13年度の中国地区予選会を６月９日・10日の２日日程で、広島市ソフトボール協会のご協力のもとに開催した。

今年度は広島大学女子ソフトボール部が新規加入し、男女ともに昨年と同数の参加チームにより、全日本大学ソフトボール選手権大会の出場権を賭け、連日熱戦が展開された。結果は上記のとおりであるが、インカレ切符を手にした広島修道大学は、一昨年・昨年と連続してインカレ出場を果たしている近畿大学に競り勝ち、第30回以来の出場権を獲得した。

また、第33回西日本大学ソフトボール選手権大会への出場権を獲得したチームには、新顔の鳥取大学女子部の健闘があったが、半数以上が昨年度と入れ替わり、各チームとも一年間の努力が報われる形となった。（鳥取短大　逢坂秀樹）

第１回中国地区大学ソフトボール選手権大会結果

主催：中国地区大学ソフトボール連盟

主管：広島市ソフトボール協会・

会期：平成13年11月10日（土）・11日（日）

会場：広島修道大学グラウンド

大会の開催経緯と講評

中国地区大学連盟では、連盟発足来、全日本大学選手権大会並びに西日本大学選手権大会の地区予選を開催するだけであったが、この度多くの大学の要望に応え、第１回中国地区大学選手権大会を広島市ソフトボール協会のご協力の元開催する運びとなった。計画当初は、運営費、会場、そして出場チーム数など多くの問題を抱えていたが、広島市ソフトボール協会、広島修道大学の協力が得られたことにより、問題の多くがクリアでき、全日本大学選手権大会中国地区予選並の規模で大会を開催することが出来た。

大会では、試合の無いチーム同士で練習試合をしたり、大会後の練習試合を申し入れたり、他大学の球友と話し合うなど、全日本大学選手権大会中国地区予選ではあまり見ることができなかった光景が多々見られ、大学そして選手間の交流、親睦が幾分かでも計れたようで嬉しく思った。また春と秋に大会を開催することによって活動の継続化が計れ、技術レベルの向上にも繋がるのではないかと期待をもてた大会であった。

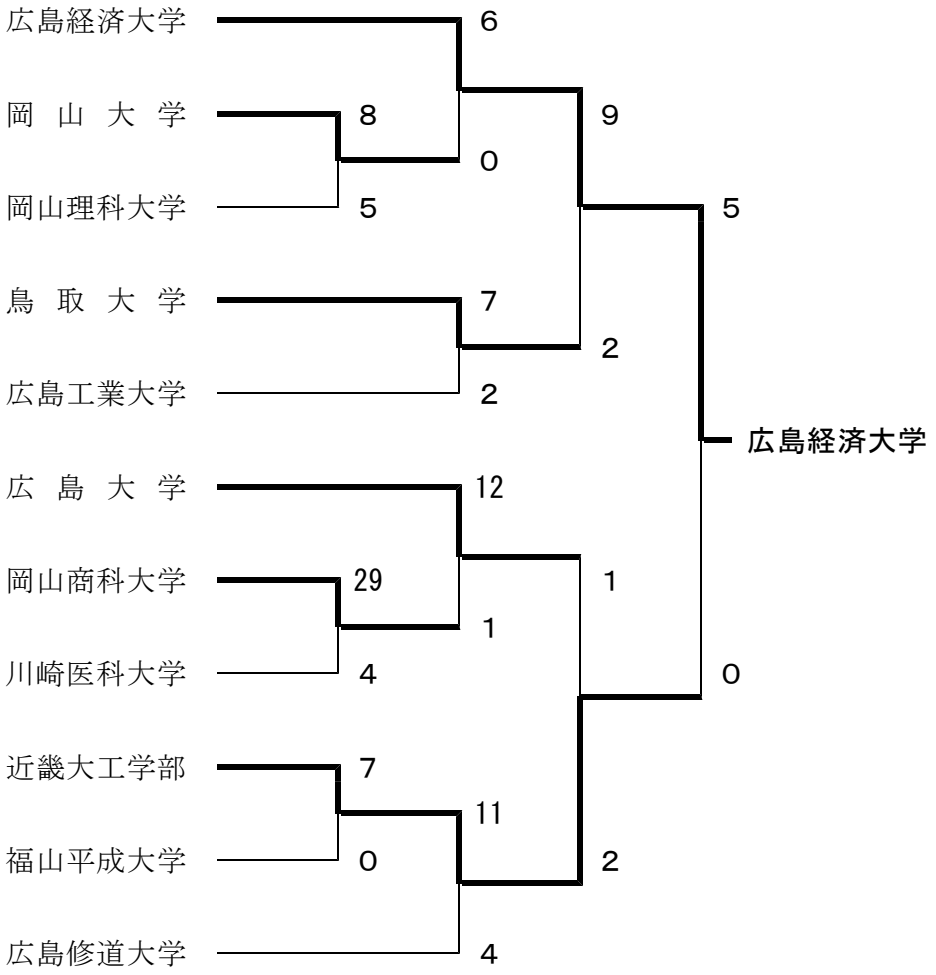
また今回は、第１回大会ということもあり、来年度正式加盟を表示している川崎医科大学と昨年度学内事情により大会一日目で棄権された新見公立短期大学にも出場を呼びか

け、大会を盛り上げて頂いた。

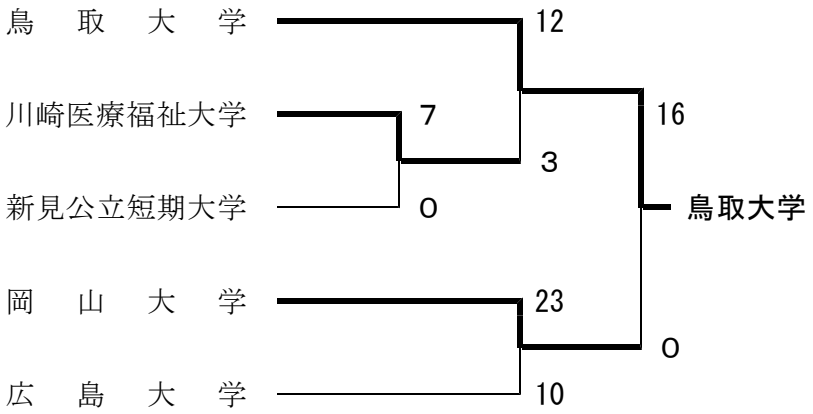
男子は11チームが出場し、一回戦から好ゲームが展開されたが、点差ほどの力の開きは感じられなかった。その中で最も投攻守に安定性を持つ広島経済大学が、全試合危なげない試合運びで勝利を収めた。

また女子は５チームが出場し、鳥取大学が全試合コールド勝ちを収め初代チャンピオンとなったが、何れのチームも愛好者による自主運営型のチームで、経験者を多く抱えているチームが順当に勝利した結果と思われる。（鳥取短期大学　逢坂秀樹）

＜男　子＞



＜女　子＞



【四国地区】

平成13年度四国地区大学男子ソフトボール春季大会

会期：平成13年５月５・６日

会場：香川県丸亀市土器川グラウンド

予選リーグ

A Group	高　知	四学院	四　国	勝	分	負	順位
高 知 大		● ２－７	○ ７－０	1	0	1	２位
四国学院	○ ７－２		○ ７－０	2	0	0	１位
四 国 大	● ０－７	● ０－７		0	0	2	３位

B Group	香　川	愛　媛	徳　島	勝	分	負	順位
香 川 大		○ ８－１	○ ７－０	2	0	0	１位
愛 媛 大	● １－８		● １－９	0	0	2	３位
徳 島 大	● ０－７	○ ９－１		1	0	1	２位

C Group	松　山	高　松	高知工	勝	分	負	順位
松 山 大		○ ７－０	○ ７－３	2	0	0	１位
高 松 大	● ０－７		○ 11－10	1	0	1	２位
高知工科	● ３－７	● 10－11		0	0	2	３位

【順位決定リーグ】

１～３位	四学院	香　川	松　山	勝	分	負	順位
四国学院		● ０－６	● ０－５	0	0	2	３位
香 川 大	○ ６－０		● １－４	1	0	1	２位
松 山 大	○ ５－０	○ ４－１		2	0	0	優勝

４～６位	高　知	徳　島	高　松	勝	分	負	順位
高 知 大		○ ６－４	○ ６－３	2	0	0	４位
徳 島 大	● ４－６		○ ７－０	1	0	1	５位
高 松 大	● ３－６	● ０－７		0	0	2	６位

７～９位	四　国	愛　媛	高知工	勝	分	負	順位
四 国 大		● ３－５	● ０－８	0	0	2	９位
愛 媛 大	○ ５－３		● ８－12	1	0	1	８位
高知工科	○ ８－０	○ 12－８		2	0	0	７位

講評：今年度最初の大会ということもあり、また２週間後に控える全日本および西日本大会

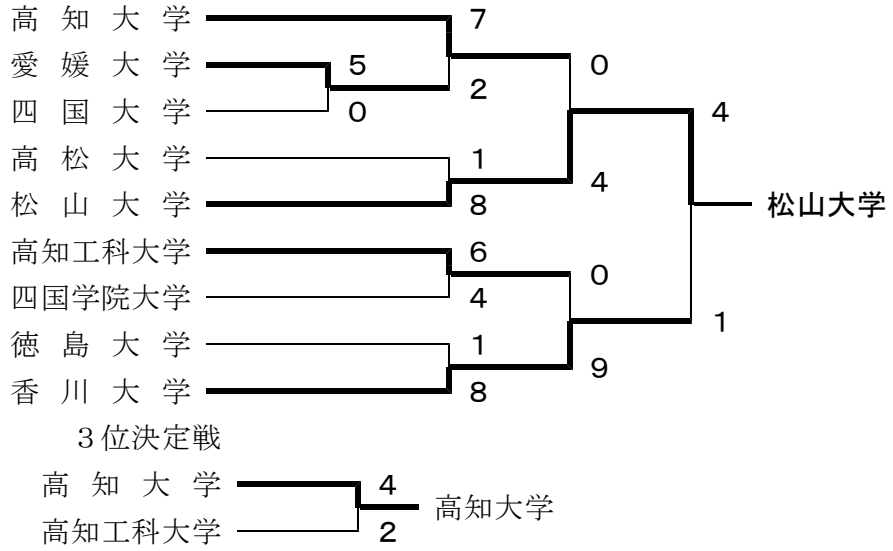
の予選会の前哨戦として熱戦の数々が繰り広げられた。特記事項としては、松山大の投手を軸とするディフェンス力・香川大の機動力が全国を視野に入れた強化が少しずつ垣間見られるように思う。四国学院大は選手個々の能力は高く、ダークホース的な存在として面白いと印象的であった。

第36回全日本大学ソフトボール選手権大会四国予選兼
第33回西日本大学ソフトボール選手権会四国予選

会期：平成13年５月19・20日

会場：徳島県徳島市吉野川運動公園吉野川北岸ソフトボール場

男子結果：



女子結果

チーム	愛媛短	香　川	四　国	勝	分	負	順位
愛媛女短		○ 15－０	○ 25－０	２	０	０	優勝
香 川 大	● ０－15		○ ８－０	１	０	１	２位
四 国 大	● ０－８	● ０－25		０	０	２	３位

講評：５月19・20日の好天の下、徳島県において全日本および西日本大会の予選会を開催した。男子は２週間前の前哨戦もあってか１回戦から好ゲームが展開された。１回戦の大番狂わせは春季大会３位の四国学院大学が７位の高知工科大学に敗れてしまい、本大会の戦国時代の様相が醸し出された。結果は、投手およびディフェンス力で圧倒的な力を誇る松山大学が優勝した。特記事項としては、１回戦を突破してベスト４まで進んだ高知工科大学の健闘があげられる。

女子は愛媛女子短期大学の独壇場であった。全国を見据えた戦いが垣間見られ、今夏のイ

ンカレが楽しみなチームであった。

平成13年度四国地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成13年10月20日（土）・21日（日）

会場：香川県丸亀市丸亀土器川河川敷グラウンド

男子グループ予選結果

A Group	松　山	高　松	高　知	勝	分	負	順位
松山大学		○ 10－3	○ 5－1	2	0	0	1位
高松大学	● 3－10		● 9－10	0	0	2	3位
高知大学	● 1－5	○ 10－9		1	0	1	2位

B Group	香　川	愛　媛	徳　島	勝	分	負	順位
香川大学		○ 14－0	○ 14－2	2	0	0	1位
愛媛大学	● 0－14		● 5－7	0	0	2	3位
徳島大学	● 2－14	○ 7－5		1	0	1	2位

C Group	高　工	四　学	四　国	勝	分	負	順位
高知工科		● 1－4	○ 7－0	1	0	1	2位
四国学院	○ 4－1		○ 12－9	2	0	0	1位
四国大学	● 0－7	● 9－12		0	0	2	3位

男子順位決定戦結果

1～3位	松　山	香　川	四　学	勝	分	負	順位
松山大学		○ 4－3	○ 4－0	2	0	0	優勝
香川大学	● 3－4		○ 3－1	1	0	1	2位
四国学院	● 0－4	● 1－3		0	0	2	3位

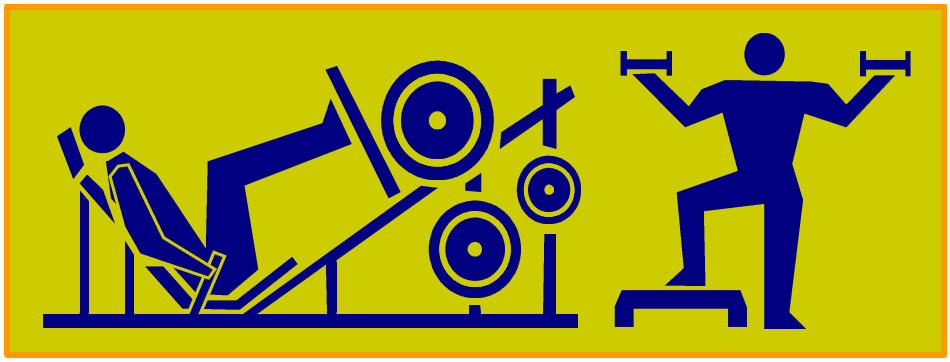
4～6位	高　知	徳　島	高　工	勝	分	負	順位
高知大学		降　雨 NoGame	● 3－4	0	0	1	5位
徳島大学	降　雨 NoGame		● 2－7	0	0	1	5位
高知工科	○ 4－3	○ 7－2		2	0	0	4位

7～9位	高　松	愛　媛	四　国	勝	分	負	順位
高松大学		● 4－8	● 2－5	0	0	2	9位
愛媛大学	○ 8－4		● 3－7	1	0	1	8位
四国大学	○ 5－2	○ 7－3		2	0	0	7位

女子リーグ戦

決勝	愛　短	香　川	四　国	勝	分	負	順位
愛媛女短		○ 11－0	○ 7－0	2	0	0	優勝
香川大学	● 0－11		○ 7－0	1	0	1	2位
四国大学	● 0－7	● 0－7		0	0	2	3位

講評：今シーズン最後の公式戦ということもあり、好ゲームが展開された。四国地区の男子のレベルは全国的にも未だ力量不足の感は否めないが、今夏インカレに出場した松山大学と香川大学の戦いは全国での教訓を生かしているように思えた。四国地区の男子も高知工科大学・四国学院大学の台頭により戦国時代の様相が垣間見られた。女子は愛媛女子短期大学の独壇場であるが、全国での活躍を願う一方、もう一度シビアに全国上位進出を目指した更なる強化に務めて欲しい。四国地区の女子の普及にも早急に対処しなければならない。

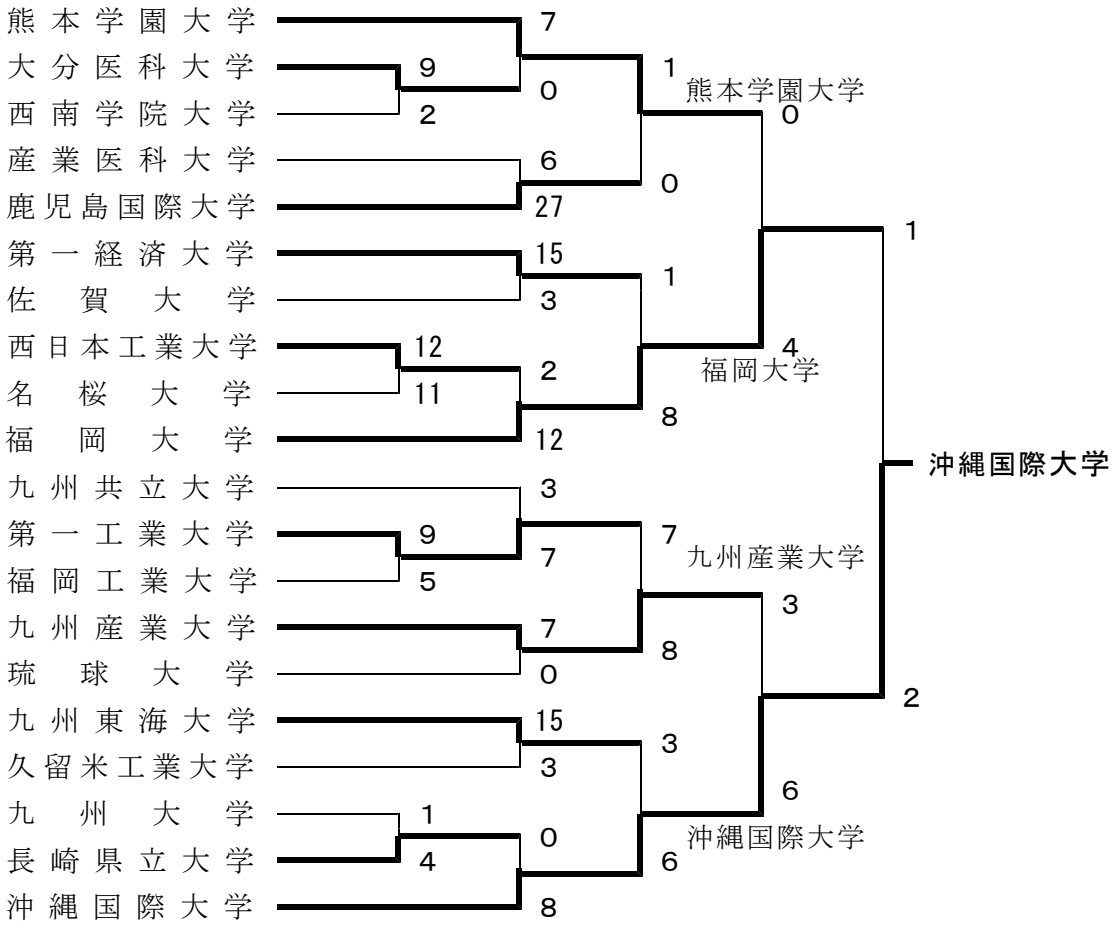


【九州地区】

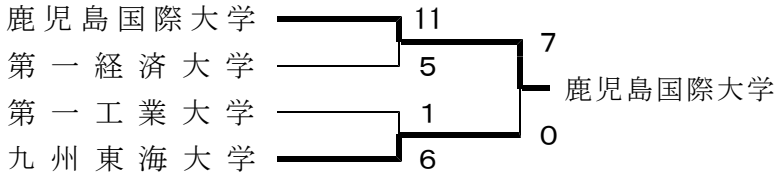
第21回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール大会
（兼第35回全日本大学(男子・女子)ソフトボール選手権大会予選）

主催：(財)九州ソフトボール協会・九州地区大学ソフトボール連盟
主管：熊本ソフトボール協会・熊本市ソフトボール協会
後援：熊本県教育委員会・熊本県体育協会・熊本市教育委員会・菊陽長教育委員会・
熊本市体育協会・菊陽町体育協会・熊本日日新聞社・熊本放送
会期：平成13年５月25・27日
会場：県民総合運動公園・菊陽町民総合運動場・坪井緑地公園

男子試合結果



インカレ第５代表決定戦



女子予選リーグ

大学名	九　女	名　桜	九　産	勝	分	負	順位
九州女子		○ ７－０	○ 18－１	２	０	０	１位
名　　桜	● ０－７		○ ８－４	１	０	１	２位
九州産業	● １－18	● ４－８		０	０	２	３位

女子決勝リーグ

大学名	福　岡	沖　国	九　女	勝	分	負	順位
福　　岡		○ ４－３	○ ４－０	２	０	０	優勝
沖縄国際	● ３－４		○ ６－４	１	０	１	２位
九州女子	● ０－４	● ４－６		０	０	２	３位

講評

第21回九州地区大学男子・女子ソフトボール大会は、熊本市を中心に５月25日～27日までに行われ、晴天のなか熱戦が繰り広げられた。まず男子では、勝ち上がるとともに調子を上げてきた沖縄国際大学と福岡大学が決勝戦に進んだ。決勝戦では、１対１のまま延長戦に突入し、９回裏それまで好投を続けてきた福岡大学の川口投手から沖縄国際大学の主将上間が決勝ホームランを打ち、３対１で沖縄国際大学が優勝した。全日本大学選手権への出場権は、この２チームの他に九州産業大学、熊本学園大学、鹿児島国際大学の５校が獲得した。

女子では、予選リーグ、決勝リーグというリーグ戦方式で熱戦が展開された。決勝リーグ第１試合では、逆転に次ぐ逆転で最後は福岡大学が沖縄国際大学を４対３で振り切り、その勢いで九州女子大学にも完封勝ちして優勝した。第２位には、九州女子大学の追撃をかわした沖縄国際大学が入った。この結果、福岡大学と沖縄国際大学が全日本大学選手権大会への出場権を獲得した。

全体として、大学生らしい白熱した試合が随所に見られ、大会も盛り上がった。加盟大学各チームの今後のさらなる向上を期待したい。（九州地区大学ソフトボール連盟理事長　中野 元）

第１回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

主催：(財)九州ソフトボール協会・九州地区大学ソフトボール連盟
主管：鹿児島県ソフトボール協会・南薩支部ソフトボール協会
後援：鹿児島県教育委員会・鹿児島県体育協会・知覧町・知覧町教育委員会

知覧町体育協会・南日本新聞社

会期：平成年10月19日（金）～10月21日（日）

会場：知覧町平和公園多目的球場・他

男子予選リーグ結果

A　会　場	福　　岡	福岡工業	日本文理	勝	敗	点	位
福　岡　大　学		○ 6－0	○ 11－0	2	0	0	1
福岡工業大学	● 0－6		○ 6－4	1	1	10	2
日本文理大学	● 0－11	● 4－6		2	2	17	3

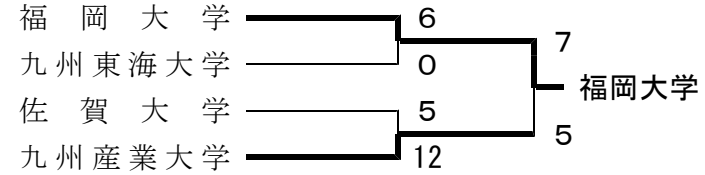
C　会　場	鹿　　国	九州東海	九　　州	長崎県立	勝	敗	失	順
鹿児島国際大学		● 2－4	※	○ 3－0	1	1	4	2
九州東海大学	○ 4－2		○ 10－2	※	2	0	4	1
九　州　大　学	※	● 2－10		● 8－10	0	2	20	4
長崎県立大学	● 0－3	※	○ 10－8		1	1	11	3

D　会　場	熊本学園	第一経済	佐　　賀	西日本工業	勝	敗	失	順
熊本学園大学		○ 4－1	※	○ 11－4	2	0	5	2
第一経済大学	● 1－4		● 2－4	※	0	2	8	3
佐　賀　大　学	※	○ 4－2		○ 9－2	2	0	4	1
西日本工業大学	● 4－11	※	● 2－9		0	2	20	4

E　会　場	福　　岡	福岡工業	日本文理	勝	敗	失	順
九州産業大学		○ 8－0	○ 12－3	2	0	3	1
第一工業大学	● 0－8		○ 2－1	1	1	9	2
九州共立大学	● 3－12	● 1－2		0	2	14	3

※C・D会場においては、リンク戦。勝敗成績同一の場合は失点の少ないチームを優先

男子決勝トーナメント結果



女子結果

第一試合　福岡大学　７－１　九州産業大学

第二試合　福岡大学　12－１　九州産業大学

順位　優勝：福岡大学

２位：九州産業大学

調査・研究委員会から　第５号について

森　田　啓　之（兵庫教育大学）

まず、機関誌「ウインドミル第５号」にご投稿いただいた諸先生方、多忙な中をご執筆いただき有り難うございます。指導者や役員の方だけでなく、学生プレイヤーの皆さんにも是非読んでほしい内容ばかりです。

なかでも、学連の大先輩であり、競技者としてはもちろんのこと、現在は指導者としても第一線で活躍されている三宅さんの文章には、胸にぐっとくるものがありました。私は大学から競技としてのソフトボールに関わり、３年生の時に仲間と大阪に出かけて、全日本総合選手権というものを初めて見ました。そこでの三宅さんの迫力満点のピッチングは今も記憶に強く残っています。そのイメージがあって、今回の文章を読ませていただくと、あの気迫溢れるボールやプレイスタイルはまさに三宅さんの熱い思いそのものなのだと強く感じました。また、「ソフトボールを理解してもらおうとすれば、プレイ中はもちろんのことグランド以外での振る舞いこそ尊敬を受けるものに！」という部分に、私は全く共感します。「強ければよし」ではなく、「強いからこそ、より一層フェアでなければならない」のです。この点はプレイヤー全体に関わることですが、特に最高学府の「教育機関」である大学でソフトボールをすることの意味は、三宅さんがおっしゃるような「自律したプレイヤー」に自分がどれくらい近づけたかという点にこそあると思います（指導者や役員の側でしたら、そのようなプレイヤーに育てることができたのかということです）。ただ、残念ながら昨今の大学ソフトボールの現状は、決して手放しで喜べないことも事実です（昨年のウインドミルへの寄稿にもありましたが）。その意味では、「大学ソフトボールプレイヤーの『質』（技術はもちろんですが、社会的な行動の点を）をどのように高めていくか」が、これからの学連の課題になってくるのではないでしょうか。ただ、これは指導者や役員がいくら頑張っても限界があります。一方で、学生は学生なりに考えもあるでしょう。したがって、三宅さんの言葉を借りれば、学生プレイヤーとわれわれ指導者や役員が、「ソフトボールを“つくる”」という意識で一緒に取り組んでいく必要があると思います。この点について、これから少しずつでもいい方向に向かうべく踏み出していければと考えていますので、是非ともご意見やご提言、方策などを多くの方からいただけますようお願い申し上げます。

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も内容をいっそう充実、発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡を下さいますようお願いします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付ておりますので、下記までご連絡を下さい。（研究調査委員会　小川幸三・森田啓之）

森　田　啓　之

〒673-1494　兵庫県加東郡社町下久米９４２－１　兵庫教育大学

ＴＥＬ＆ＦＡＸ：（０７９５）４４－２２２７　　E-mail:hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

投　稿　規　程

平成11年７月30日交付

１．投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

２．投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含．抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌４ページ以内（巻頭言、提言の場合は１ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

３．投稿原稿の審査

原則として投稿されたものは全て受理・採択する。なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

４．原稿の提出

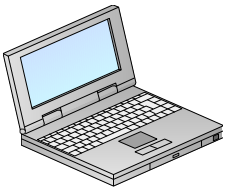
原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月20日で区切るものとする。

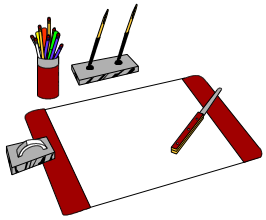
執　筆　要　項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、ワードプロセッサで原稿を作成する場合は、Ａ４版縦置き横書き、全角40字×20行（上下余白25mm、左右余白20mm以上）を基本とする。できれば使用機種、ソフト名を記して、フロッピィ・ディスクとともに提出することが望ましい。

手書きの場合は、Ａ４版横書き４００字詰め原稿用紙に清書し提出する。





広報・記録委員会から

全日本大学ソフトボール連盟表彰と訃報

全日本大学ソフトボール連盟の役員として永年にわたり連盟の運営にご尽力を賜り、ここに功労賞を受賞された方々をご紹介申し上げます。（順不同・敬称略・所属大学並びに役職は受賞時のもの）

原口和之（故人，九州女子大学・九州地区常任理事）
吉武敦麿（芝浦工業大学・関東地区評議員）
鈴木昭寿（東海大学・関東地区評議員）

また、連盟では優秀な成績を挙げた加盟チーム、選手に対して「優秀表彰」も行っています。13年度の優秀表彰は次の方々です。ますますのご活躍を祈念申し上げます。

増淵まり子（東京女子体育大学）
受賞理由：シドニーオリンピック日本代表として活躍し、銀メダルを獲得

東京女子体育大学
受賞理由：全日本大学女子ソフトボール選手権大会３連覇（平成10～12年度）

［　訃　　報　］

本連盟の活動に永きにわたってご尽力くださいました原口和之先生（九州女子大学）が平成12年４月14日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

合掌。

原口先生、ありがとうございました。

穐吉里佳（平成11年度九州女子短期大学卒業）

私は、1998年に九州女子短期大学に入学し、ソフトボール部に入部して原口監督に出会うことができました。原口監督の第一印象は、「優しそうな人」でしたが、実際は、ソフトボールに関してはもちろんのこと生活面などでもとても厳しく、また、部員に厳しい分、自分にもとても厳しく、真面目で、部員はいつもたくさんの指導を受けていました。しかし、それも私達の為を思っていてくれているからこその厳しさだと思うと、これが原口監督の優しさなのだと思えました。私は、主将だったということもあり、特に監督と接することが多く、遠征や合宿は監督の側に着き、監督と共に居ることが多く、学校では講義の間の休み時間に呼び出されることも多々ありましが、その中でソフトボールだけではなく、人と接することの大切さや社会での礼儀など、主将で監督の側に居なければ教わることの出来なかったことを多く学ぶことができました。

監督の思い出で一番心に残っていることは、試合前の挨拶で、ベンチ前に整列したときに、審判の「集合」の言葉とともに私の背中に必ず監督の大きな手がバシッととんできていたことです。背中にはジーンと痛みが広がりましたが、「がんばれ」「お前達ならやれる」「精一杯やってこい」「試合を楽しんで来い」その背中には、いつも、言葉にはしない監督からの色々なメッセージが込められていることが強く伝わってきました。同時に、緊張して堅くなっていた体から少し力が抜け、リラックスすることができ、思い切り試合に望むことができました。中京女子大学に編入した後も、ソフトボールのときだけではなく、いろいろな場面であの背中の痛みが思い出され、私の背中を押してくれ、力をくれているような気がします。

突然、原口監督が倒れたと聞いたのは卒業も間近な春休みでした。一時は回復に向かいましたが、面会は出来ず、そんな中で卒業式を迎えました。監督にきちんとお礼を言うことが出来ないまま卒業し、編入してから直後、監督が亡くなったという連絡が入ったときは言葉には出来ない思いが込み上げてきました。監督への感謝の気持ちは、今でも変わりません。

今回この1ページをかりてもう一度、原口和之監督に、心からお礼と感謝の気持ちを伝えたいと思います。とても厳しく、優しさは表にださない監督でしたが、私は、こんな原口監督を指導者として、また、1人の人間として尊敬しています。このようなすばらしい指導者を亡くし、とても残念に思います。たった2年間でしたが、私にとってはとても大きな2年間になりました。

原口和之監督、これまで多くのご指導を本当にありがとうございました。いつまでもお見守りください。

第１回全日本大学ソフトボール東海オープンの開催について

東海地区大学ソフトボール連盟
理事長　水　谷　　博（中京女子大学）

大会新設の経緯と趣旨

全日本大学ソフトボール連盟（以下「学連」）では、これまで大学選手権大会（インカレ）、東西対抗並びに全日本短期大学大会を開催してきましたが、諸般の事情で東西対抗は今年から廃止され、短大大会も参加チームの減少により来年からの開催が危ぶまれております。そこで、東西対抗に代わり、学連の指定する９地区（北海道・東北、関東、東京、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州）内の大学間並びに地域間との交流を促進するとともに、大学ソフトボールの競技力強化を図るための大会新設が企画されました。しかし、各地域の事情や日本ソフトボール協会のご理解を得るには時間がかかり、一挙にそのような大会の開催はできません。

一方、昨年の男子世界選手権大会準優勝の投手はすべて学連ＯＢでありました。シドニーオリンピックの女子チームにも学連現役選手とＯＧが含まれておりました。企業チームの廃部が相次ぐ折り、学連所属選手の競技力向上には、これまでになく各方面から大きな期待がかけられております。

今時の学連の責務は、トップ選手の競技力向上を図るとともに、将来地域や学校でソフトボールの指導にあたり、底辺を拡大する指導者の養成を図ることと考えられております。そこで、学連は、地域内のリーグ戦とは別に、できるところからから地域を越えたオープン大会の開催を呼びかけました。東海地区大学ソフトボール連盟としてもその趣旨に賛同し、種々検討いたしました。幸い、立派なソフトボール専用球場があり、所属チーム数も多い東海地区が開催地の名乗りを上げ、愛知県ソフトボール協会のご支援を得て、全国規模の新設大会の開催を計画した次第でございます。

この大会は、各地域のトップレベルの選手がその技量を競うとともに、研修大会的な要素を付加することによって研鑽に励み、仲間と交流する場にしたいと考えております。すでに、近畿地区はもとより、九州地区や北信越地区からも参加の旨が伝えられております。将来的には、高校と同様な「全日本大学ソフトボール選抜選手権大会」か、サッカーなどのような「全日本大学ソフトボール地区対抗選手権大会」へ育てていきたい所存でございます。

つきましては、この趣旨をご理解いただき、是非ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

出場の申込は、次ページの大会要項（案）をご覧のうえ、お願いいたします。現在、冠がついていませんので、大会要項に（案）が付いています。全国規模の数社と折衝中です。協賛もいただく予定にしています。日程と会場に変更はありません。

なお、参加申込は学連ＨＰ　http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/　上のみから承っております。また、出場までの手順等は次のようになっていますので、ご留意ください。

１．１月15日（火）までにE-mailで参加申込を行う。

２．１月16日（水）までに参加申込の受理を受信する。受理のmailがない時は問い合わせる。
３．１月21日（月）頃に送信される参加申込書に必要事項を記入して直ちに返信する。
４．参加が認められなかったチームにも１月21日（月）頃までには連絡します。
５．参加が認められたチームは、１月31日（木）までに参加料を振り込む。
６．２月末日頃までに、組合せ抽選の結果を連絡します。

○○○○○○杯
第１回全日本大学ソフトボール東海オープン大会要項（案）

１．主　　催　　東海地区大学ソフトボール連盟
２．主　　管　　愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・安城市ソフトボール協会
３．後　　援　　全日本大学ソフトボール連盟
　　安城市・安城市教育委員会・安城市体育協会・中日新聞社
４．協　　賛　　○○○・○○○・○○○
４．大会期間　　平成14年３月27日（水）・28日（木）、予備日３月29日（金）
５．大会会場　　安城市総合運動公園（６球場）
６．チーム数　　男子９～12、女子９～12、計18～24チーム
７．参加資格　　全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。(招待チームを除く。)
　　なお、参加申し込み多数の場合は、主催者が各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に選抜する。
８．出場資格　　主催者によって、出場を認められたチームのあらかじめ選手登録をした30名以内の選手に限る。そうのち、ベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長１名、監督１名、コーチ２名、トレーナー１名、記録員の資格を有するスコアラー１名の計31名以内とする。
　　なお、新１年生の出場については、出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
９．参 加 料　　１チーム20,000円
10．申込方法　　E-mailアドレスmztn@chujo-u.ac.jpへ１月15日（火）までに申込書を請求し、これを返信すること。また、出場が認められた後、参加料を次の振込口座へ１月末までに日振り込むこと。
　　【振込口座】
　　東海銀行大府支店（店番３４４）　普通口座番号：１５２９５４７
　　名義：東海地区大学ソフトボール連盟理事長水谷博
11．競技方法　　参加チーム３～４チームずつに分けて予選リーグ戦もしくは予選トーナ

メント戦を１日で実施し、翌日１位グループ・２位グループ・３位グループ・４位グループによる順位決定リーグ戦もしくは順位決定トーナメント戦を行う。（各チームとも１日２試合、計４試合を実施する。）

13. 競技規則　①2002年オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。（ルールの変更が予定されているので注意すること。）
②７回終了時に同点の場合は、８回以降タイブレーカールールを採用する。ただし、トーナメント戦を除き２時間を越えて新しいイニングに入らない。
③全試合を通じ、５回以降10点差をもってコールドゲームとする。
④ベンチは、チーム番号の小さい方を１塁側とする。

14. 使用球　ミズノ公認革製球とし、試合毎に各チームは２個提出する。

15. 審判員　(財)日本ソフトボール協会公認審判員

16. 記録員　東海地区大学ソフトボール連盟記録員

17. 表彰　優勝チームに対し賞状と○○○○○○杯を、準優勝・第３位のチームに対し賞状と盾を授与する。○○○○○○杯は持ち回りとする。
最優秀選手賞と敢闘選手賞として男女各１名に賞状と盾を授与する。

18. 組合抽選　２月20日(水)午後７時から安城市体育館において公開代理抽選を行う。

19. 開会式　３月27日(水)午前８時30分から安城市総合運動公園ソフトボール場Ａ球場において、監督主将会議を行い、その後行う。

20. 閉会式　全試合終了後、安城市総合運動公園ソフトボール場Ａ球場において行う。

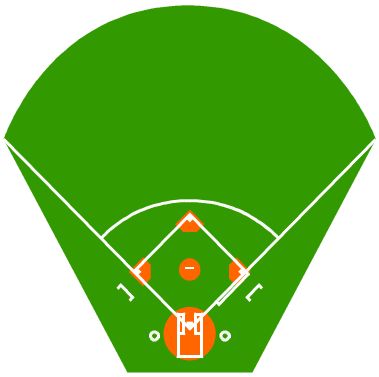
21. 費用　参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。

22. 傷害　主催者・主管者は大会期間中における傷害及び疾病について一切の責任を負わない。保険証を持参すること。各自保険に加入すること。

23. 宿泊弁当　主催者は斡旋しないが、宿泊については関係機関を紹介する。

24. 備考
・出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を負うこと。
・３月27日（水）午後７時からソフトボールクリニックを実施する。
講師：中須賀弘正（日本協会技術委員）、長澤宏行（東海学園大学）

25. 問合せ先　中京女子大学　水谷博　ＴＥＬ（０５６２）４６－１２９２－５４１
ＦＡＸ（０５６２）４４－０３１０　渉外課
E-mail　mztn@chujo-u.ac.jp(なるべくこれで)



平成13年度

全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職　名	氏　　名	（上）自宅住所　（下）勤務先	TEL	FAX
会　　長	大内　敬哉	〔自〕 〔勤〕　中京大学		
副 会 長	一谷　宣宏	〔自〕 〔勤〕　学校法人園田学園理事長・園田学園女子大学学長		
副 会 長	斎藤　滋雄	〔自〕 〔勤〕　学習院大学		
顧　　問	坂井　正郎	〔自〕 〔勤〕		
顧　　問	角田真一郎	〔自〕 〔勤〕		
顧　　問	水野　信義	〔自〕 〔勤〕		
理 事 長	末井　健作	〔自〕 〔勤〕　姫路工業大学		
副理事長 常任理事	小川　幸三	〔自〕 〔勤〕　日本体育大学		
副理事長 常任理事	水谷　　博	〔自〕 〔勤〕　中京女子大学		
常任理事	大和田　寛	〔自〕 〔勤〕　仙台大学		
常任理事	高橋　伸次	〔自〕 〔勤〕　高崎経済大学		
常任理事	黒田　重靖	〔自〕 〔勤〕　富山大学		
常任理事 事務局長	森田　啓之	〔自〕 〔勤〕　兵庫教育大学		
常任理事	久保田豊司	〔自〕 〔勤〕　大阪国際女子大学		
常任理事	逢坂　秀樹	〔自〕 〔勤〕　鳥取短期大学		
常任理事	山本　孔一	〔自〕 〔勤〕　愛媛女子短期大学		
常任理事	中野　　元	〔自〕 〔勤〕　熊本学園大学		
理　　事	小嶋　高良	〔自〕 〔勤〕　八戸工業大学		
理　　事	飯島　隆	〔自〕 〔勤〕　盛岡大学		

職　名	氏　　名	（上）自宅住所　（下）勤務先	TEL	FAX
理　　事	松永　尚久	〔自〕 〔勤〕　東海大学		
理　　事	武藤　幸政	〔自〕 〔勤〕　城西大学		
理　　事	岡田　万嗣	〔自〕 〔勤〕　山梨学院大学		
理　　事	野口　周一	〔自〕 〔勤〕　新島学園女子短期大学		
理　　事	青木　真	〔自〕 〔勤〕　上越教育大学		
理　　事	吉野みね子	〔自〕 〔勤〕　東京女子体育大学		
理　　事	笠原　敏裕	〔自〕 〔勤〕　学習院大学		
理　　事	矢澤　久史	〔自〕 〔勤〕　東海女子大学		
理　　事	山本　英弘	〔自〕 〔勤〕　朝日大学		
理　　事	青井　　誠	〔自〕 〔勤〕　名古屋明徳短期大学		
理　　事	宇田　雅宏	〔自〕 〔勤〕　中京大学		
評 議 員	但尾　哲哉	〔自〕 〔勤〕　神戸親和女子大学		
理　　事	児玉　公正	〔自〕 〔勤〕　大谷女子大学		
理　　事	中村　哲士	〔自〕 〔勤〕　武庫川女子大学		
理　　事	萩尾　健甫	〔自〕 〔勤〕　広島修道大学		
理　　事	小林　宏行	〔自〕 〔勤〕　岡山理科大学		
理　　事	川田　健司	〔自〕 〔勤〕		
理　　事	藤本　賢一	〔自〕 〔勤〕　四国大学		
理　　事	中里　　眞	〔自〕 〔勤〕　九州産業大学		
理　　事	吉末　和也	〔自〕 〔勤〕　園田学園女子大学		

職　名	氏　　名	（上）自宅住所　（下）勤務先	TEL	FAX
評 議 員	吉武　敦麿	〔自〕		
		〔勤〕　芝浦工業大学		
評 議 員	鈴木　昭寿	〔自〕		
		〔勤〕　東海大学		
評 議 員	丸山　克俊	〔自〕		
		〔勤〕　東京理科大学		
評 議 員	友坂　敏信	〔自〕		
		〔勤〕　富山大学		
評 議 員	後田　忠勝	〔自〕		
		〔勤〕　名古屋明徳短期大学		
評 議 員	佐多　直温	〔自〕		
		〔勤〕　愛知大学		
評 議 員	秦　真人	〔自〕		
		〔勤〕　愛知学泉大学		
評 議 員	廣田　真史	〔自〕		
		〔勤〕　名古屋大学		
評 議 員	真来　省二	〔自〕		
		〔勤〕　大阪府立大学		
評 議 員	土倉　莞爾	〔自〕		
		〔勤〕　関西大学		
評 議 員	松村　新也	〔自〕		
		〔勤〕　大阪体育大学		
評 議 員	長澤　幸一	〔自〕		
		〔勤〕　東亜大学		
評 議 員	荒牧昭二郎	〔自〕		
		〔勤〕　九州東海大学		
評 議 員	新垣　　實	〔自〕		
		〔勤〕　沖縄国際大学		
評 議 員	吉村　　清	〔自〕		
		〔勤〕　琉球大学		
評 議 員	上江州　剛	〔自〕		
		〔勤〕　名桜大学		
監　　事	藤井　立三	〔自〕		
		〔勤〕　明星大学		
監　　事	平野　義明	〔自〕		
		〔勤〕　大阪工業大学		

事 務 局	〒670-0092　姫路市新在家本町1-1-12　姫路工業大学　環境人間学部 E-mail：suei@hept.himeji-tech.ac.jp	0792-92-1515	0792-93-5710

平成13年度全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿

地　区	氏　　名	(上) 連絡先　(下) 所属大学・Mail Adress	携　帯	ＴＥＬ
委員長 東　京	窪田　　淳	成蹊大学		
関　東	三澤　直樹	高崎経済大学		
副委員長 東　京	文随　道雄	明星大学		
副委員長 東　海	内田　悦子	静岡大学		
副委員長 近　畿	吉田　光晴	関西大学		
関　東	西谷　憲二	東京理科大学		
関　東	濱中しづか	東海大学		
東　京	伊藤　大輔	東京大学		
東　京	小林　京子	日本女子体育大学		
東　京	田口　瑞貴	桜美林大学		
東　海	三宅　　敦	愛知教育大学		
東　海	山下　瑠美	常葉学園大学		
東　海	倉知由加利	桜花学園大学		
近　畿	高村慎一郎	関西大学		
近　畿	山本美沙子	園田学園女子大学		
近　畿	中村美智子	武庫川女子大学		

平成13年度　男子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地　　区	数	加　盟　大　学　名
北海道・東北	8	八戸工業大学　仙台大学　盛岡大学　福島大学　東北大学 宮城教育大学　日本大学工学部　弘前大学
関　　東	20	都留文科大学　山梨学院大学　茨城大学　高崎経済大学 群馬大学 日本大学生物資源科学部　芝浦工業大学　城西大学 獨協大学　千葉大学 東京理科大学 埼玉大学　東海大学 国際武道大学　筑波大学　明海大学　関東学園大学 東京国際大学　文教大学　中央学院大学
北　信　越	8	長野大学　信州大学　富山大学　福井大学　富山国際大学 金沢大学　福井県立大学 敦賀短期大学
東　　京	24	日本体育大学　国士舘大学　早稲田大学　学習院大学　中央大学 東京学芸大学　東京大学　明治大学　東洋大学　慶應義塾大学 専修大学　日本歯科大学　東京経済大学　帝京大学　桜美林大学 日本大学　成蹊大学　杏林大学　武蔵工業大学　一橋大学 国際基督教大学　明星大学　文教大学情報国際学部 東京農業大学
東　　海	14	中京大学　名古屋大学　愛知大学　愛知学院大学　南山大学 愛知教育大学　常葉学園大学　名城大学　岐阜聖徳学園大学 静岡大学　岐阜経済大学　朝日大学　日本福祉大学 愛知みずほ大学
近　　畿	24	京都産業大学　同志社大学　京都大学　関西大学　立命館大学 奈良教育大学　龍谷大学　大阪大学　仏教大学　大阪市立大学 神戸大学　関西学院大学　四天王寺国際仏教大学　大阪工業大学 大阪府立大学　和歌山大学　神戸学院大学　大阪経済法科大学 大阪体育大学　姫路工業大学　兵庫教育大学　京都学園大学 大阪経済大学　甲南大学
中　　国	13	広島修道大学　広島経済大学　広島大学　岡山大学　東亜大学 岡山理科大学　広島工業大学　岡山商科大学　近畿大学工学部 広島県立大学　鳥取大学　福山平成大学　山口大学工学部
四　　国	9	四国学院大学　香川大学　徳島大学　愛媛大学　松山大学 高知大学　四国大学　高松大学　高知工科大学
九　　州	22	福岡大学　九州産業大学　九州大学　西南学院大学　琉球大学 産業医科大学　第一経済大学　九州東海大学　熊本学園大学 沖縄国際大学　日本文理大学　福岡工業大学　第一工業大学 大分医科大学　西日本工業大学　鹿児島国際大学　九州共立大学 宮崎産業経営大学　長崎県立大学　久留米工業大学　名桜大学 佐賀大学

平成13年度　女子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地　　区	数	加　盟　大　学　名
北海道・東北	7	仙台大学　盛岡大学　宮城教育大学　盛岡大学短期大学部 東北福祉大学　北海道浅井学園大学短期大学部　弘前大学
関　　東	11	都留文科大学　文教大学　相模女子大学　東海大学　千葉大学 筑波大学　日本大学生物資源科学部　新島学園女子短期大学 順天堂大学　淑徳大学 千葉経済大学短期大学部
北　信　越	5	長野大学　信州大学　富山大学　金沢大学　上越教育大学
東　　京	15	日本体育大学　東京女子体育大学　日本女子体育大学　中央大学 東京学芸大学　学習院大学　国士舘大学　早稲田大学　専修大学 桜美林大学　日本大学　創価大学　明星大学　明治大学 成蹊大学
東　　海	16	中京大学　中京女子大学　静岡大学　常葉学園大学　名古屋大学 岐阜聖徳学園大学　南山大学　愛知教育大学　東海女子大学 桜花学園大学　名古屋明徳短期大学　東海学園大学　名城大学 中京学院大学　日本福祉大学　静岡産業大学
近　　畿	18	園田学園女子大学　武庫川女子大学　立命館大学　大阪体育大学 神戸大学　龍谷大学　大阪国際女子大学　大谷女子大学 仏教大学　兵庫教育大学　大阪成蹊女子短期大学　奈良教育大学 神戸親和女子大学　京都女子大学　関西外国語大学　天理大学 大阪府立大学　四天王寺国際仏教大学
中　　国	7	広島大学　岡山大学　岡山理科大学　鳥取短期大学　鳥取大学 中国短期大学　川崎医療福祉大学
四　　国	5	香川大学　徳島大学　高知大学　四国大学　愛媛女子短期大学
九　　州	5	福岡大学　九州女子大学　沖縄国際大学　九州産業大学 名桜大学

男　子　141大学
女　子　85大学
合　計　226大学　　平成13年12月10日現在

編　集　後　記

21世紀最初の**ウインドミル**をお届けいたします。第４号では誌面の統一性を求めたものの、不十分さが目立ち、校正ミスもたくさんありました。今回はそのようなことがないよういっそう努力したつもりですが、いかがだったでしょうか。

ところで、前号のここで男子のソフトボールについて若干述べさせていただきましたが、それについて当学連の大先輩であるおふたりから特別寄稿をいただきました。実績のあるおふたりだけに、文字の端々からもその重みを感じるのは私たちだけではないと思います。学生諸君・諸姉には、今ソフトボールができることの喜びとそれへの感謝の気持ちをいつも忘れないで欲しいと思います。

また、本号ではインカレの記録に関する部分を(財)日本ソフトボール協会記録委員会のご協力を得て、充実させました。各地区の大会情報も、その事務局のご協力を得て極力掲載するように務めていますが、関東地区の新設された秋季大会については掲載することができませんでした。お詫びいたします。

今後は、学生委員会を中心とする学生自身の活動にも注目し、学生諸君・諸姉からの寄稿・投稿をお願いして、編集後記といたします。

広報記録委員会：水谷　博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）

表紙写真：第36回文部科学大臣杯全日本大学男子ソフトボール選手権大会
撮　　影：山本英弘（学連広報記録委員・朝日大学）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌　*ウインドミル*　第５号

2001年12月25日発行

発　行　者　　全日本大学ソフトボール連盟　会長　大内　敬哉

編集責任者　　広報記録委員長　水谷　博

E-mail：mztn@chujo-u.ac.jp

発　行　所　　全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092　兵庫県姫路市新在家本町１－１－12

姫路工業大学気付

ＦＡＸ　（０７９２）９３－５７１０

E-mail：suei@hept.himeji-tech.ac.jp

印　　刷　　西濃印刷㈱

〒500-8074　岐阜市七軒町15番地

ＴＥＬ　（０５８）２６３－４１０１

ＩＳＳＮ　１３４３－４３９Ｘ

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。

ケンコーソフトボール
（革製/3号球）
財日本ソフトボール協会検定球

健康コミュニティを創造する
ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION

naigai

いま、熱いドラマが始まる。

白球が青空に舞う。音が消え時間が止まる。
おとずれるクライマックス。どよめきが起こり、
ためいきがもれる。
一球に笑い、一球に泣く、ホットなドラマ。
naigaiのボールは、永年の経験が
うみだす信頼のブランド。品質に対する情熱の
ドラマがいきづく一球です。
ガンバレ！白球ドラマの主人公たち。

NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ

NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

ウインドミル　No. 5　（２００１）
ＩＳＳＮ　１３４３－４３９Ｘ